

市川市
子どもの生活状況に関する実態調査報告書
【概要版】

令和5年3月

市 川 市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	2
6	調査結果の表示方法	3
7	貧困に関する説明	3
8	調査項目一覧	4
	小学生用調査	4
	中学生用調査	6
	保護者用調査	8
	庁内関係機関調査	11
	外部支援機関調査	12
II	アンケート調査結果	14
II-1	小・中学生調査	14
	○学校の授業以外での勉強方法について	14
	○学校の授業以外での勉強時間について	15
	○授業の理解度について	17
	○進学について	18
	○家庭や家族のお世話について	22
	○食のとり方について	26
	○自分について	29
II-2	保護者調査票（生活困窮世帯と一般層の比較）	37
	○家族の状況について	37
	○離婚による養育費の取り決めについて	45
	○親の卒業・修了、就労状況について	46
	○お子さんとの関わりについて	52
	○お子さんの将来的な進学について	54

○相談相手について	57
○自身について	60
○子育て支援に関する事業・施策について	63
Ⅲ 資源量調査結果	73
外部支援機関調査・庁内関係機関調査	73
○貧困状況にある子どもの家庭に多くある困難な状況について	73
○貧困状況にある家庭への支援について	75

I 調査の概要

1 調査の目的

子育て世帯等への施策に役立てることを目的とした小学5年生、中学2年生の子どもとその保護者を対象に、生活状況や子どもの様子、学校生活等についてのアンケート調査を実施した。

また、子どもや家庭に対する必要な支援の検討を目的として、支援機関等を対象に貧困状況にある子どもや家庭の現状・課題についてのアンケート調査を実施した。

2 調査対象

①子どもの生活状況に関する実態調査

小学生用調査：小学5年生

中学生用調査：中学2年生

保護者用調査：小学5年生または中学2年生の子どもがいる親

②資源量調査

母子父子自立支援員、家庭相談員、公立保育園、公立幼稚園、放課後保育クラブ、放課後子ども教室、ライフカウンセラー、こども食堂、学習支援団体、母子生活支援施設 等

3 調査期間

①子どもの生活状況に関する実態調査

令和4年11月4日～令和4年12月2日

②資源量調査

令和5年1月

4 調査方法

①子どもの生活状況に関する実態調査

小学生・中学生・保護者用調査：学校配付・学校回収方式

②資源量調査

インターネットフォームによる回答

5 回収状況

①子どもの生活状況に関する実態調査

	配布数	有効回答数	有効回答率
小学生用調査	1,500 通	1,208 通	80.5%
中学生用調査	1,700 通	1,325 通	77.9%
保護者用調査	3,200 通	2,445 通	76.4%

②資源量調査

依頼業種	配布数	有効回答数	有効回答率
24 業種	179 通	91 通	50.8%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを網かけしています。（無回答を除く）
- ・特徴がみられる部分については、で囲みコメントしています。
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。

7 貧困に関する説明

貧困の代表的な定義には、所得額が、人間が生きるために必要な最低限の生活水準を維持するのに満たない状態を示す「絶対的貧困」と、所得額が一定の国や地域における平均的な生活水準に満たない状態を示す「相対的貧困」という2つの種類があります。

子どもの貧困の状況を把握するために、本調査では相対的貧困率を用います。OECD（経済協力開発機構）では、「世帯の所得を世帯人数で調整して算出した等価可処分所得（1人当たりの所得）が、貧困線（等価可処分所得の中央値の2分の1）に満たない」割合を、相対的貧困率としています。

本調査においては、世帯年収についての質問の回答より等価可処分所得を算出し、その所得が厚生労働省「国民生活基礎調査」から算出される基準（世帯所得の中央値を平均世帯人数の平方根で除した値の50%未満＝127万円）に満たない世帯を「生活困窮世帯」とし、3段階に分類しました。

生活困窮世帯	周辺層	一般層
127万円未満	127万円～254万円未満	254万円以上

8 調査項目一覧

小学生用調査

問	設問文
問 1	あなたの性別を教えてください。(あてはまるもの 1 つに○)
問 2	あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。 ※勉強には学校の宿題もふくみます。(あてはまるものすべてに○)
問 3	あなたは、ふだん学校の授業以外に、1 日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。 ※ 学校の宿題をする時間や、塾などでの勉強時間もふくみます。(a, b それぞれについてあてはまるもの 1 つに○)
問 4	あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。(あてはまるもの 1 つに○)
問 5	あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(あてはまるもの 1 つに○)
問 6	前の質問で「教科によってはわからないことがある」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」と答えた人にお聞きします。いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。(あてはまるもの 1 つに○)
問 7	あなたは、将来、どの学校に進学したいですか。(あてはまるもの 1 つに○)
問 8	前の質問で「中学」～「その他」と答えた場合、その理由を教えてください。 (あてはまるものすべてに○)
問 9	ふだんからあなたがしている家庭や家族のお世話についてお聞きします。
- A	あなたは家族のお世話を日常的にしていますか。(あてはまるもの 1 つに○)
- B	あなたが行っているお世話の内容を教えてください。(あてはまるものすべてに○)
- C	どれくらいお世話をしていますか。(あてはまるもの 1 つに○)
- D	ふだん(月曜日から金曜日)に、1 日のお世話はどのくらい行っていますか。(あてはまるもの 1 つに○)
問 10	あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していますか。(あてはまるもの 1 つに○)
問 11	前の質問で「参加していない」と答えた人にお聞きします。参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)
問 12	あなたは週にどのくらい、食事をしていますか。(a～c それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)

問 13	あなたはうちの大人のひと、次のようなことをどのくらいしていますか（a, b それぞれについて、あてはまるもの1つに○）
問 14	あなたは、給食を除いて、以下の食べ物をふだんのくらい食べますか（a～f それぞれについて、あてはまるもの1つに○）
問 15	あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）、ほぼ同じ時間に寝ていますか。（あてはまるもの1つに○）
問 16	あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）、ほぼ同じ時間に起きていますか。（あてはまるもの1つに○）
問 17	あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）、ほぼ同じ時間に食事をしていますか。（あてはまるもの1つに○）
問 18	あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。（あてはまるものすべてに○）
問 19	全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0」（まったく満足していない）から「10」（十分に満足している）の数字で教えてください。（あてはまるもの1つに○）
問 20	以下のそれぞれの質問について、「あてはまらない」「まああてはまる」「あてはまる」のどれかから回答してください。答えに自信がなくても、あるいは、その質問がばからしいと思えたとしても、全部の質問に教えてください。あなたのここ半年くらいのことを考えて教えてください。（a～o それぞれについて、あてはまるもの1つに○）
問 21	あなたの現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校になる前（2020年2月以前）と比べて、どのように変わったと思いますか。（a～g それぞれについて、あてはまるもの1つに○）
問 22	あなたは今までに、以下のようなことがありましたか。（あてはまるものすべてに○）
問 23	あなたは、次の a～d のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いますか。（a～d それぞれについて、あてはまるもの1つに○）
問 24	前の質問で、1つでも「利用したことがある」と答えた方にお聞きします。そこを利用したことで、以下のような変化がありましたか。（あてはまるものすべてに○）

中学生用調査

問	設問文
問 1	あなたの性別を教えてください。(あてはまるもの 1 つに○)
問 2	あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。 ※勉強には学校の宿題もふくみます。(あてはまるものすべてに○)
問 3	あなたは、ふだん学校の授業以外に、1 日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。 ※ 学校の宿題をする時間や、塾などでの勉強時間もふくみます。(a, b それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)
問 4	あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。(あてはまるもの 1 つに○)
問 5	あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(あてはまるもの 1 つに○)
問 6	前の質問で「教科によってはわからないことがある」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」と答えた人にお聞きします。いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。(あてはまるもの 1 つに○)
問 7	あなたは、塾や習い事に通っていますか。(あてはまるもの 1 つに○)「行きたいと思うが通っていない」と回答した場合、その理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)
問 8	あなたは、将来、どの学校に進学したいですか。(あてはまるもの 1 つに○)
問 9	前の質問で「高校」～「その他」と答えた場合、その理由を教えてください。 (あてはまるものすべてに○)
問 10	普段からあなたがしている家庭や家族のお世話についてお聞きします。
- A	あなたは家族のお世話を日常的にしていますか。(あてはまるもの 1 つに○)
- B	あなたが行っているお世話の内容を教えてください。(あてはまるものすべてに○)
- C	どれくらいお世話をしていますか。(あてはまるもの 1 つに○)
- D	ふだん(月曜日から金曜日)に、1 日のお世話はどのくらい行っていますか。(あてはまるもの 1 つに○)
問 11	あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していますか。(あてはまるもの 1 つに○)
問 12	前の質問で「参加していない」と答えた人にお聞きします。参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

問 13	あなたは週にどのくらい、食事をしていますか。(a～c それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)
問 14	あなたはうちの大人のひとと、次のようなことをどのくらいしていますか (a, b それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)
問 15	あなたは、給食を除いて、以下の食べ物をふだんどのくらい食べますか (a～f それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)
問 16	あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時間に寝ていますか。(あてはまるもの 1 つに○)
問 17	あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時間に起きていますか。(あてはまるもの 1 つに○)
問 18	あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時間に食事をしていますか。(あてはまるもの 1 つに○)
問 19	あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。(あてはまるものすべてに○)
問 20	全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0」(まったく満足していない) から「10」(十分に満足している) の数字で教えてください。(あてはまるもの 1 つに○)
問 21	以下のそれぞれの質問について、「あてはまらない」「まああてはまる」「あてはまる」のどれかから回答してください。答えに自信がなくても、あるいは、その質問がばからしいと思えたとしても、全部の質問に答えてください。あなたのここ半年くらいのことを考えて答えてください。(a～o それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)
問 22	あなたの現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校になる前(2020 年 2 月以前)と比べて、どのように変わったと思いますか。(a～g それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)
問 23	あなたは今までに、以下のようなことがありましたか。(あてはまるものすべてに○)
問 24	あなたは、次の a～d のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いますか。(a～d それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)
問 25	前の質問で、1 つでも「利用したことがある」と答えた方にお聞きします。そこを利用したことで、以下のような変化がありましたか。(あてはまるものすべてに○)

保護者用調査

問	設問文
問 1	お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた続柄でお答えください。(あてはまるもの1つに○)
問 2	お子さんと同居し、生計を同一にしているご家族の構成と人数をお答えください。単身赴任中の方や学業のために世帯を離れているお子さんがいる場合には、ご家族の人数に含めて教えてください。(a～hそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)
問 3	お子さんの親の現在の年齢についてお答えください。(令和4年4月1日時点)(母親・父親それぞれについて数字で回答、いない場合やわからない場合は「－」と記入)
問 4	お子さんのご家族のうち、現在単身赴任中の方はいらっしゃいますか。(あてはまるものすべてに○)
問 5	お子さんと同居し、生計を同一にしている親の婚姻状況を教えてください。(あてはまるもの1つに○)
問 6	前問で「離婚」を選んだ場合、離婚相手と子どもの養育費の取り決めをしていますか。また養育費を現在受け取っていますか。(あてはまるもの1つに○)
問 7	ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。(あてはまるもの1つに○)
問 8	お子さんの親が卒業・修了した学校をお答えください。(a, bそれぞれについて、あてはまるものひとつに○)
問 9	お子さんの親の就労状況について、あてはまるものを回答してください。(a, bそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)
問 10	前の質問で「働いていない」と答えた場合、働いていない最も主な理由を教えてください。(a, bそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)
問 11	お子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの(期間が長いもの)をお答えください。(あてはまるもの1つに○)
問 12	お子さんが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの(期間が長いもの)をお答えください。(あてはまるもの1つに○)
問 13	あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。(a～dそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

問 14	あなたは、次のようなことをどの程度していますか。(a, b それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)
問 15	お子さんは将来、現実的に見てどの学校に進学すると思いますか。(あてはまるものひとつに○)
問 16	前問で「中学」～「その他」と答えた場合、その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)
問 17	あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。(a～c それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○) また、「頼れる人がいる」場合、それはだれですか。(あてはまるものすべてに○)
問 18	あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。(あてはまるもの 1 つに○)
問 19	世帯全体のおおよその年間収入(税込)はいくらですか。(あてはまるもの 1 つに○) ※2021 年の年間収入についてお答えください。
問 20	あなたの世帯では、過去 1 年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。(あてはまるもの 1 つに○)
問 21	あなたの世帯では、過去 1 年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。(あてはまるもの 1 つに○)
問 22	あなたの世帯では、過去 1 年の間に、以下の料金について、経済的な理由で未払いになったことがありましたか。(あてはまるものすべてに○)
問 23	次の a)～f)の質問について、この 1 か月間のあなたの気持ちについてお伺いします。(a～f それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)
問 24	全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0」(まったく満足していない) から「10」(十分に満足している) の数字で教えてください。(あてはまるもの 1 つに○)
問 25	あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前(2020 年 2 月以前) から比べて、どのように変わりましたか。(a～f それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)
問 26	以下の、子育て支援に関する事業について知っていますか。(a～c それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)

問 27	あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。(a～e それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○) また、「利用したことがない」場合、その理由は何ですか。(あてはまるもの 1 つに○)
問 28	あなたが現在必要としていることで、重要だと思う支援等はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)
問 29	あなたが必要な支援を受けるために重要だと思うことを教えてください。(あてはまるものすべてに○)
問 30	あなたは、子育てに関する情報をどこから手に入れますか。(あてはまるものすべてに○)
問 31	毎日の生活で困っていること、相談したいことなど自由にお書き下さい。

庁内関係機関調査

問	設問文
問 1	あなたの所属先を教えてください。
問 2	あなたの職種を教えてください。
問 3	貧困状況にある子どもの家庭に多くある困難な状況は何だと思いますか。(〇は3つまで)
問 4	貧困状況にある子どもの家庭に多くある困難な状況の要因や背景は何だと思いますか。(〇は3つまで)
問 5	貧困状況にある子どもが多く陥る困難な状況として、考えられるものは何ですか。(〇は3つまで)
問 6	貧困状況にある子どもはどのような項目において問題を抱えていることが多いと思いますか。(〇は3つまで)
問 7	貧困状況にある子どもに対する学習支援として、どのような仕組みや支援が必要だと思いますか。(〇は3つまで)
問 8	支援の対象は子どもですか、保護者ですか。(〇は1つ)
問 9	あなた（あなたの所属機関）が行っている支援内容を教えてください。
問 10	日頃、支援を行っているなかで、足りていないと思うところを教えてください。(代表的なもの1つ)
問 11	あなたは、普段、貧困状況にある子どもの支援をする際に他の部署・機関・団体とどのくらい連携することがありますか。(〇は1つ)
問 12	連携することが多い部署・機関・団体をお答えください。(〇はいくつでも)
問 13	連携して支援をするうえで、課題となることは何ですか。(〇はいくつでも)
問 14	貧困状況にある子どもや親を支援する際に、工夫していることや心がけていることがあれば、自由に記述してください。
問 15	これまでのご経験の中で、貧困の状況にある子どもが改善に向かったケースがあれば、自由に記述してください。
問 16	コロナ以前と、現在で、貧困の状況にある子どもや親の生活状況は変化していますか。また、変化してきているのであれば、どのような変化ですか。
問 17	今後必要な支援施策について、具体的なものがあれば、自由に記述してください。

外部支援機関調査

問	設問文
問 1	所属している機関・団体・施設名を教えてください。
問 2	回答者の職種を教えてください。
問 3	支援している子どもの人数を教えてください。（こどもが貧困状況にあるかどうかは問いません）
問 4	主な活動地域をお聞かせください。
問 5	貧困状況にある子どもの家庭に多くある困難な状況は何だと思えますか（〇は3つまで）
問 6	貧困状況にある子どもの家庭に多くある困難な状況の要因や背景は何だと思えますか。（〇は3つまで）
問 7	貧困状況にある子どもが多く陥る困難な状況として、考えられるものは何ですか。（〇は3つまで）
問 8	貧困状況にある子どもはどのような項目において問題を抱えていることが多いと思えますか。（〇は3つまで）
問 9	貧困状況にある子どもに対する学校外での学習支援として、どのような仕組みや支援が必要だと思えますか。（〇は3つまで）
問 10	あなたは、貧困状況にある子どもや親に対し、どれくらいの頻度でどのような支援を行っていますか。
問 11	問 10 の他、貧困状況にある子どもや親に対し行っている支援の内容・頻度をお聞かせください。
問 12	あなたは、普段、貧困状況にある子どもの支援をする際に他の部署・機関・団体とどのくらい連携（連絡、情報のやり取り等）をすることがありますか。（〇は1つ）
問 13	連携することが多い部署・機関・団体をお答えください。（〇はいくつでも）
問 14	連携して支援をするうえで、課題となることは何ですか。（〇はいくつでも）
問 15	貧困状況にある家庭への支援にあたって、どのような点が困難だと感じていますか。（〇はいくつでも）
問 16	貧困状況にある子どもや親を支援する際に、工夫していることや心がけていることがあれば、自由に記述してください。
問 17	これまでのご経験の中で、貧困の状況にある子どもが改善に向かったケースがあれば、自由に記述してください。

問 18	コロナ以前と、現在で、貧困の状況にある子どもや親の生活状況は変化していますか。また、変化してきているのであれば、どのような変化ですか。
問 19	貧困状況にある子どもや親に対する支援について、今後、市川市に必要な施策は何だと思われますか。(〇はいくつでも)
問 20	前の質問において回答した支援施策について、具体的なものがあれば、自由に記述してください。

Ⅱ アンケート調査結果

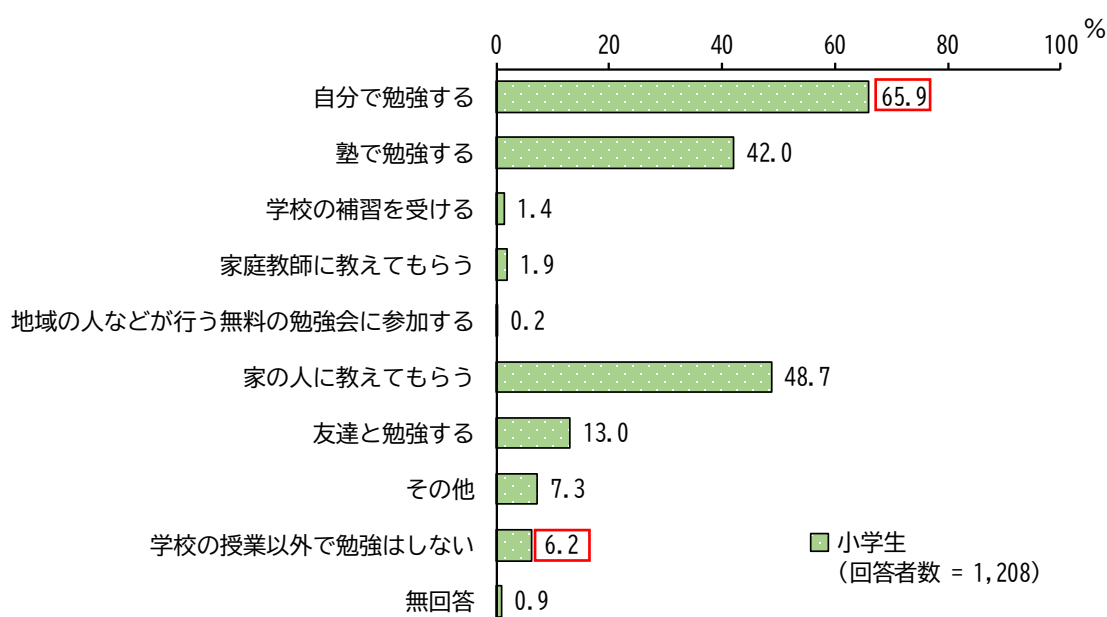
Ⅱ－１ 小・中学生調査

○学校の授業以外での勉強方法について

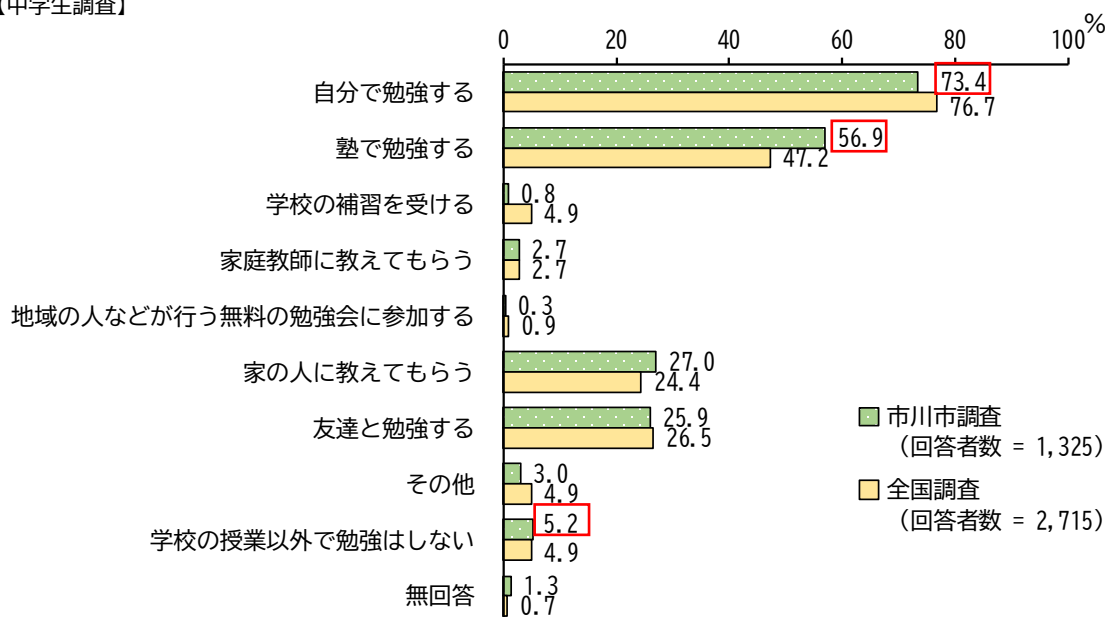
- ・学校の授業以外での勉強方法について、「自分で勉強する」の割合が、小学生では 65.9%、中学生では 73.4%と最も高くなっているものの、「学校の授業以外で勉強はしない」の割合が、小学生で 6.2%、中学生で 5.2%と一定の割合みられます。
- ・中学生調査を全国調査と比べると、「塾で勉強する」の割合が高くなっています。

ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしているか

【小学生調査】



【中学生調査】



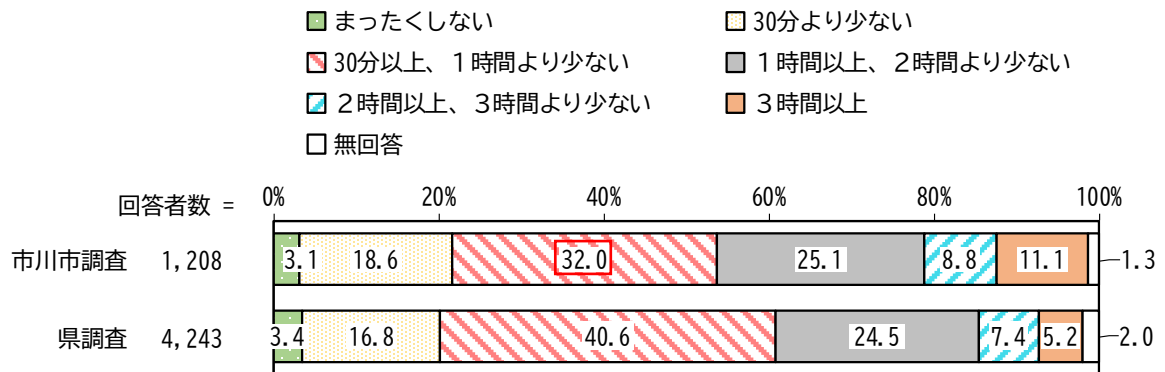
※全国調査：令和３年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和３年 12 月）

○学校の授業以外での勉強時間について

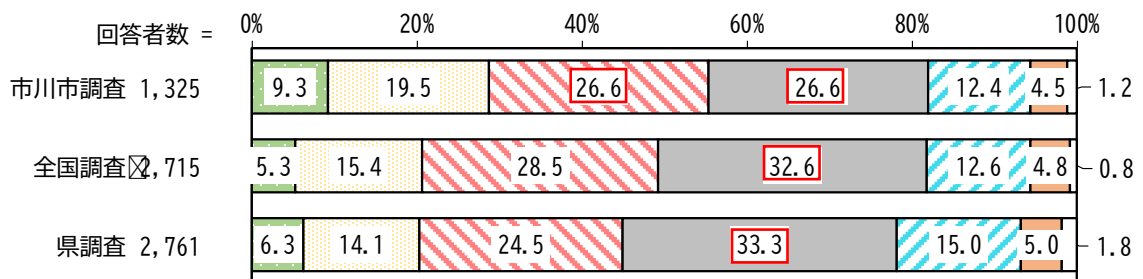
- ・学校がある日（月～金曜日）の勉強時間について、「30分以上、1時間より少ない」の割合が小学生では32.0%と最も高く、「30分以上、1時間より少ない」、「1時間以上、2時間より少ない」の割合が、中学生では26.6%と最も高くなっています。
- ・全国調査・県調査と比較すると、小学生では「30分以上、1時間より少ない」の割合が、中学生では「1時間以上、2時間より少ない」の割合が低く、全国調査、県調査に比べ勉強時間が短くなっています。
- ・また、学校がない日（土・日曜日・祝日）の勉強時間について、「30分以上、1時間より少ない」の割合が、小学生では28.1%、中学生では23.8%と最も高くなっています。
- ・中学生調査を全国調査と比較すると、「1時間以上、2時間より少ない」の割合が低く、全国調査に比べ勉強時間が短くなっています。

学校がある日（月～金曜日）の勉強時間

【小学生調査】



【中学生調査】

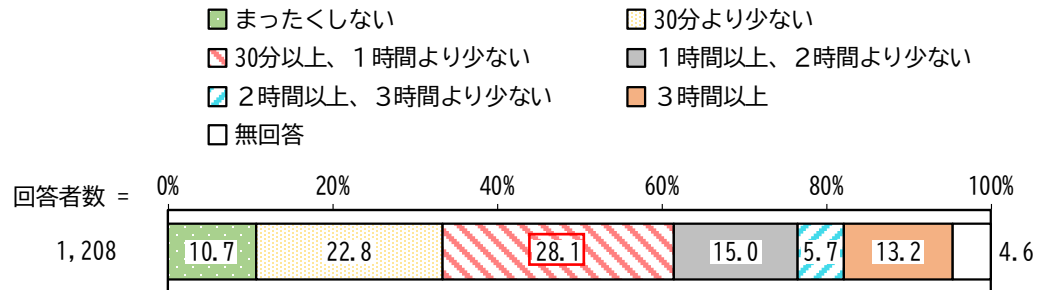


※全国調査：令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和3年12月）

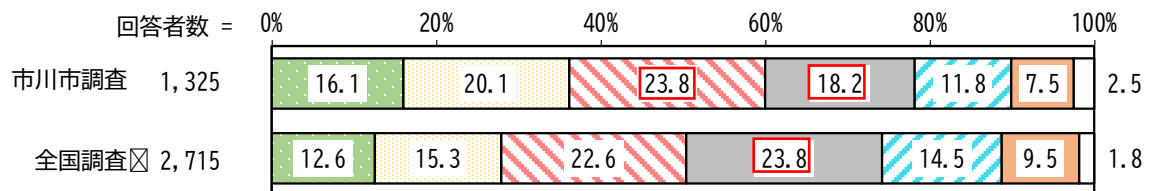
※県調査：千葉県子どもの生活実態調査 報告書（令和元年）

学校がない日（土・日曜日・祝日）の勉強時間

【小学生調査】



【中学生調査】



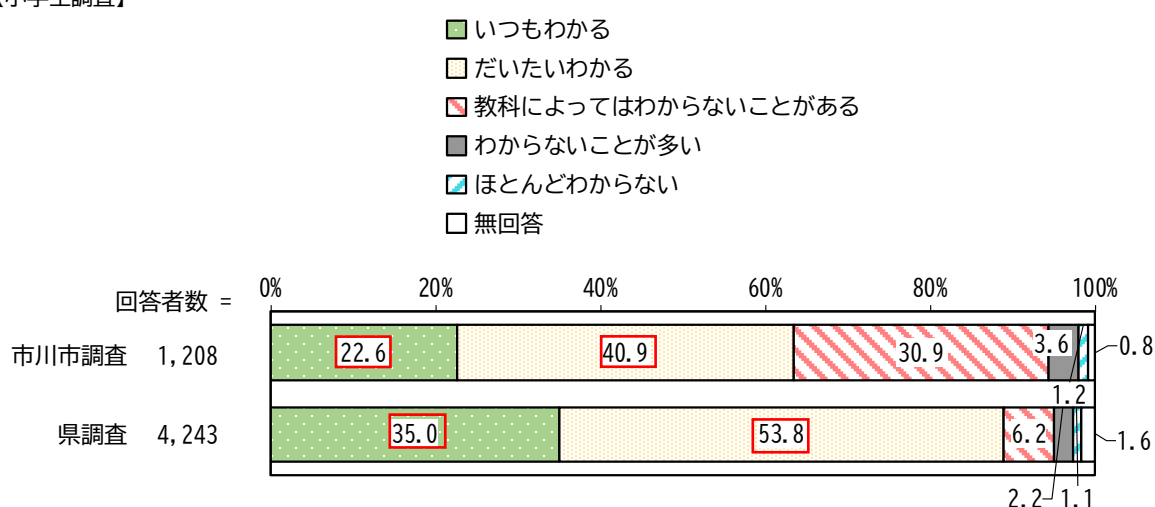
※全国調査：令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和3年12月）

○授業の理解度について

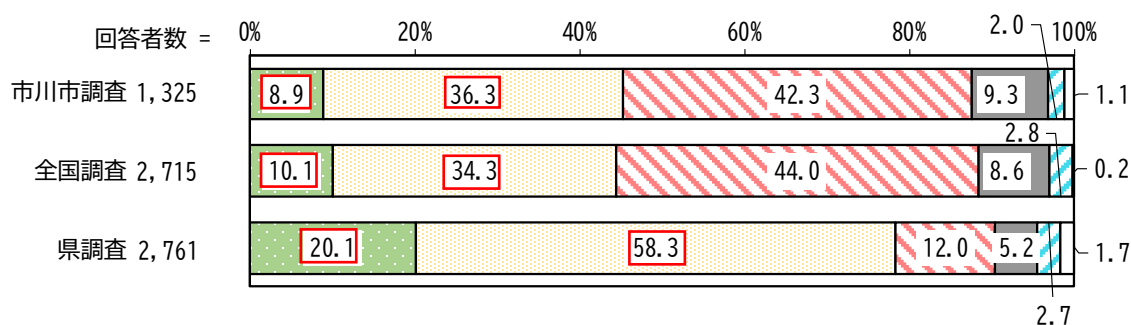
- ・学校の授業がわからないことがあるかについて、「いつもわかる」と「だいたいわかる」をあわせた“わかる”の割合が、小学生では 63.5%、中学生では 45.2%となっています。
- ・小学生調査を県調査と比較すると、県に比べ“わかる”の割合が低くなっています。また、中学生調査を全国調査・県調査と比較すると、全国調査と大きな変化はみられない一方で、県調査に比べ“わかる”の割合が低くなっています。

学校の授業がわからないことがあるか

【小学生調査】



【中学生調査】



※全国調査：令和３年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和３年 12 月）

※県調査：千葉県子どもの生活実態調査 報告書（令和元年）

*県調査では、「教科によってはわからないことがある」は、「あまりわからない」となっています。

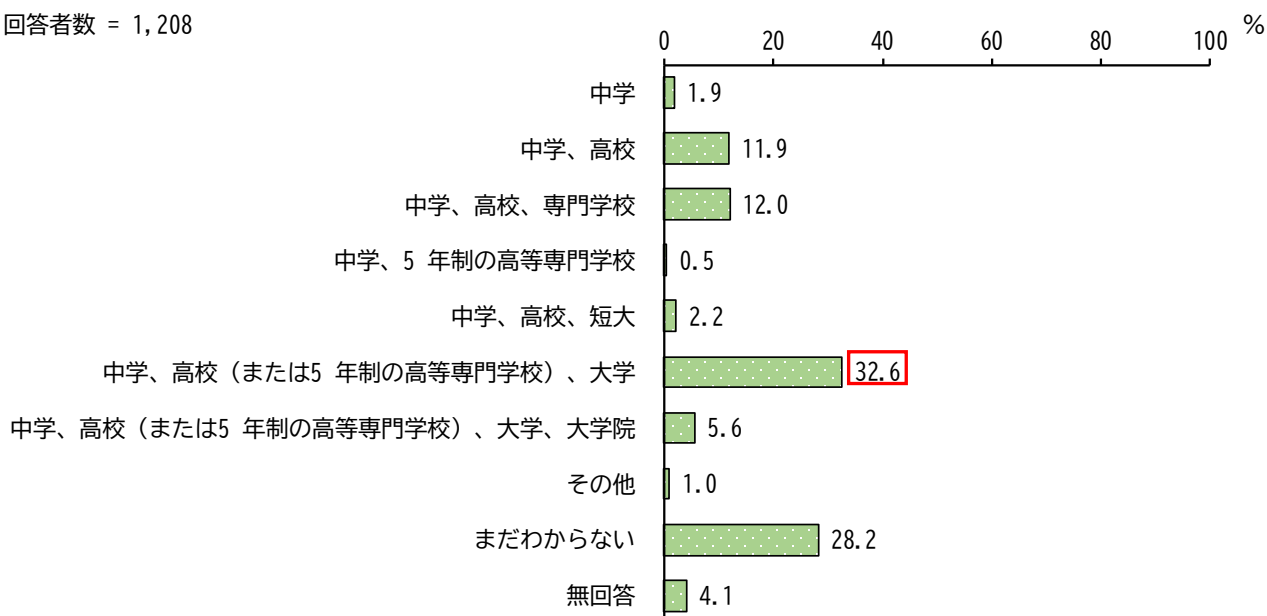
○進学について

- ・将来、どの学校に進学したいかについて、小学生では「中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学」の割合が32.6%、中学生では「高校」の割合が36.7%と最も高くなっており、小学生では大学までの進学を希望しているものの、中学生では大学より高校までの進学希望が高い割合となっています。
- ・また、将来進学を希望する人の、進学したい理由については、「希望する学校や職業があるから」の割合が、小学生では56.1%、中学生では49.2%と最も高くなっている一方で、中学生では「親がそう言っているから」、「兄・姉がそうしているから」「自分の成績から考えて」の割合が小学生に比べ増加しています。
- ・中学生調査を全国調査と比べると、「希望する学校や職業があるから」の割合が低く、「自分の成績から考えて」の割合が高くなっています。

将来、どの学校に進学したいか

【小学生調査】

回答者数 = 1,208

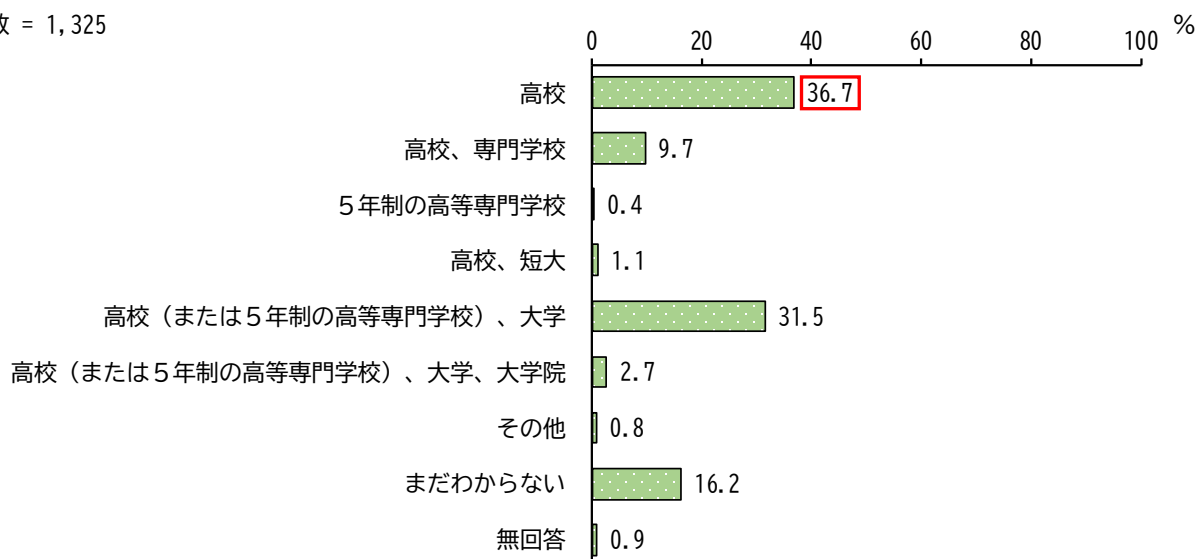


○主なその他意見

- ・中学、高校、大学
- ・あんまり決めてない

【中学生調査】

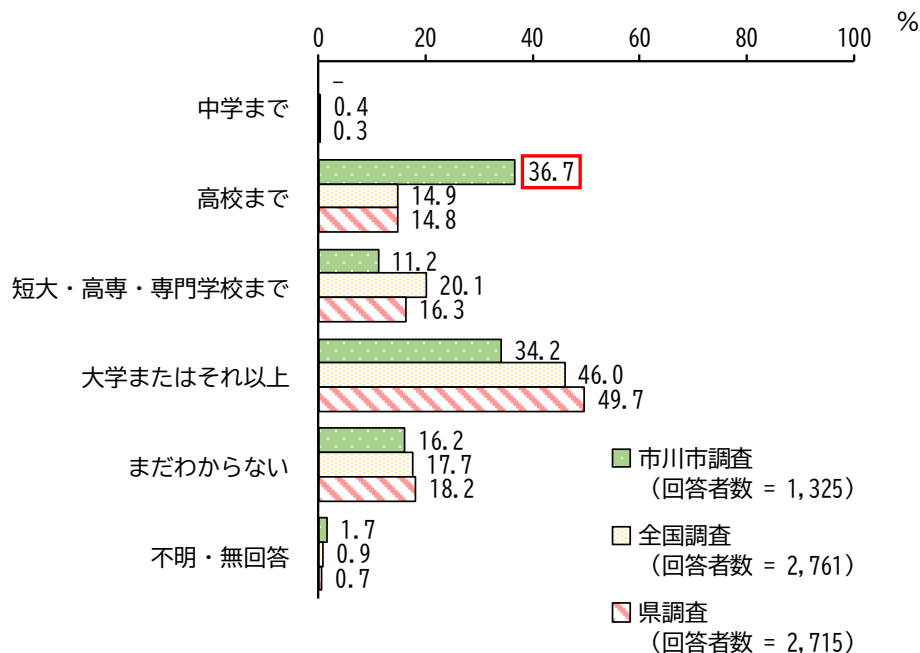
回答者数 = 1,325



○主なその他意見

・韓国の学校 ・通信制高校 ・まだはっきり決めてないけど、ITとか天気についての自分の得意について専門の学校に行きたい など

【中学生調査】 ※選択肢が異なるため参考



※全国調査：令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和3年12月）

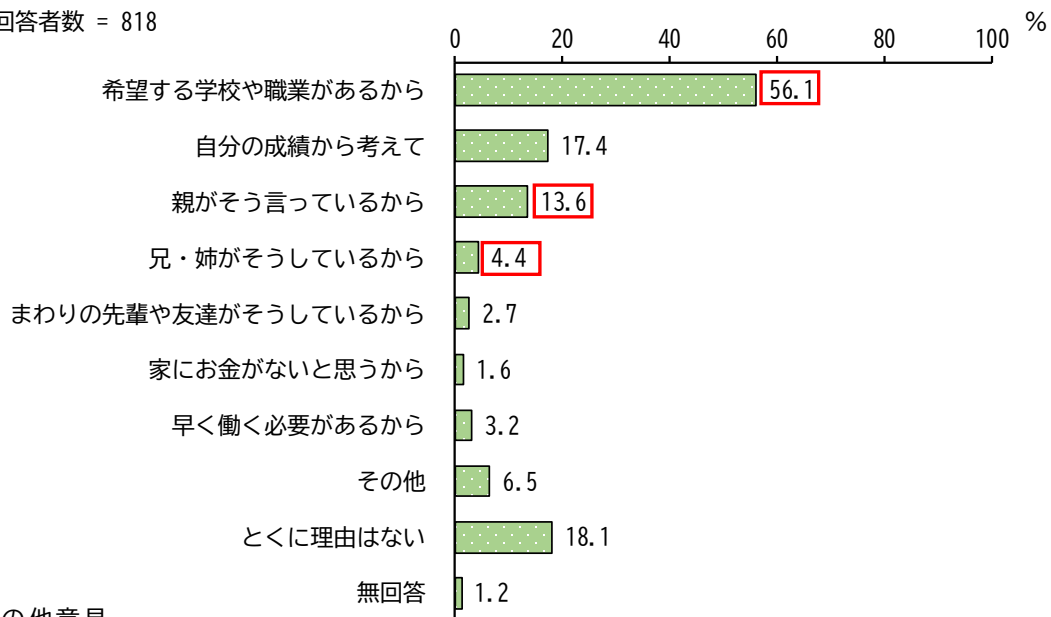
※県調査：千葉県子どもの生活実態調査 報告書（令和元年）

*市川市調査では、「中学まで」の選択肢はありません。また、「その他」、「無回答」の割合を「不明・無回答」に入れています。

進学したい理由

【小学生調査】

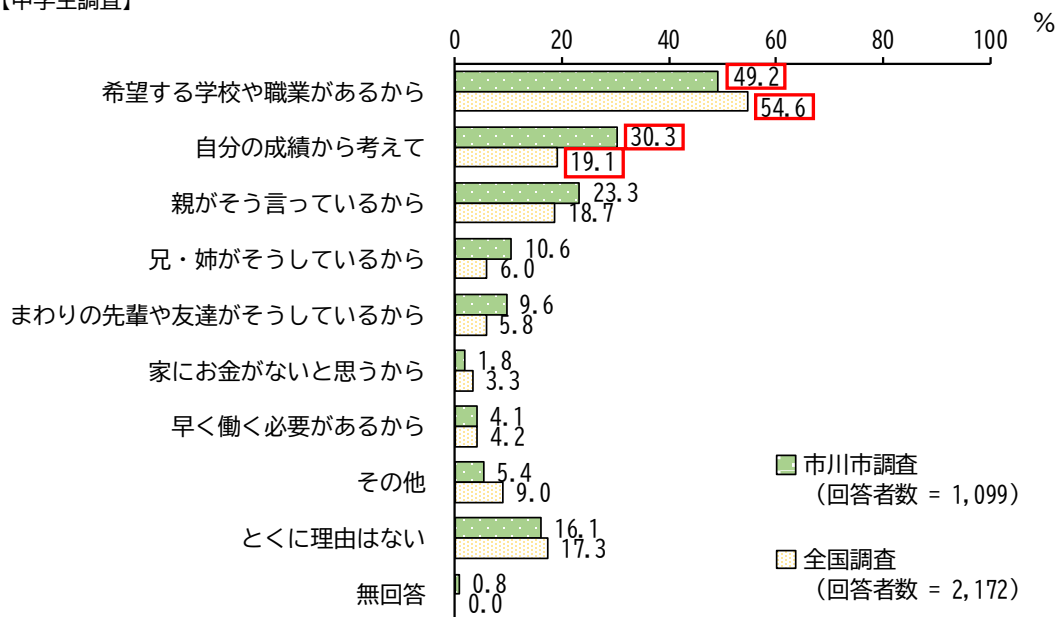
回答者数 = 818



○主なその他意見

・学びたいから・自分や家族がたくさんのお金が必要になったとき、不安だから。・友達をたくさんつくりたいから など

【中学生調査】



○主なその他意見

・やりたいことがあるから・親が行っていたから・就職に有利だから

※全国調査：令和３年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和３年１２月）

子どもの日常生活について

- ・小5の本人について、特定の仲の良い友人というのがおらず、中学に行って大丈夫なのか少し心配です。家と学校以外の場所（習いごとなど）を用意しようとしても本人が希望せず、このまま見守っていたらいいのか、親から働きかけた方がいいのか、悩み中です。このことを本人は、全く気にしておらず、学校は楽しいと通っています。
- ・子どもが学校をこわがって遅れて登校したり、放課後はお迎えを希望しているので、私が仕事につくことができません。

子どもの学びと進学

- ・学習したい気持ちがあるようだが、塾に行かせることが出来ず、子どもたちに申し訳ない気持ちである。無料で行っている学習支援などについて、市のホームページ等でお知らせがあると、子どもにもすすめやすいので、検討して頂きたい。平日はワンオペ状態で上の子に下の子をみてもらい、やりたい事をさせてあげられず、困っている。
- ・家事、仕事に追われる中、子供の宿題のフォローをすると22時近くになることも多い。リモートワークが減って帰宅が19時過ぎの場合、必要な家庭学習のフォローができず、子供の学力の遅れが心配です。

【課題・方向性】

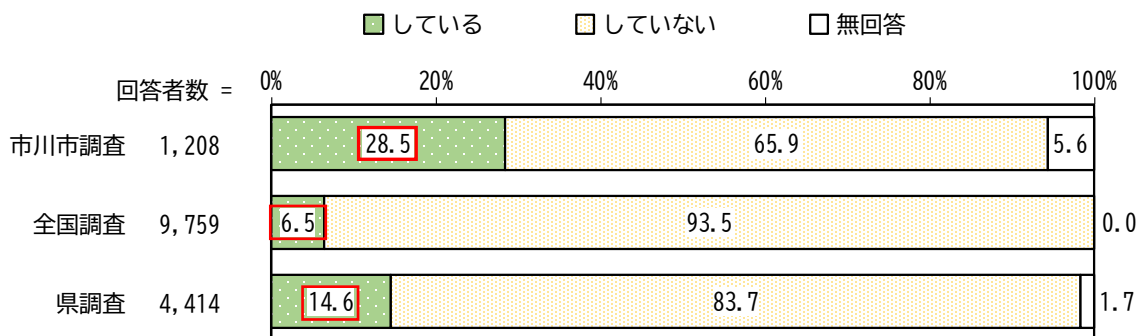
- ・授業以外での勉強時間が全国調査に比べて短く、また授業の理解度も県調査に比べ低くなっていることから、学習習慣の定着と、理解度の向上に向けた取組を進める必要があります。
- ・将来の進学希望については、中学生で、全国調査に比べ大学またはそれ以上の進学希望が低くなっており、希望理由についても「親がそう言っている」、「兄・姉がそうしている」割合が全国より高いことから、家庭の経済的な安定を図るための取組や、進学についての経済的な支援制度の充実・周知等、子どもたちが幅広い選択肢を持つことができるような環境を整えていくことが必要です。

○家庭や家族のお世話について

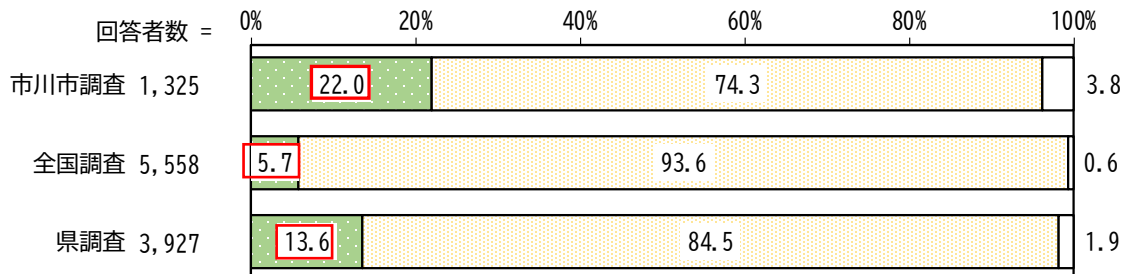
- ・家族のお世話を日常的にしているかについて、「している」の割合が、小学生では 28.5%、中学生では 22.0%となっています。
- ・全国調査・県調査と比較すると、小学生、中学生ともに、「している」の割合が高くなっています。
- ・また、そのお世話の内容は、小学生、中学生ともに、「(食事の準備や掃除・洗濯などの)家事」の割合が最も高く、次いで「(買い物、散歩など)外出の付き添い」の割合が高くなっています。「(声かけや目が離せない家族の)見守り」や「(入浴やトイレのお世話になど)身体的な介護」についても、小学生、中学生ともに、1割から2割近くとなっており、家族の介護・介助をしている現状がうかがえます。
- ・さらに、その頻度も、小学生、中学生ともに、「ほぼ毎日」の割合が3割を超え、費やす時間も、小学生、中学生ともに、「1時間以上」の割合で2割を超えています。
- ・全国調査と比較すると、小学生、中学生ともに、「週に3～5日」「週に1～2日」の割合が高くなっています。また、「ほぼ毎日」の割合が低くなっています。

家族のお世話を日常的にしているか

【小学生調査】



【中学生調査】

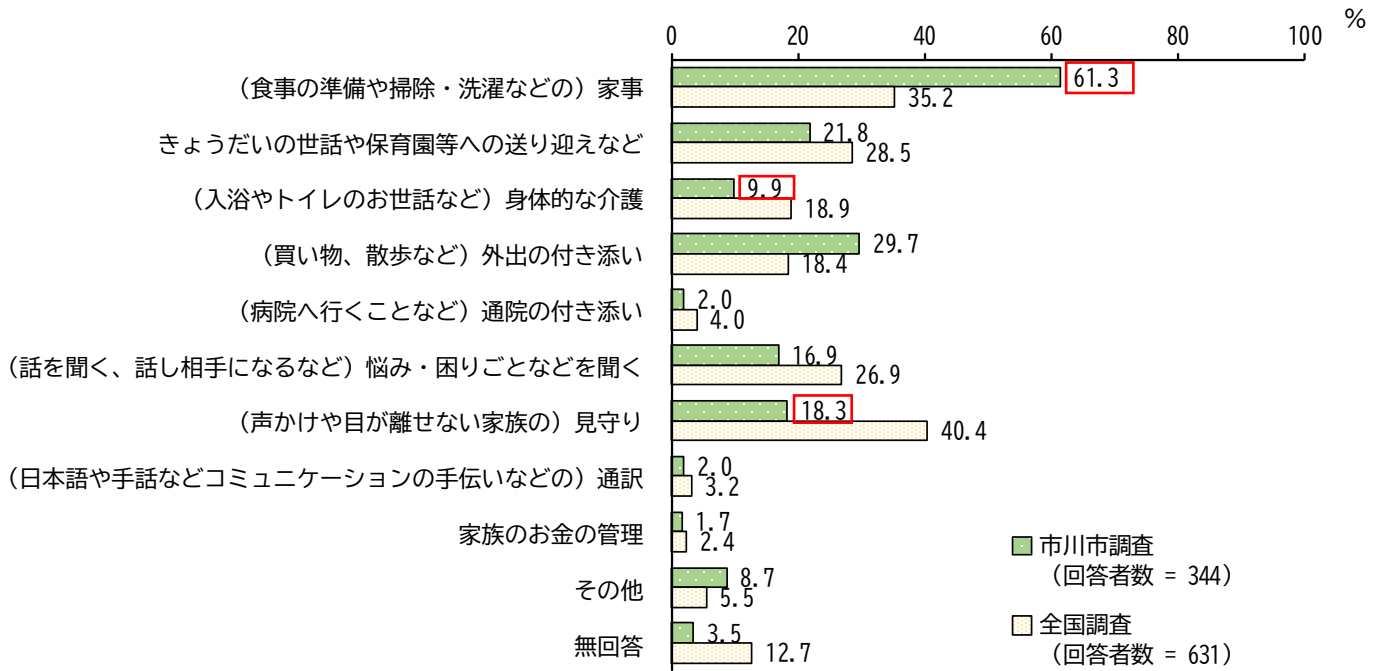


※全国調査：ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書（小学生：令和4年3月、中学生：令和3年3月）

※県調査：ヤングケアラーの実態調査とその支援に関する調査研究報告書（令和5年3月）

行っているお世話の内容

【小学生調査】

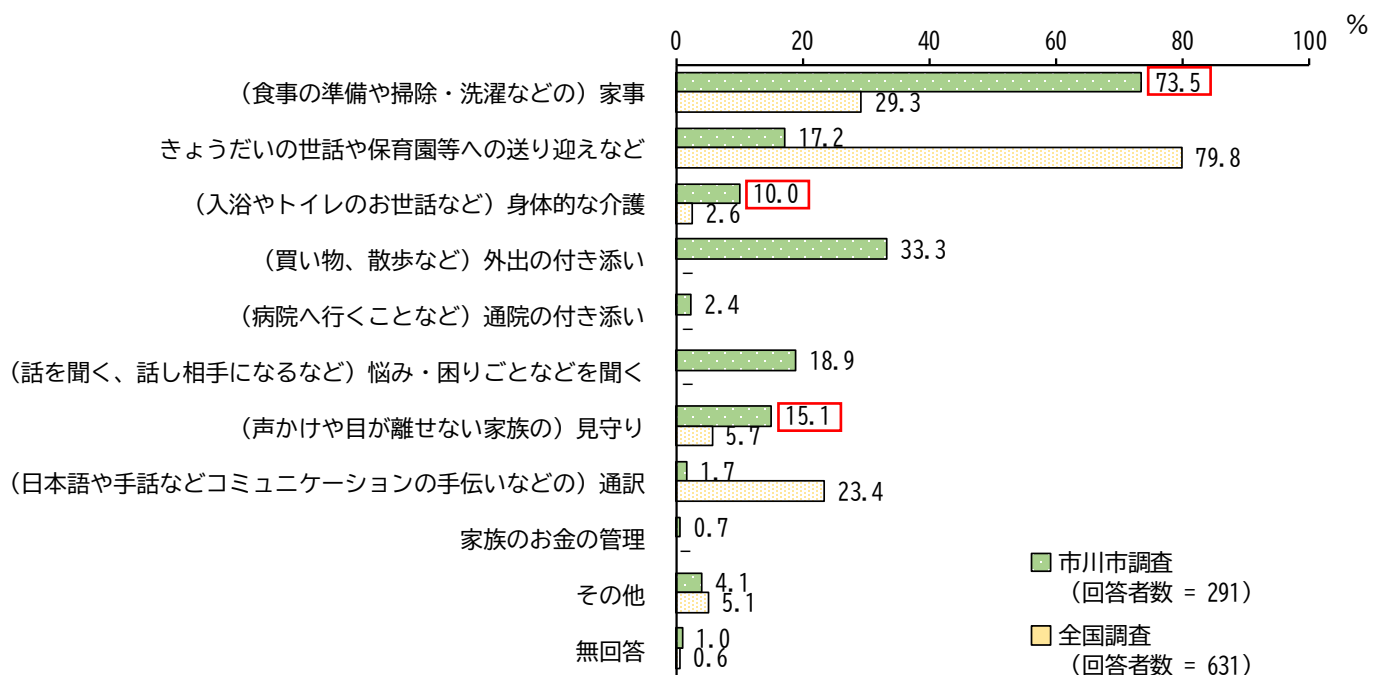


○主なその他意見

・風呂そうじ ・ごみすて ・歩くときのささえ など

※全国調査：令和３年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和３年 12 月）

【中学生調査】



○主なその他意見

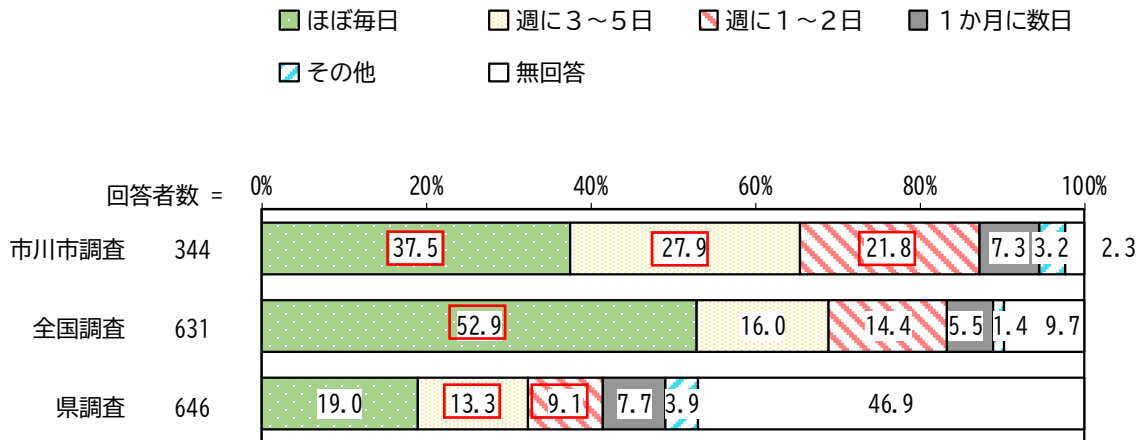
・お風呂の掃除 ・マッサージ ・お皿洗い ・洗濯物をたたむ など

※全国調査：ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書（小学生：令和4年3月、中学生：令和3年3月）

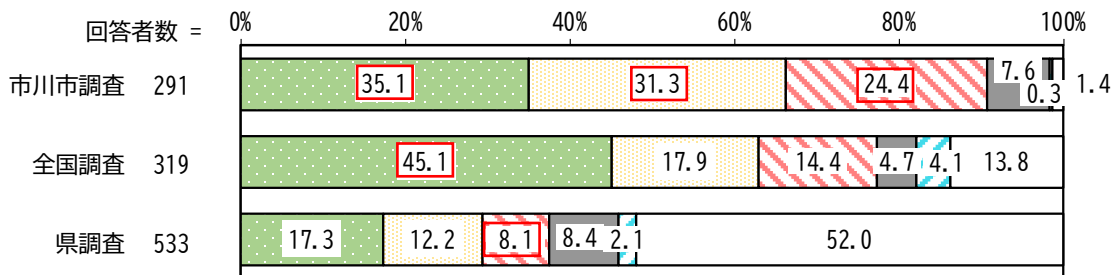
- *全国調査では、「(食事の準備や掃除・洗濯などの) 家事」は「障がいや病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている」、「きょうだいの世話や保育所等への送り迎えなど」は「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」、「(入浴やトイレのお世話など) 身体的な介護」は「障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている」、「(声かけや目が離せない家族の) 見守り」は「目を離せない家族の見守りや声掛けをしている」、「(日本語や手話などコミュニケーションの手伝いなどの) 通訳」は「家族の通訳をしている」となっています。
- *全国調査では、「(買い物、散歩など) 外出の付き添い」「(病院へ行くことなど) 通院の付き添い」「(話を聞く、話し相手になるなど) 悩み・困りごとなどを聞く」「家族のお金の管理」の選択肢はありません。

お世話の頻度

【小学生調査】



【中学生調査】



○主なその他意見

- ・ 3か月に1回 ・ 1年に3回 など

※全国調査：ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書（小学生：令和4年3月、中学生：令和3年3月）

【課題・方向性】

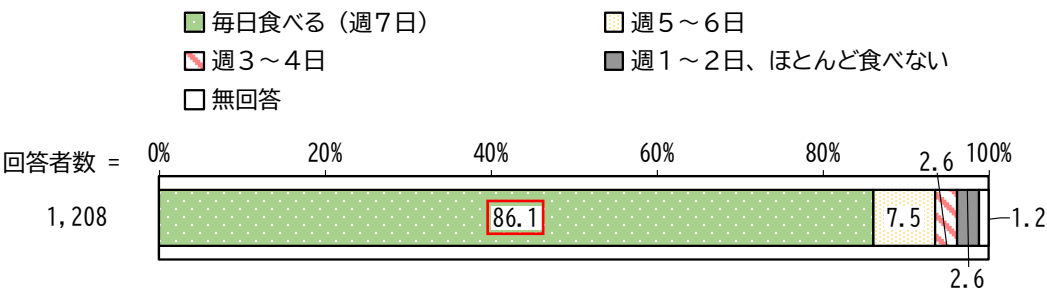
- ・ 日常的にお世話をしている子どもの中で、家族の介護・介助をしている現状がみられ、親の経済状態や就労状況、世帯の状況により、日々の生活において子どもへの負担が課せられることが考えられます。このような複合的な問題に対して、経済的支援を実施するとともに、必要な世帯へ支援の利用を促すことが必要です。
- ・ また、複合的な問題に対応していくためにも、各課の連携を強めていくことが必要です。

○食事のとり方について

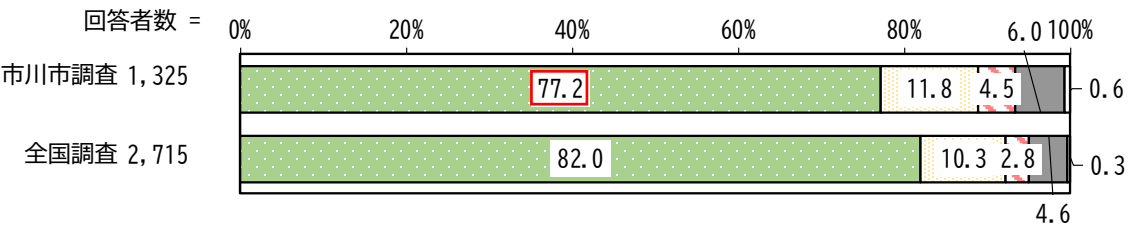
- ・食事のとり方で、朝食について、「毎日食べる（週7日）」の割合が、小学生で 86.1%、中学生で 77.2%と最も高くなっているものの、中学生では、3 割弱の欠食者がいる状況となっています。
- ・中学生調査を全国調査と比べると、全国調査に比べ「毎日食べる（週7日）」の割合がわずかですが低くなっています。
- ・一緒に朝食を食べることについては、「毎日食べる（週7日）」の割合が、小学生で 48.7%、中学生で 27.5%となっています。
- ・一方で、夕食について、「毎日食べる（週7日）」の割合が、小学生で 73.3%、中学生で 57.4%となっています。朝食に比べ、夕食における家族と共食ができている割合ができている状況ではあるものの、中学生は、夕食においても、4 割が毎日共食できていない状況です。

朝食の摂取状況

【小学生調査】



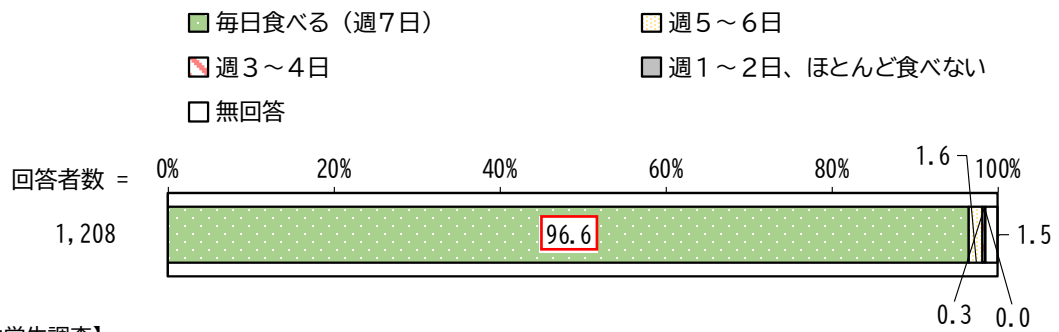
【中学生調査】



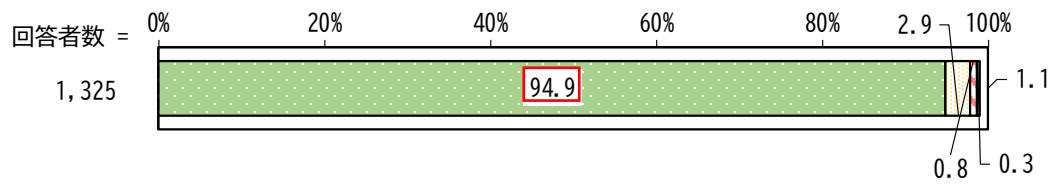
※全国調査：令和 3 年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和 3 年 12 月）

夕食の摂取状況

【小学生調査】

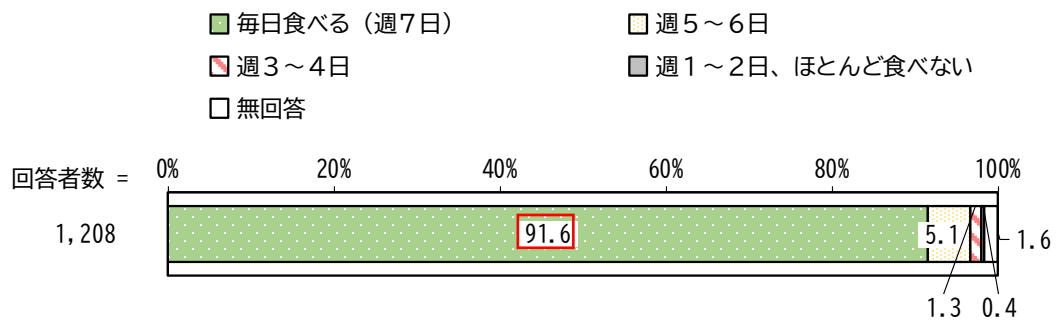


【中学生調査】

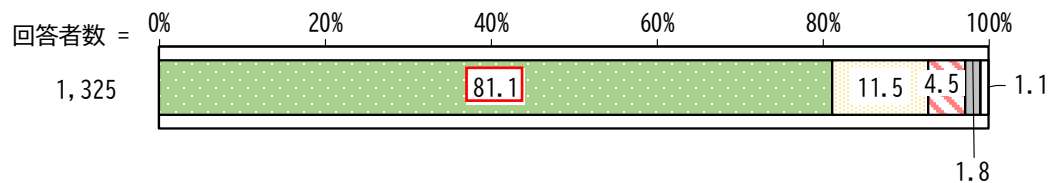


夏休みや冬休みなどの期間の昼食

【小学生調査】

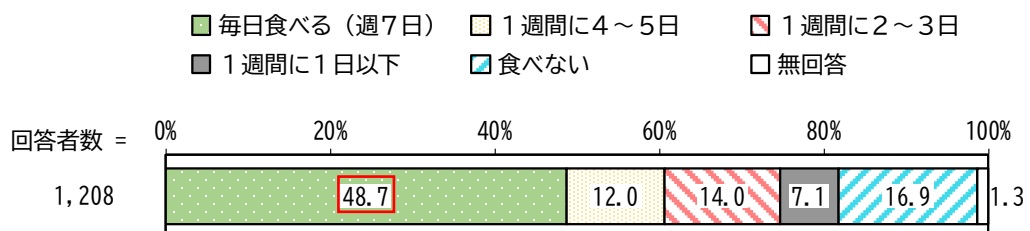


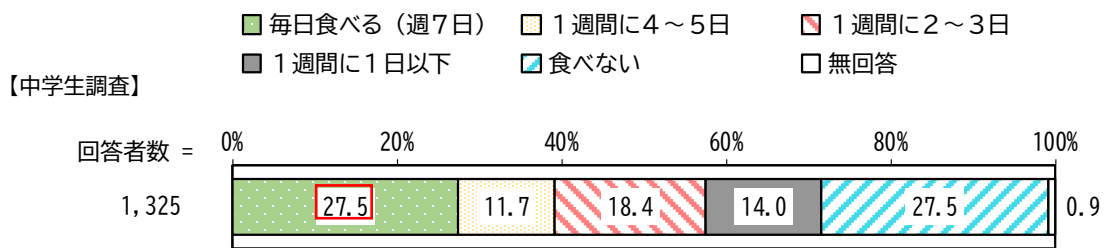
【中学生調査】



共食の状況（朝食）

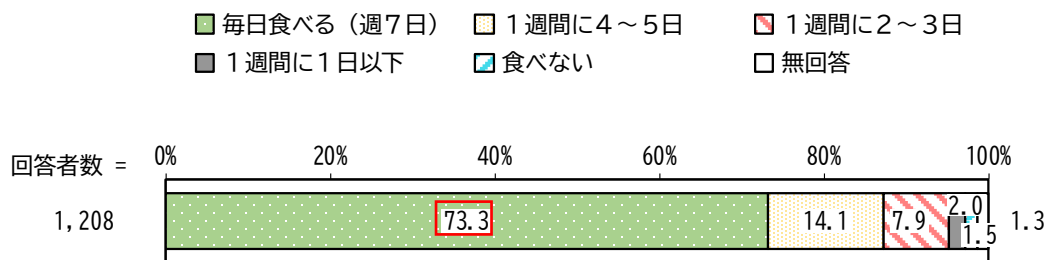
【小学生調査】



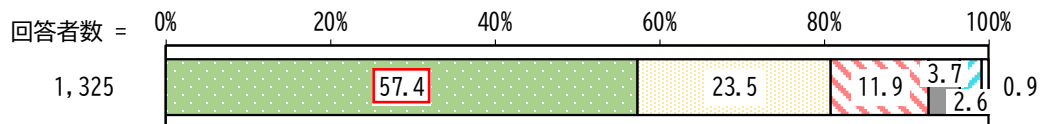


共食の状況（夕食）

【小学生調査】



【中学生調査】



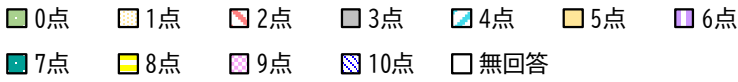
【課題・方向性】

- ・朝食の欠食率は、学年が上がるにつれ高く、全国調査と比べても、中学生で毎日朝食を食べている割合は低くなっています。また、誰かと一緒に食べる共食の状況も、学年が上がるにつれ低くなっています。生活習慣の乱れや栄養の偏りに繋がることが考えられるため、すべての子育て家庭が安定した生活を送れるよう、親子の健康の維持・増進を図る必要があります。
- ・また、どのような環境の家庭においても、規則正しい生活習慣を身につけられるように支援していくことが必要です。

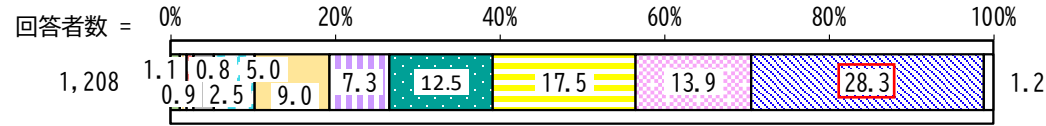
○自分について

- ・生活満足度について、小学生では「10点」の割合が28.3%と最も高く、中学生では「8点」の割合が19.1%と最も高くなっています。

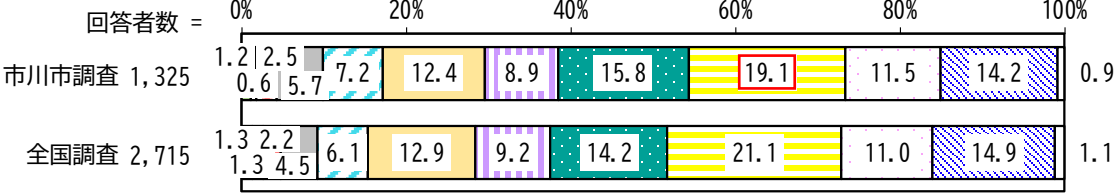
生活満足度



【小学生調査】

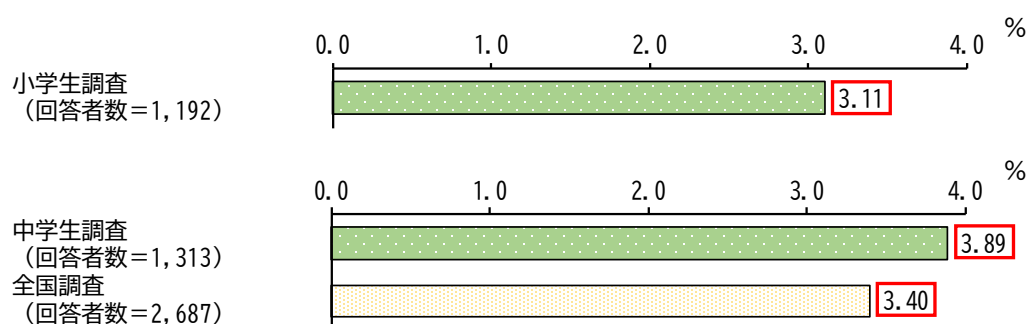


【中学生調査】



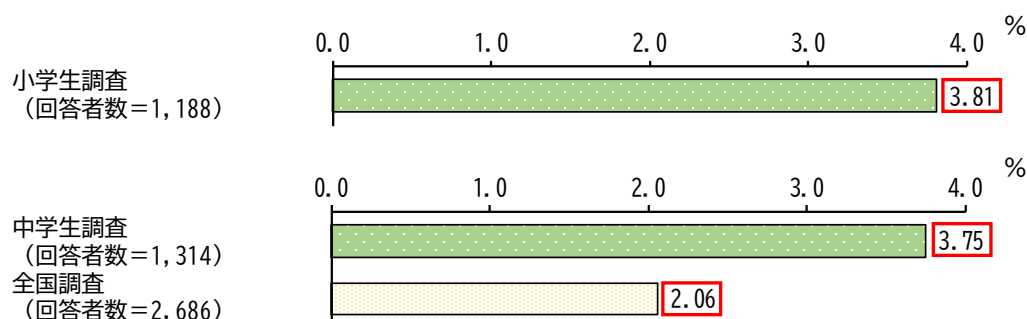
- ・「子どもの心理的な状態」に関して、調査では「強さと困難さアンケート（SDQ：Strengths and Difficulties Questionnaire）」の調査項目のうち、「情緒（不安や抑うつなど）」の問題、「仲間関係」の問題、「向社会性」を把握するための項目を設定しました。
- ・子どもの心理的な状態について、5つの項目の結果を足し合わせて、スコアを算出した（0～10点、得点が高いほど、問題性が高いと考えられる）。「情緒の問題」に関しては、小学生で3.11点、中学生で3.89点となっており、全国調査を上回っています。
- ・「仲間関係の問題」に関しては、小学生で3.81点、中学生で3.75点となっており、全国調査を上回っています。
- ・「向社会性」に関して、小学生では5.74点、中学生では5.69点となっており、全国調査を下回っています。

子どもの心理的な状態：情緒の問題



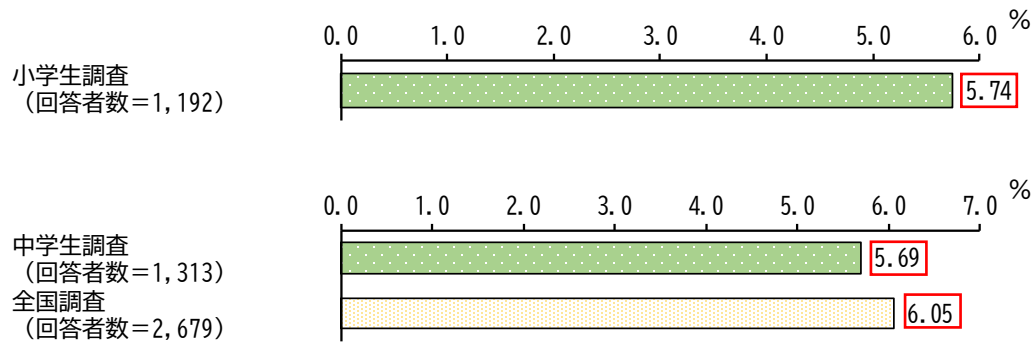
※全国調査：令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和3年12月）

子どもの心理的な状態：仲間関係の問題



※全国調査：令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和3年12月）

子どもの心理的な状態：向社会性



※全国調査：令和３年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和３年１２月）

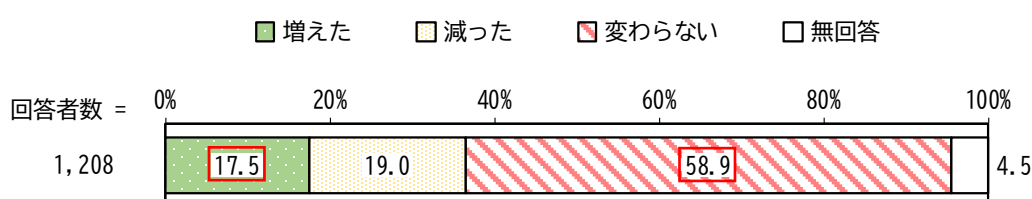
子どもの健康と医療

- ・子供の急病時や手助けが必要になる時、気軽に相談や協力を求められる人が家族しかいないため、自分が仕事を休むことが多くなる。困った時に気軽に応援を求められるよう制度を充実してほしい、情報が知りたい。
- ・精神病では生活を助けてくれる制度がない。毎日、体調が違うので、仕事をするのが大変。でも、家族にめいわくをかけたくない。仕事が出来ない時、収入面で助けてほしい。

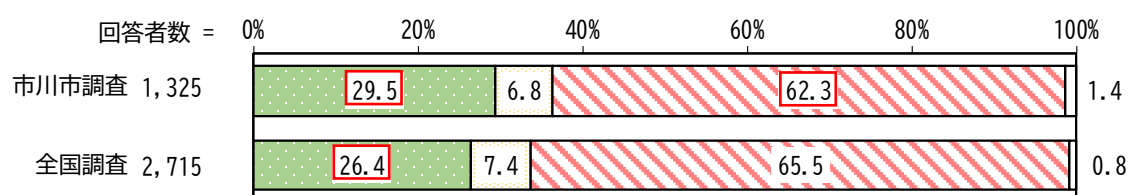
- ・現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、どのように変わったと思うかについて、「学校の授業がわからないと感じること」が、小学生では、「変わらない」の割合が 58.9%と最も高いものの、「増えた」の割合が 17.5%となっています。中学生でも、「変わらない」の割合が 62.3%と最も高く、次いで「増えた」の割合が 29.5%となっています。
- ・また、「イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」が、小学生では、「変わらない」の割合が 52.5%と最も高いものの、次いで「増えた」の割合が 28.6%となっています。中学生でも、「変わらない」の割合が 59.5%と最も高く、次いで「増えた」の割合が 33.0%となっています。
- ・中学生調査では、全国調査と比べると、「学校の授業がわからないと感じること」「イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」が「増えた」の割合が、わずかですが高くなっています。

新型コロナウイルス感染症の拡大による変化：学校の授業がわからないと感じること

【小学生調査】



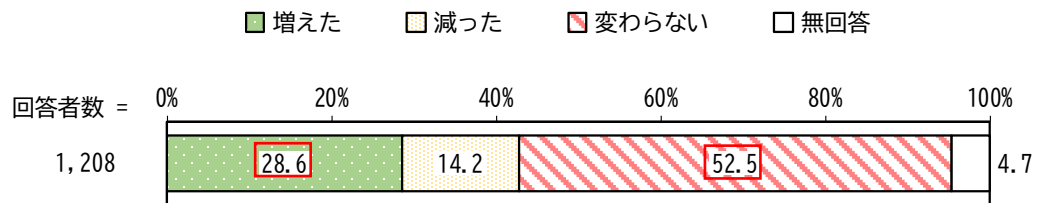
【中学生調査】



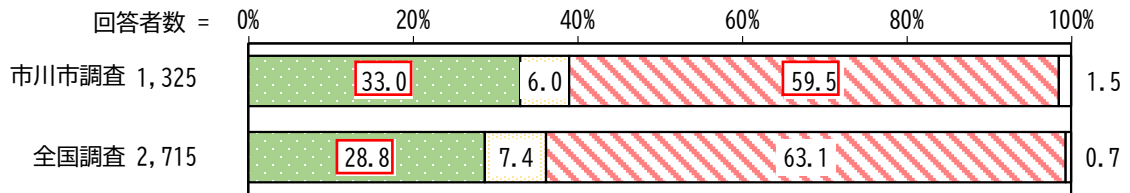
※全国調査：令和 3 年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和 3 年 12 月）

新型コロナウイルス感染症の拡大による変化：イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

【小学生調査】



【中学生調査】



※全国調査：令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和3年12月）

新型コロナ感染症の影響

- ・コロナ禍で体を動かす機会が減り、体力が低下して、健康状況が悪くなったと思う。
子供を含め、ヘルスケアに興味を持つような施策を考えて欲しい。
- ・コロナの影響で外出しつづけるので、スマホやゲームばかりになってしまう。

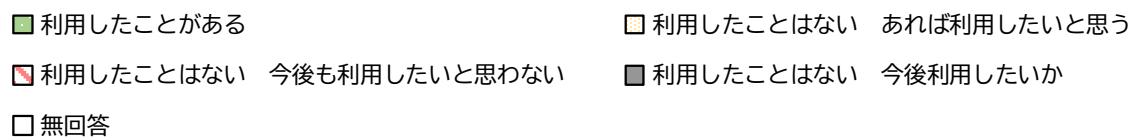
【課題・方向性】

- ・「仲間関係の問題」に関しては、全国調査に比べ、中学生で高く、小学生調査においても中学生調査と同程度となっており、孤立しやすい状況がうかがえます。
- ・子どもたちが孤立してしまわないように、地域における子どもの居場所づくりが求められます。
- ・また、家庭の環境や経済的な状況にかかわらず、すべての子どもが夢と希望をもち、等しく健やかに成長していけるよう、地域や社会全体で支援していく必要があります。
- ・「新型コロナウイルス感染症の影響により授業がわからないと感じる」に関しては、全国調査に比べ、中学生で高くなっており、授業のオンライン化などが影響していると考えられます。
- ・授業のやり方や質問をしやすいうような環境づくりが必要となっています。

○子どもの居場所について

- ・ 平日の夜や休日を過ごすことができる場所について、「利用したことがある」の割合が、小学生では 43.9%と最も高く、中学生でも 40.8%と最も高くなっています。
- ・ 中学生調査を全国調査と比べ、「利用したことがある」の割合が高くなっています。
- ・ こども食堂などについては、「利用したことはない あれば利用したいと思う」の割合が、小学生では 31.2%と最も高く、中学生では 24.2%となっています。
- ・ 中学生調査を全国調査と比べ、「利用したことはない 今後も利用したいと思わない」の割合が低くなっています。
- ・ 勉強を無料でみてくれる場所については、「利用したことはない あれば利用したいと思う」の割合が、小学生では 33.8%と最も高く、中学生でも 35.2%と最も高くなっています。
- ・ 何でも相談できる場所については、「利用したことはない 今後利用したいかどうか分からない」の割合が小学生では 37.8%と最も高く、中学生で 41.7%と最も高くなっています。
- ・ 中学生調査を全国調査と比べ、「利用したことはない 今後も利用したいと思わない」の割合が低くなっています。

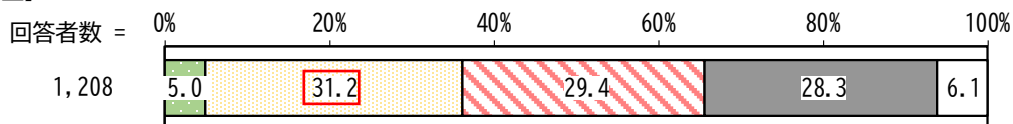
（自分や友人の家以外で）平日の夜や休日を過ごすことができる場所（放課後保育クラブ、放課後子ども教室、こども館など）



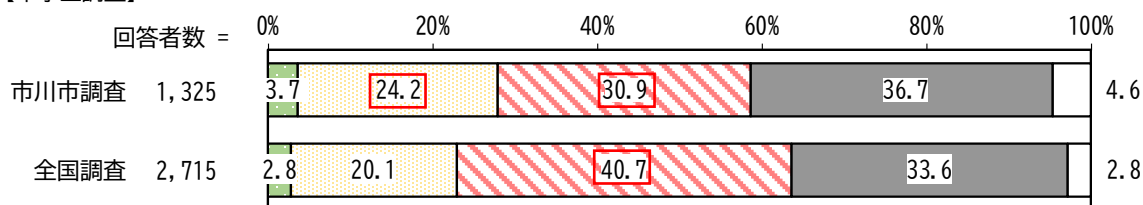
(自分や友人の家以外で) タごはんを無料か安く食べることができる場所 (子ども食堂など)

- ☒ 利用したことがある
 ☐ 利用したことはない あれば利用したいと思う
☒ 利用したことはない 今後も利用したいと思わない
 ☐ 利用したことはない 今後利用したいか
☐ 無回答

【小学生調査】



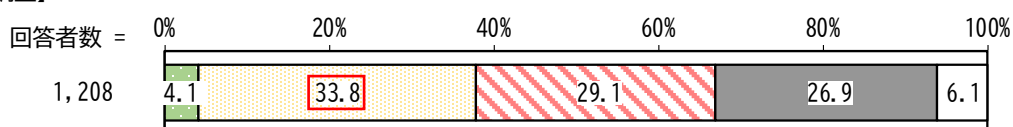
【中学生調査】



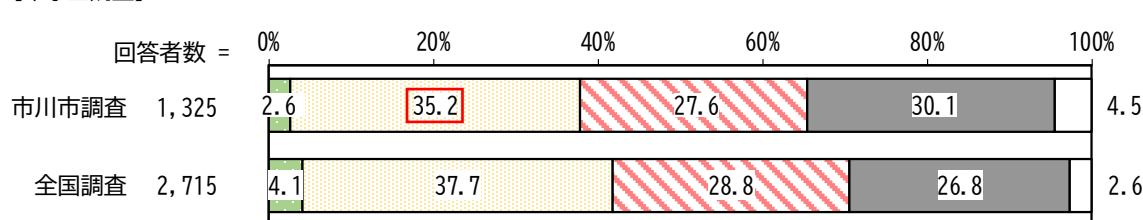
勉強を無料でみてくれる場所

- ☒ 利用したことがある
 ☐ 利用したことはない あれば利用したいと思う
☒ 利用したことはない 今後も利用したいと思わない
 ☐ 利用したことはない 今後利用したいか
☐ 無回答

【小学生調査】



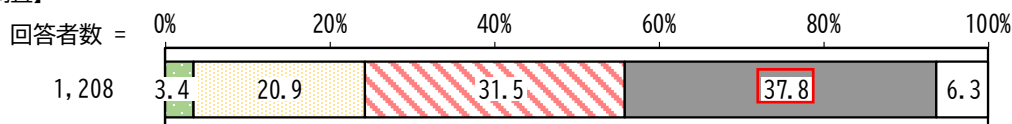
【中学生調査】



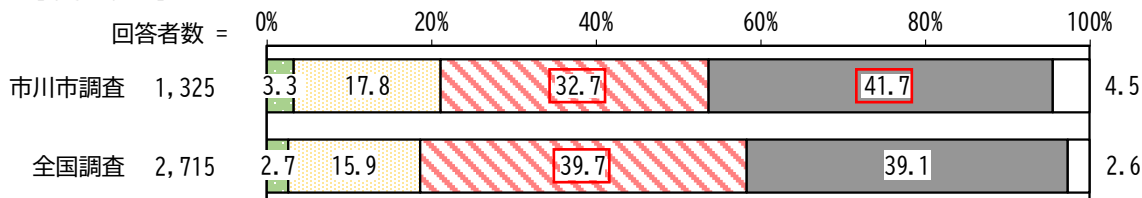
(家や学校以外で) 何でも相談できる場所 (こども館や電話・ネットの相談を含む。)

- ☒ 利用したことがある
 ☐ 利用したことはない あれば利用したいと思う
☒ 利用したことはない 今後も利用したいと思わない
 ☐ 利用したことはない 今後利用したいか
☐ 無回答

【小学生調査】



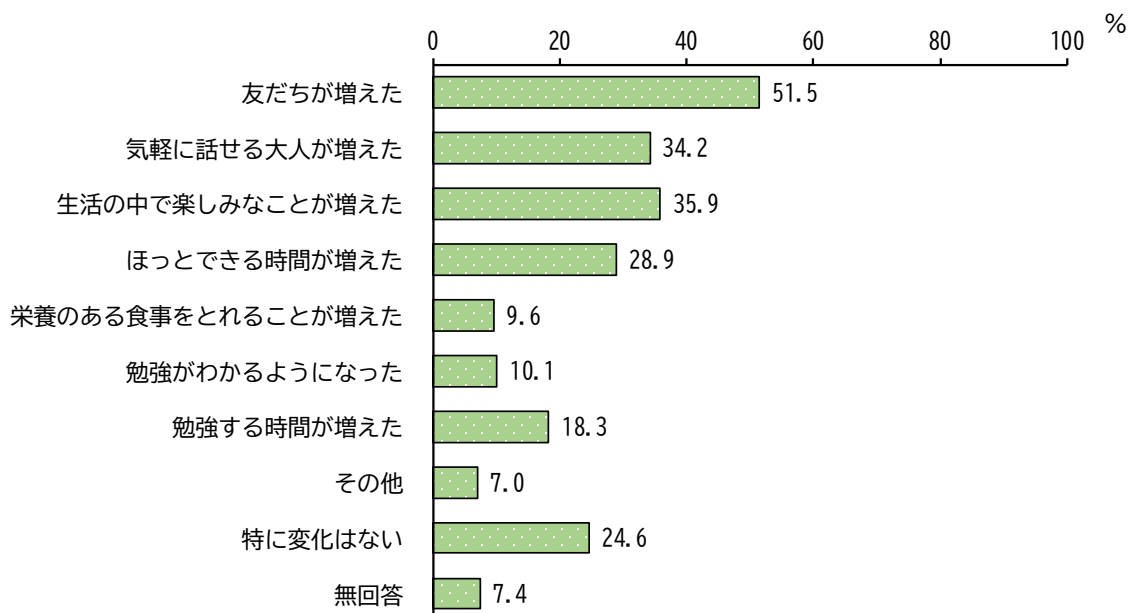
【中学生調査】



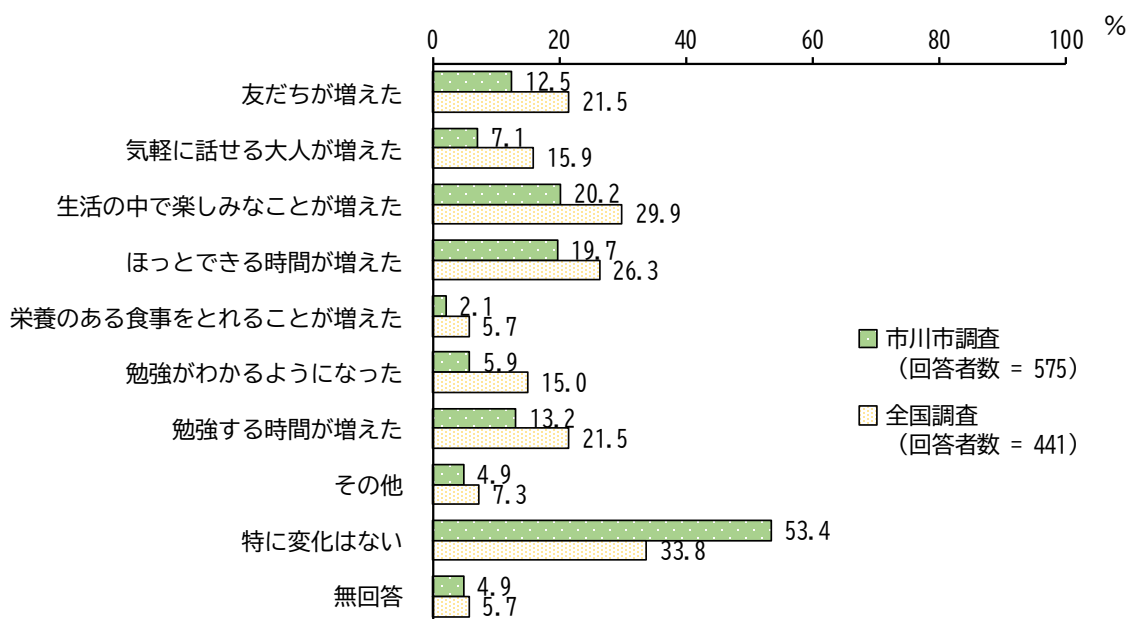
前の質問で、1つでも「1 利用したことがある」と答えた方にお聞きします。そこを利用したことで、以下のような変化がありましたか。(1～8については、あてはまるものすべてに○)

【小学生調査】

回答者数 = 585



【中学生調査】



【課題・方向性】

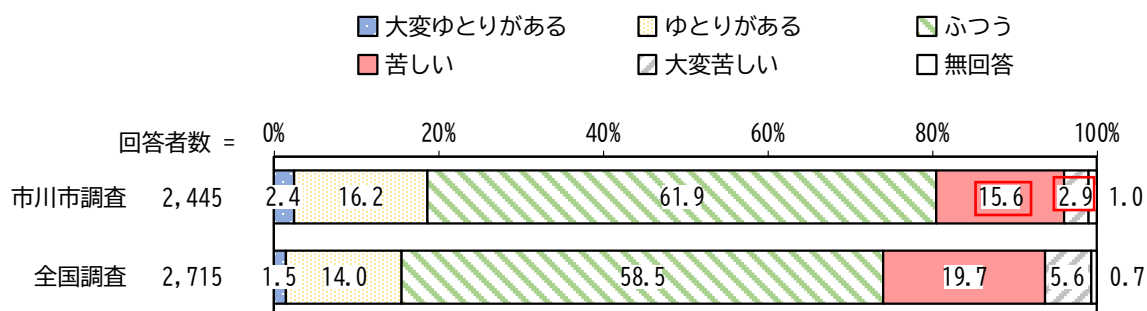
- ・「勉強を無料でみてくれる場所」に関しては、利用したことはないが、あれば利用したい割合が小学生、中学生どちらも最も高くなっています。
- ・このことから、勉強をみてくれる場所のニーズが高くなっていることがうかがえます。

Ⅱ－２ 保護者調査票（生活困窮世帯と一般層の比較）

○家族の状況について

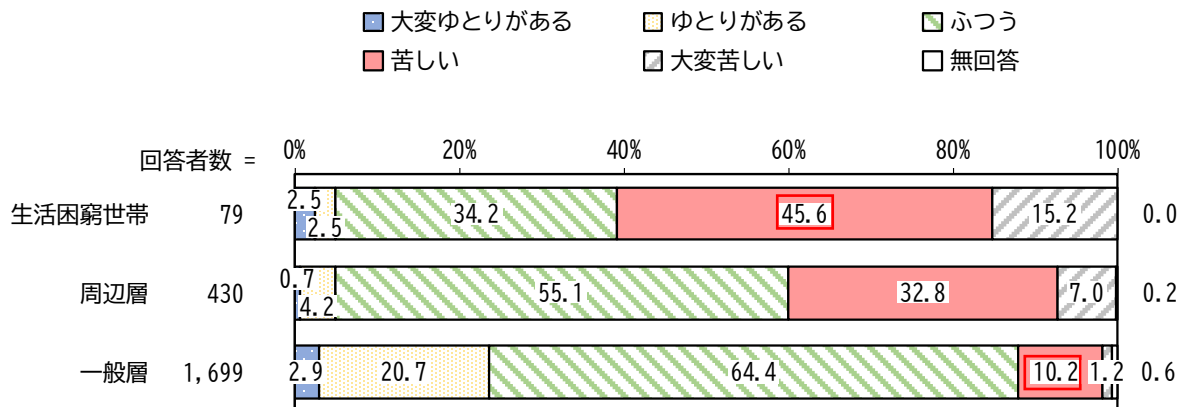
- ・現在の暮らしの状況をどのように感じているかについて、生活困窮世帯では、一般層に比べ“苦しい”の割合が高くなっています。全国調査と比較すると、“苦しい”の割合が低くなっています。

現在の暮らしの状況

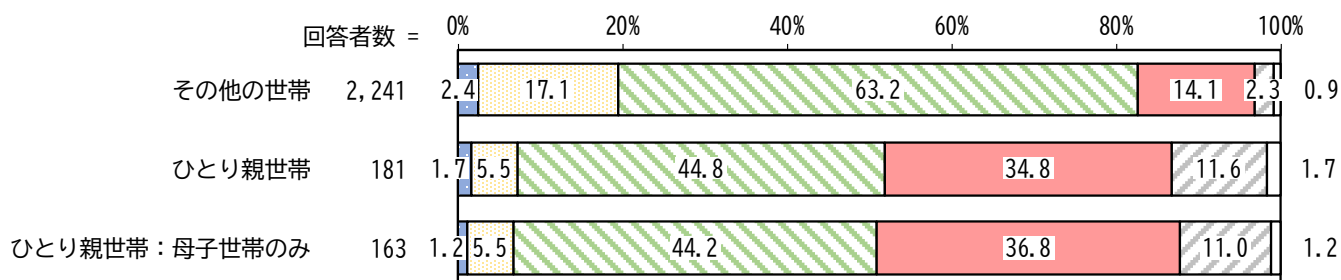


※全国調査：令和３年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和３年１２月）

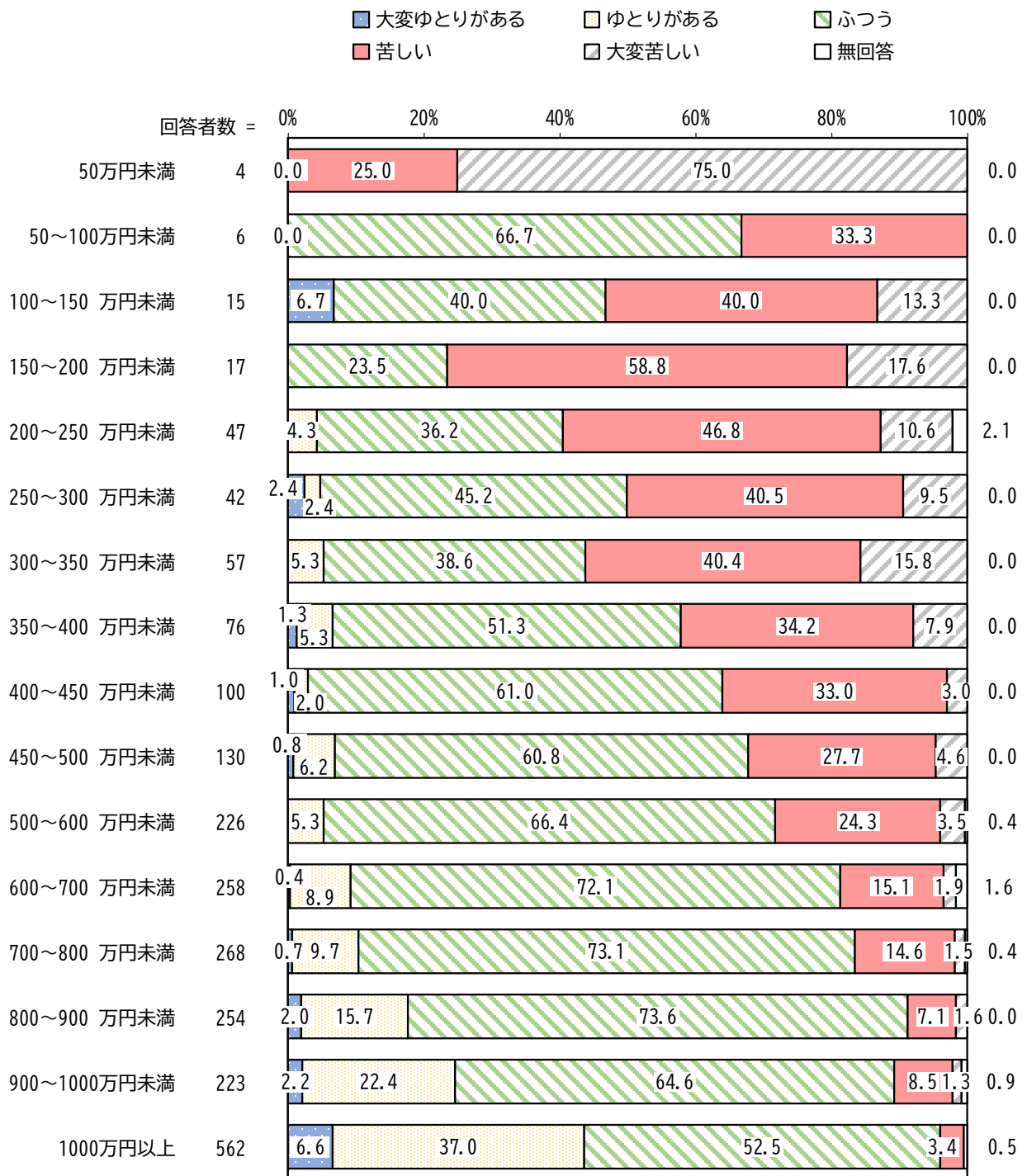
【世帯区分別】



【世帯構成別】

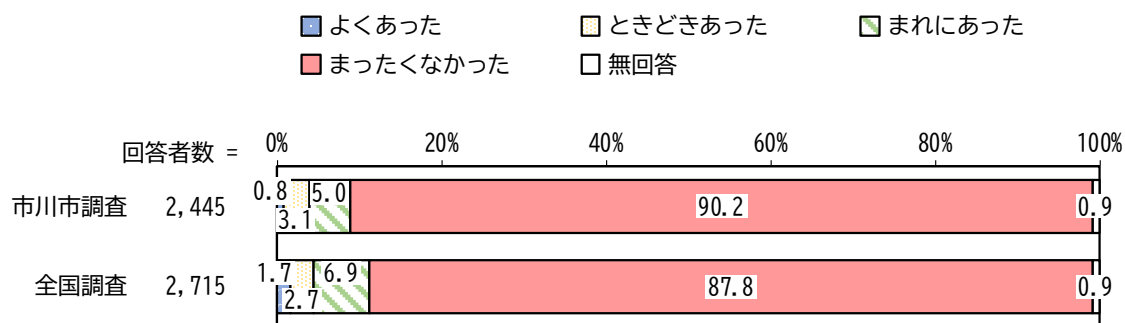


【世帯年収別】



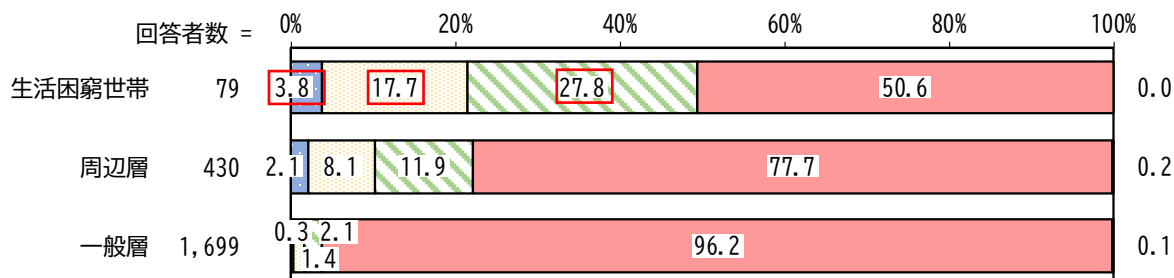
- ・過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがあったかについて、生活困窮世帯では、一般層に比べ「よくあった」と「ときどきあった」をあわせた“あった”の割合が高く、2割を超えています。

過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないこと

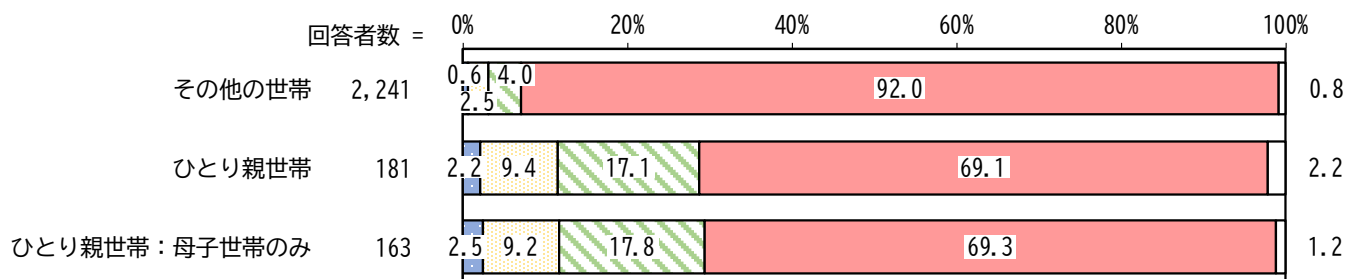


※全国調査：令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和3年12月）

【世帯区分別】

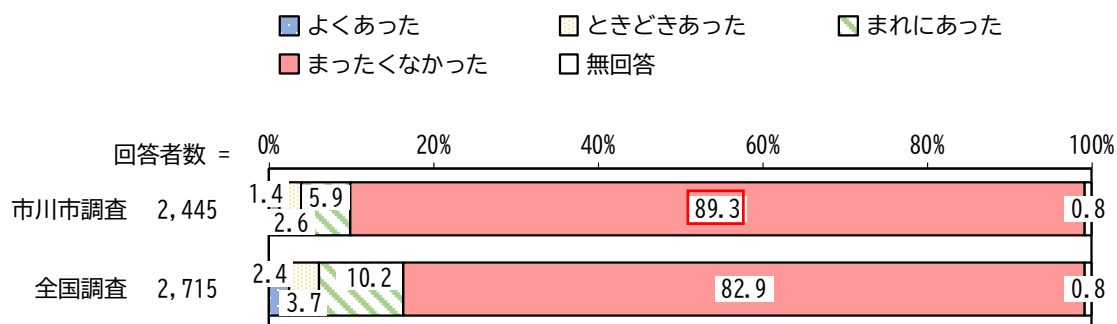


【世帯構成別】



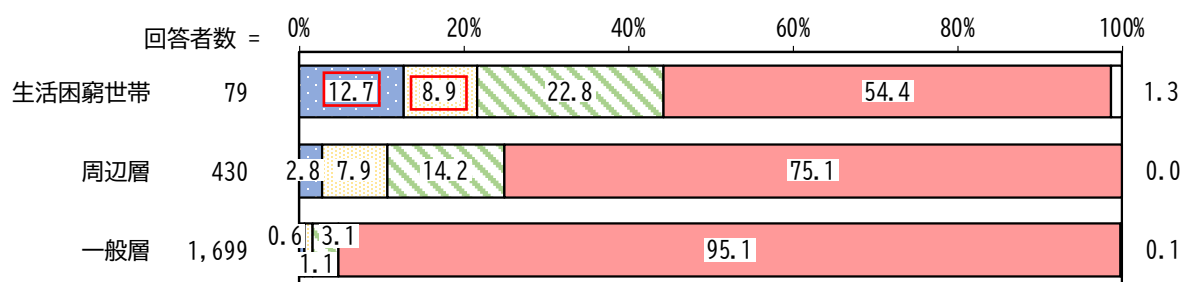
- ・過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがあったかについて、生活困窮世帯では、一般層に比べ「よくあった」と「ときどきあった」をあわせた“あった”の割合が高く、2割を超えています。全国調査と比較すると、「まったくなかった」の割合が高くなっています。

過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないこと

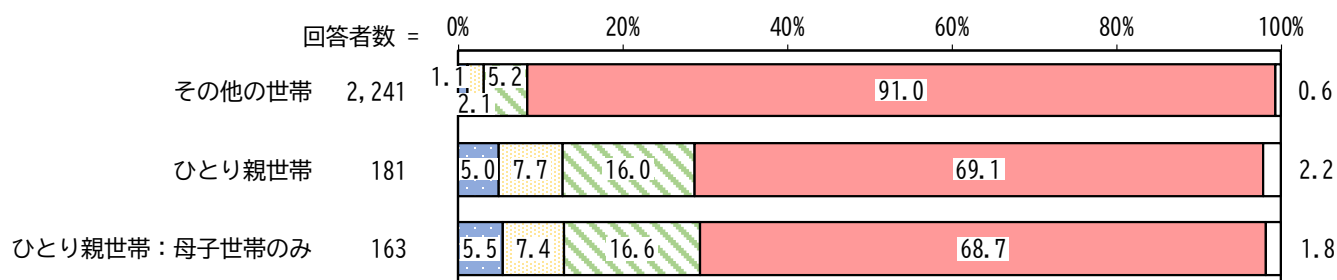


※全国調査：令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和3年12月）

【世帯区分別】

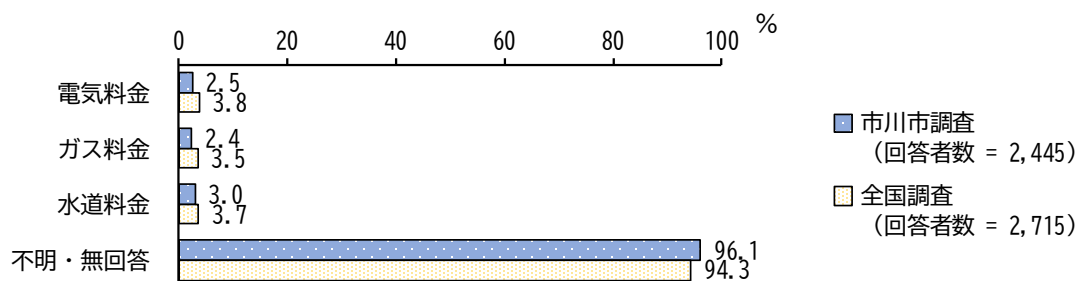


【世帯構成別】



- ・過去1年の間に、以下の料金について、経済的な理由で未払いになったことがあったかについて、生活困窮世帯では、一般層に比べ「電気料金」「ガス料金」「水道料金」の割合が高くなっています。

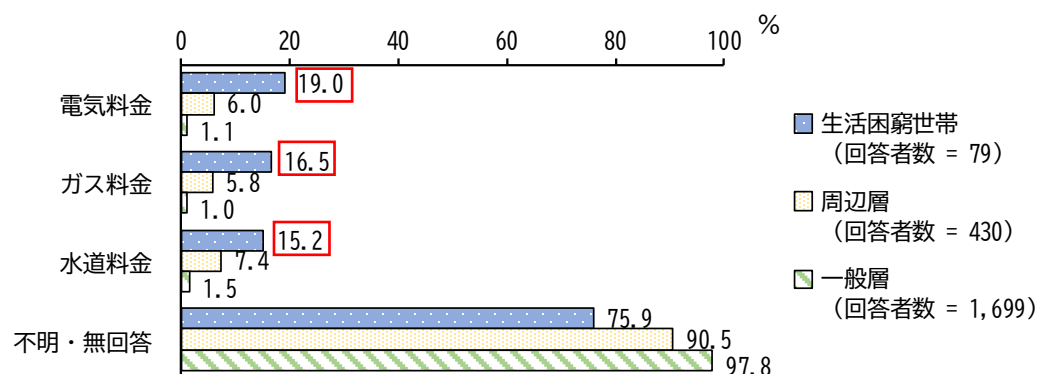
過去1年の間に、経済的な理由で未払いになった経験



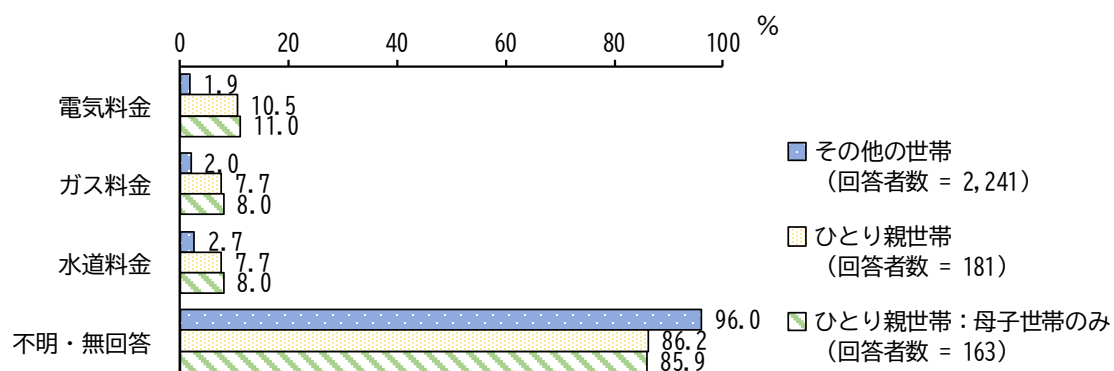
※全国調査：令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和3年12月）

*全国調査では、「あてはまるものはない」の選択肢はありません。また、「あてはまるものはない」、「無回答」の割合を「不明・無回答」に入れています。

【世帯区分別】

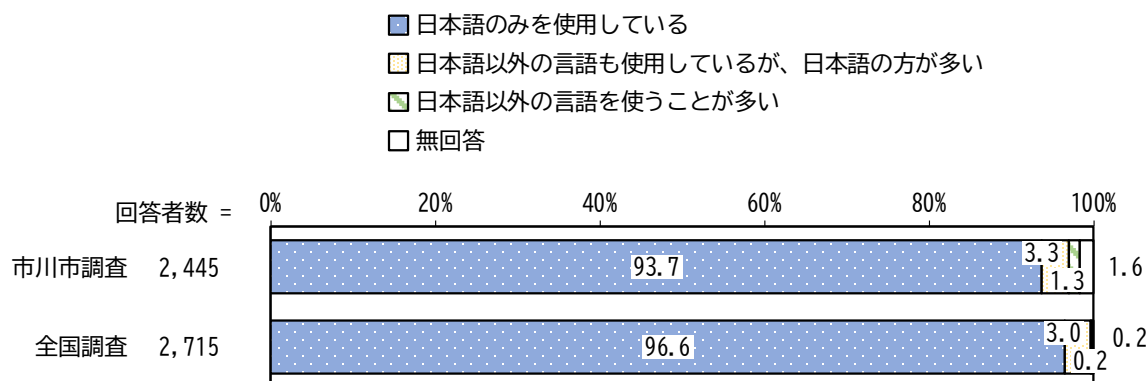


【世帯構成別】



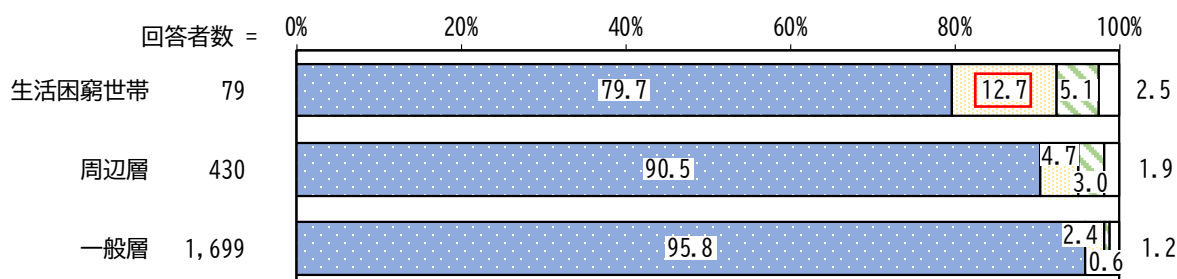
- ・ご家庭での日本語以外の言語を使用しているかについて、生活困窮世帯では、一般層に比べ「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」の割合が高く、1割を超えています。

ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか

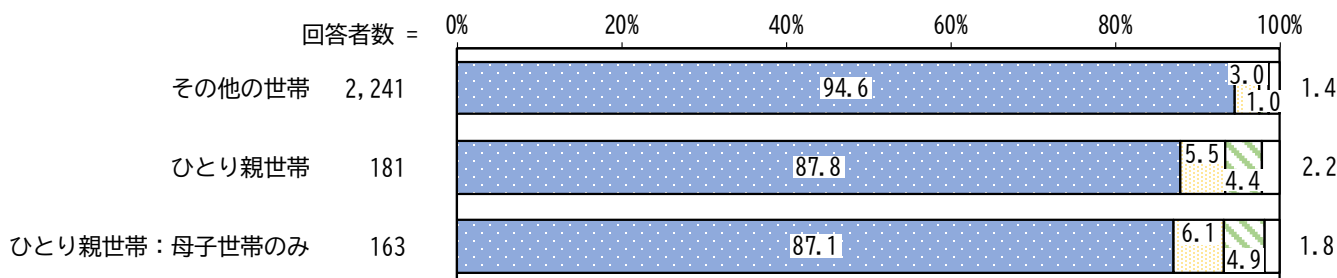


※全国調査：令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和3年12月）

【世帯区分別】

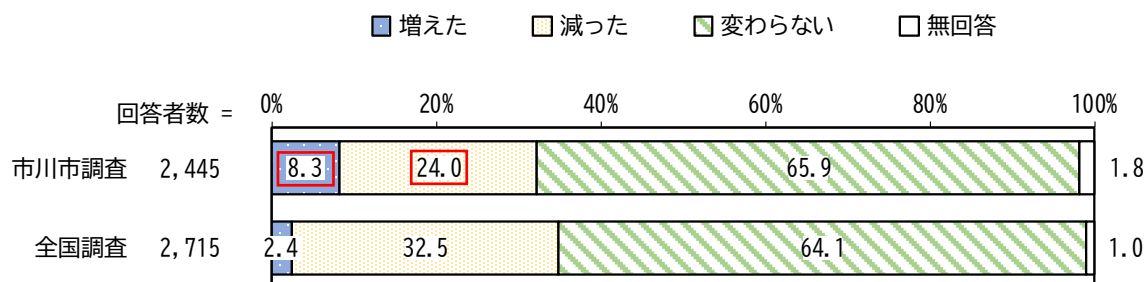


【世帯構成別】



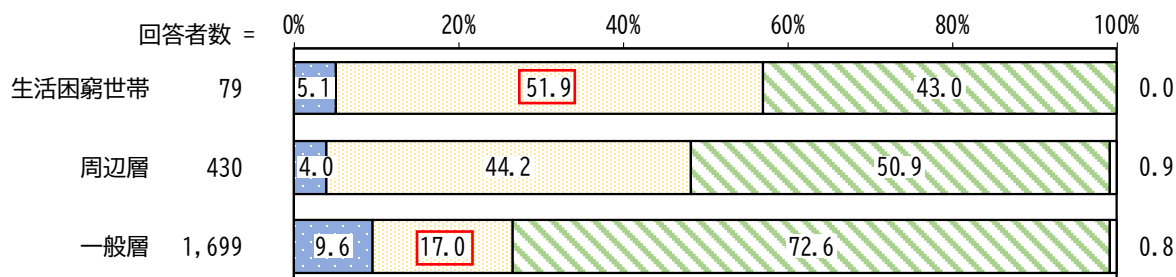
- ・新型コロナウイルスの影響により、「世帯全体の収入の変化」について、生活困窮世帯では、一般層に比べ「減った」の割合が高くなっています。全国調査と比較すると、「増えた」の割合が高くなっています。一方、「減った」の割合が低くなっています。
- ・世帯年収では、全国調査と比較すると「減った」の割合が低くなっています。

世帯全体の収入の変化

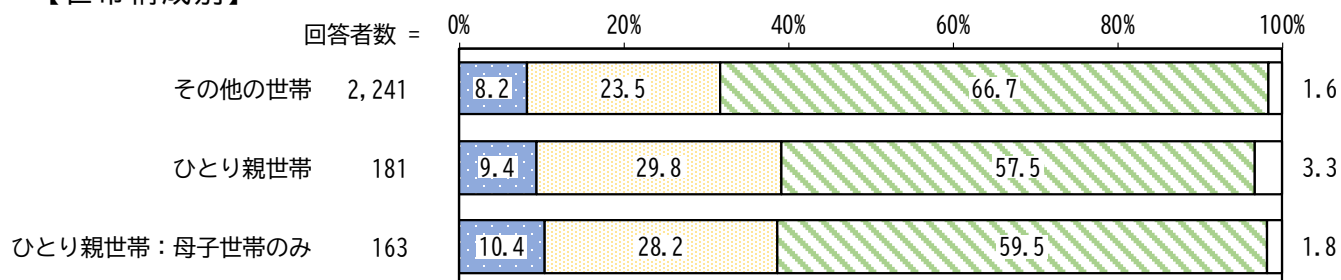


※全国調査：令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和3年12月）

【世帯区分別】



【世帯構成別】



世帯の経済状況

- ・物価が上がり、収入は増えたが正社員となったため、税金の支払いで、給与は大して変わっていない。就労援助の該当から外れたため、支出ばかり増えていて、生活は厳しくなっていく一方です。
- ・子供には、やりたい習い事は全てやらせてやりたいが、月謝や諸費用が高額になるので経済的に難しい。

保護者の状況

- ・物価が上がり、収入は増えたが正社員となったため、税金の支払いで、給与は大して変わっていない。就労援助の該当から外れたため、支出ばかり増えていて、生活は厳しくなっていく一方です。
- ・親が生きづらいと感じているため、子供たちが生きるこれからの社会がどうなってしまうのか心配です。(日本の)未来は、明るくなるのでしょうか。生きる事は、うれしくて、楽しいと思える社会になることを願います。

ひとり親家庭の状況

- ・母子家庭です。市営住宅や住宅に関する支援が不足しているように感じます。家賃が家計の大きな負担になっています。少しでもいいので、手当てや母子家庭優先の住宅とかあればいいのと思います。
- ・収入をふやしたい。副業禁止の会社で、正社員だが、収入は低く、母子家庭ではくるしい。それでも、仕事をやめる事はできず、今、転職する勇気ない。

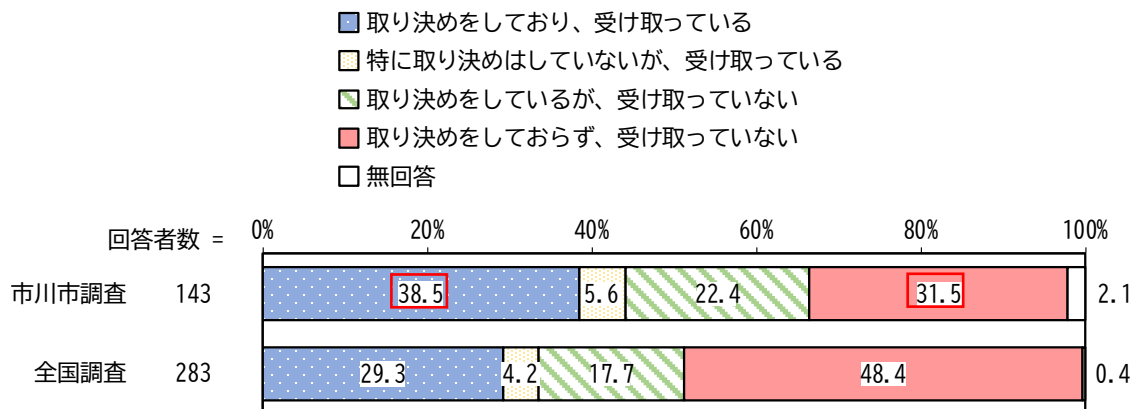
【課題・方向性】

- ・親の経済状態や就労状況にかかわらず、子育て家庭の日々の生活を安定させるため、経済的支援を実施するとともに、必要な世帯へ支援の利用を促すことが必要です。
- ・支援が届きにくい子どもや子育て家庭にも届く、当事者視点に立った情報発信が必要です。
- ・生活困窮世帯はお金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことが「まれにあった」という回答が見られるため、生活困窮世帯に対して食に関わる支援を充実していく必要があります。

○離婚による養育費の取り決めについて

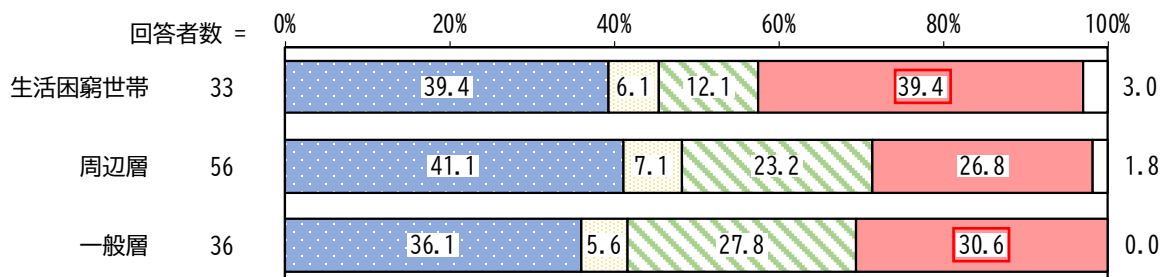
- ・離婚相手と子どもの養育費の取り決めをしているかについて、生活困窮世帯では、一般層に比べ「取り決めをしておらず、受け取っていない」の割合が高く、38.5%となっています。全国調査と比較すると、「取り決めをしており、受け取っている」の割合が高くなっています。一方、「取り決めをしておらず、受け取っていない」の割合が低くなっています。

養育費の取り決めの状況

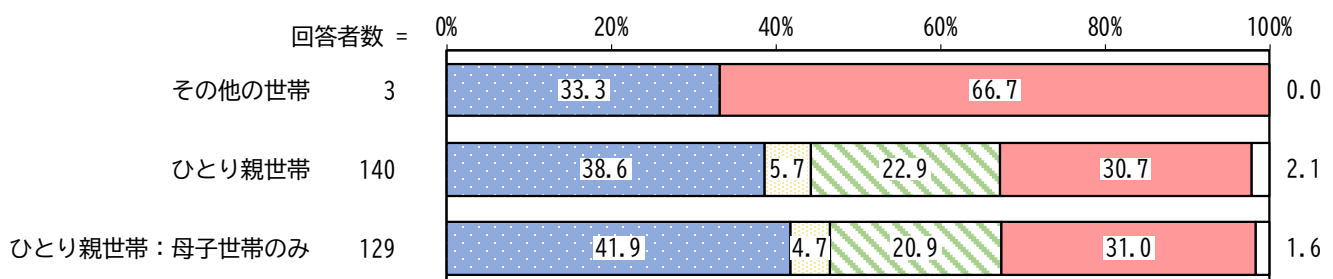


※全国調査：令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和3年12月）

【世帯区分別】



【世帯構成別】



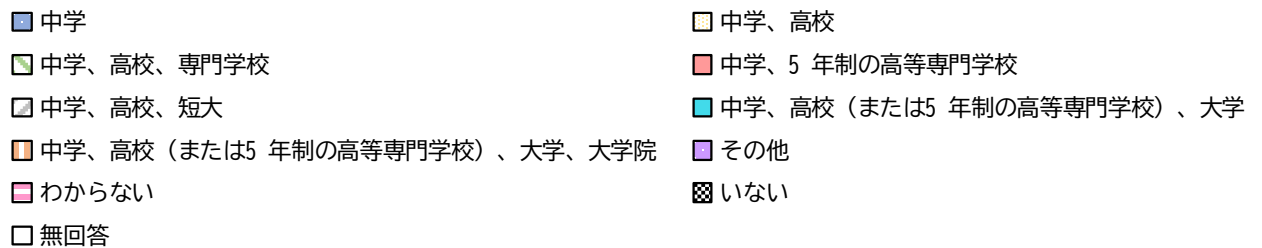
【課題・方向性】

- ・養育費取得のための相談対応、書類作成や同行支援などの積極的な支援が必要です。
- ・養育費の取得の早い段階からの相談につながる周知啓発が必要です。

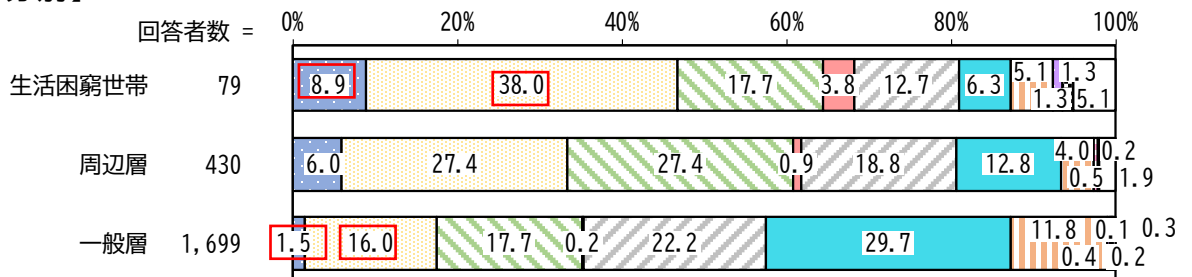
○親の卒業・修了、就労状況について

- ・親の卒業・修了の状況について、母親では、生活困窮世帯・周辺世帯では、一般層に比べ「中学」「中学、高校」の割合が高くなっています。父親でも、同様の結果がでています。
- ・親の就労の状況について、母親では、生活困窮世帯では、一般層に比べ「正社員・正規職員・会社役員」の割合が低くなっています。父親でも、同様の結果がでています。全国調査と比較すると、父親で「正社員・正規職員・会社役員」の割合が高くなっています。
- ・働いていない理由について、母親では、生活困窮世帯では、一般層に比べ「自分の病気や障害のため」の割合が高くなっています。一方、「子育てを優先したいため」の割合が低くなっています。全国調査と比較すると、母親で「自分の病気や障害のため」の割合が低く、父親で「家族の介護・介助のため」「通学しているため」の割合が高くなっています。

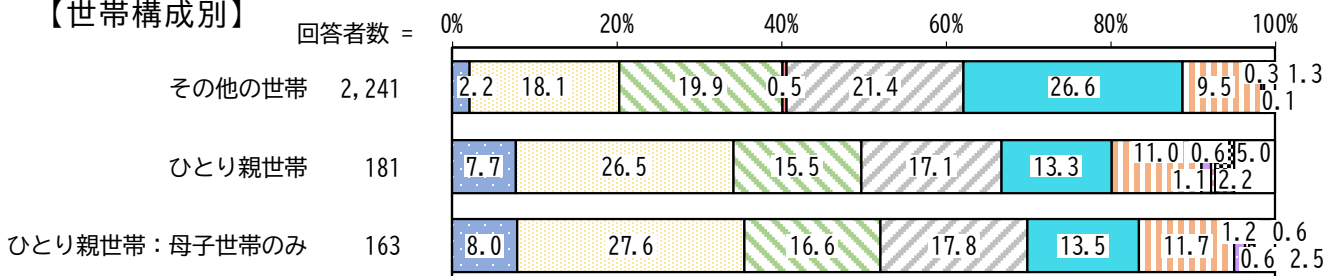
母親の卒業・修了の状況



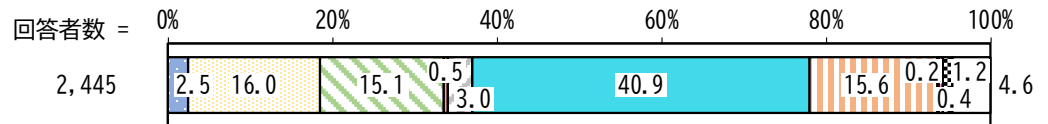
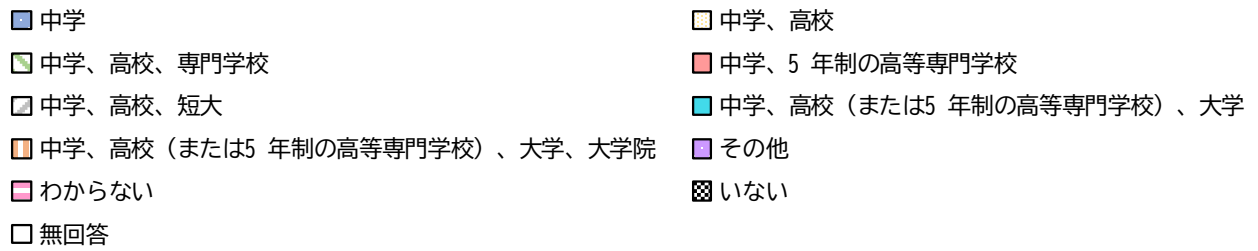
【世帯区分別】



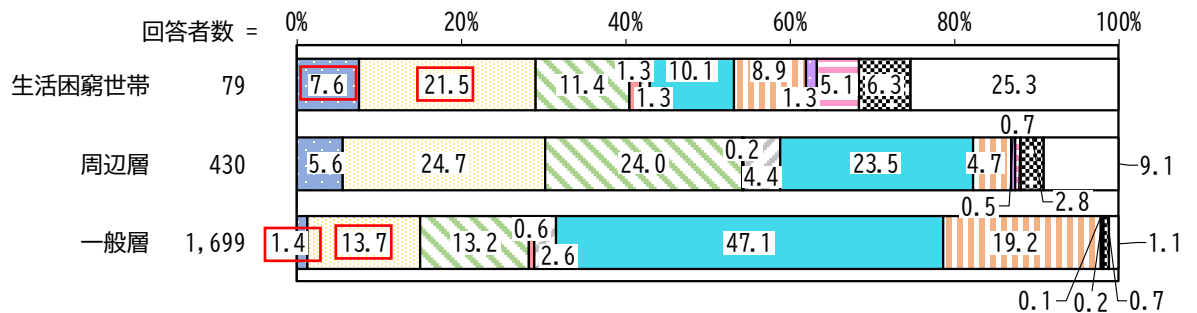
【世帯構成別】



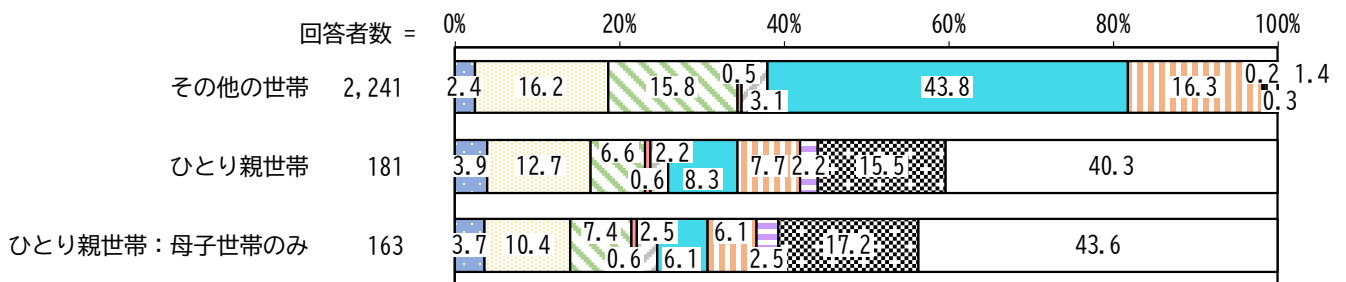
父親の卒業・修了の状況



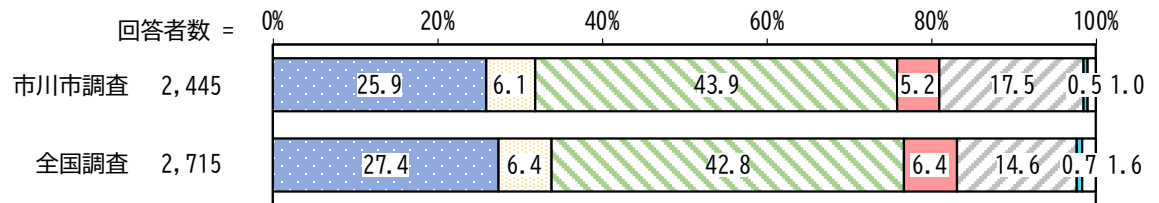
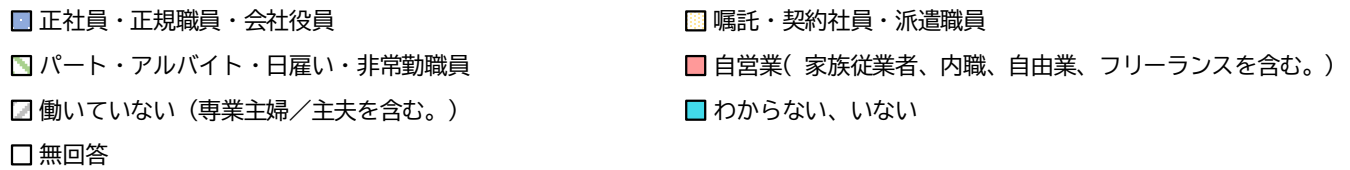
【世帯区分別】



【世帯構成別】



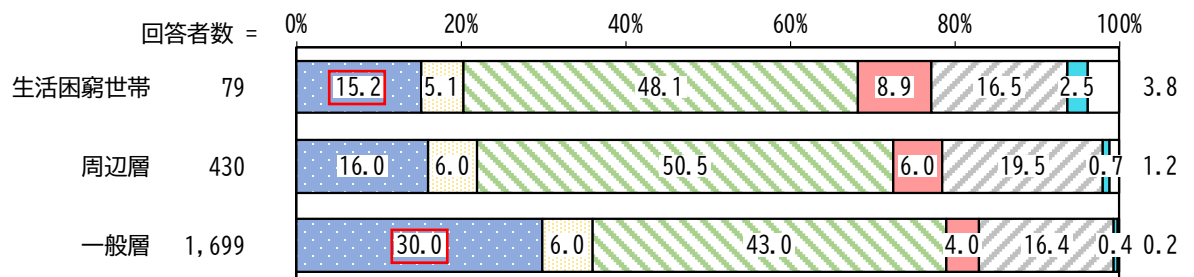
母親の就労の状況



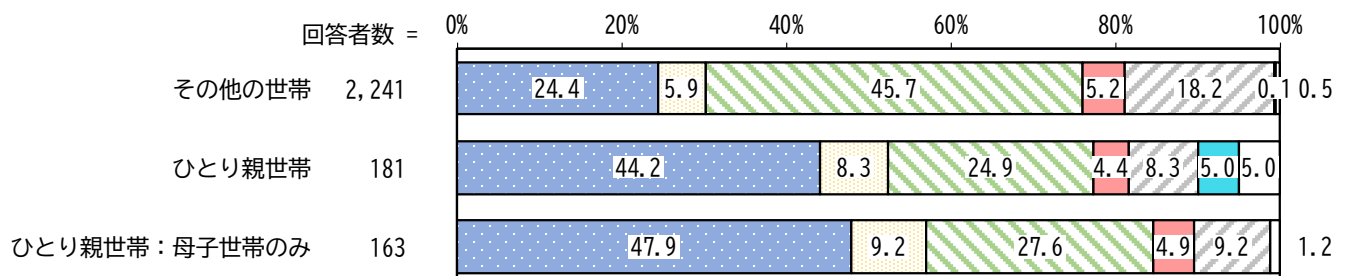
※全国調査：令和３年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和３年 12 月）

* 「いない」、「わからない」の割合を「いない、わからない」に入れています。

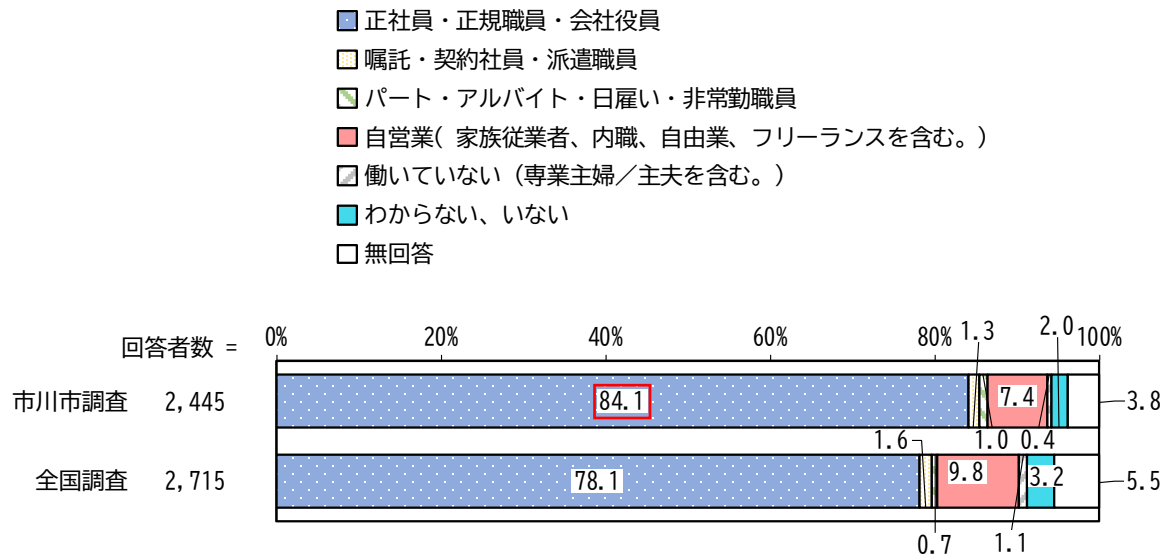
【世帯区分別】



【世帯構成別】

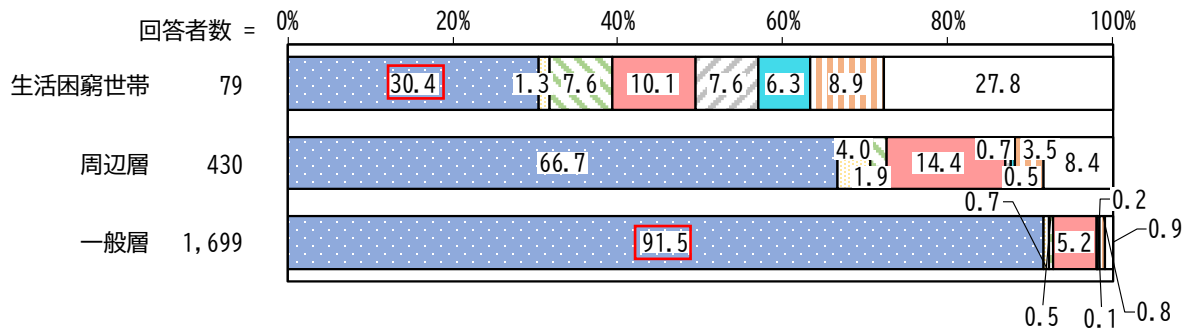


父親の就労の状況

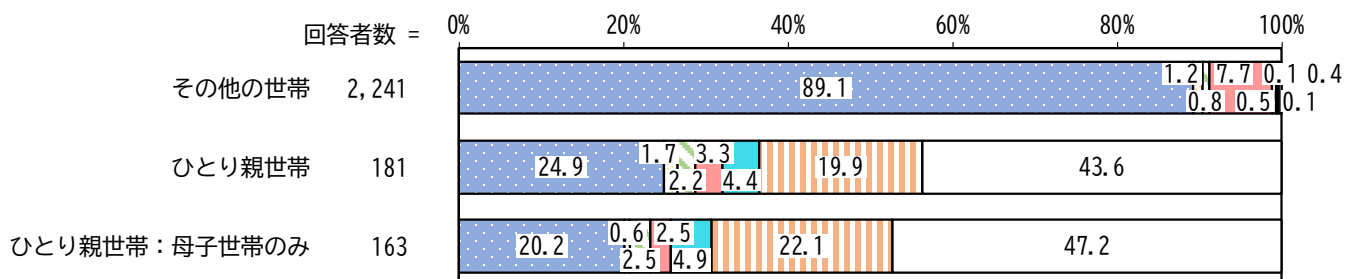


※全国調査：令和３年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和３年１２月）

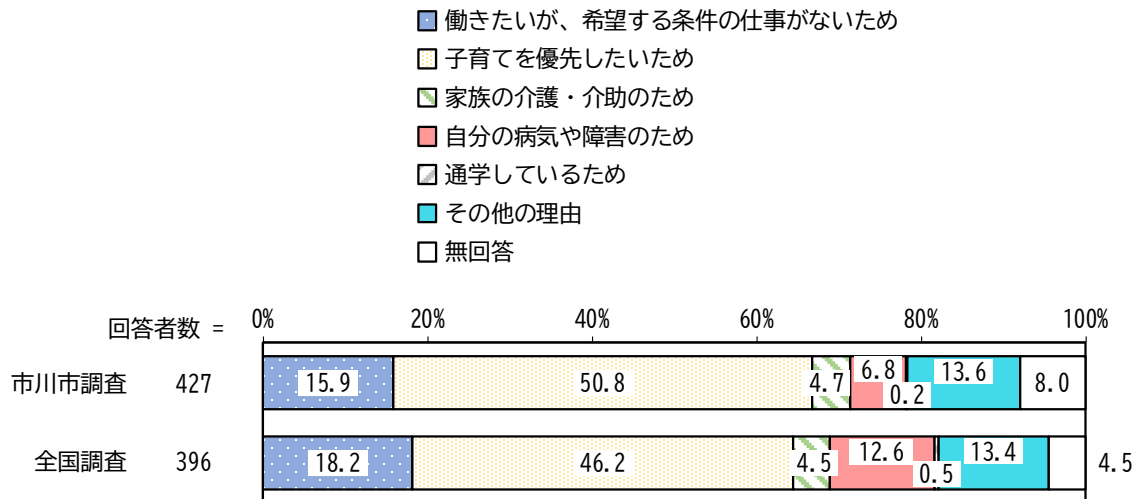
【世帯区分別】



【世帯構成別】

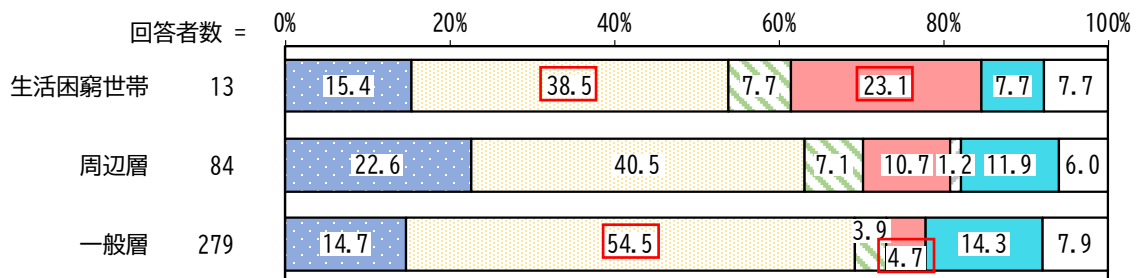


母親の働いていない理由

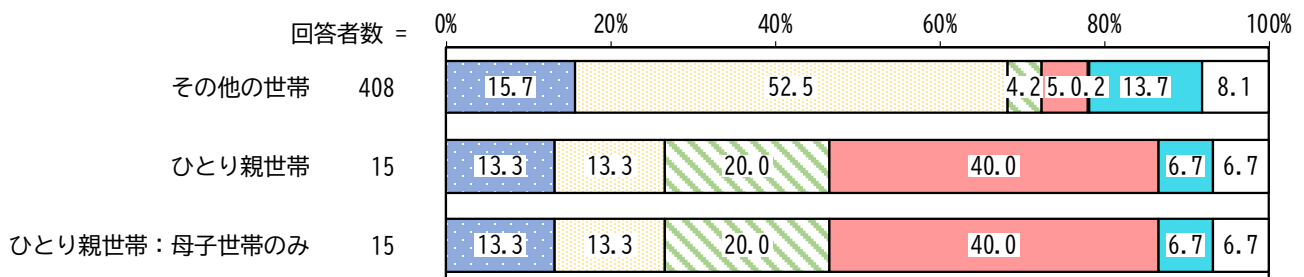


※全国調査：令和３年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和３年１２月）

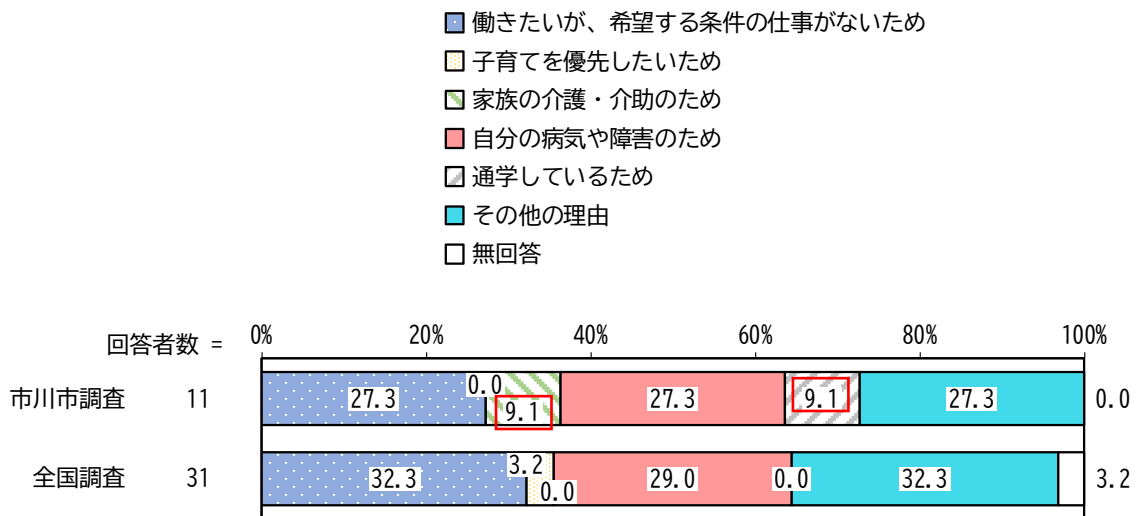
【世帯区分別】



【世帯構成別】

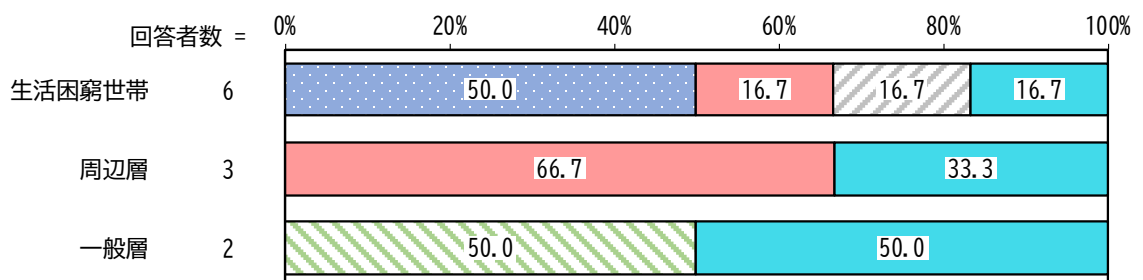


父親の働いていない理由

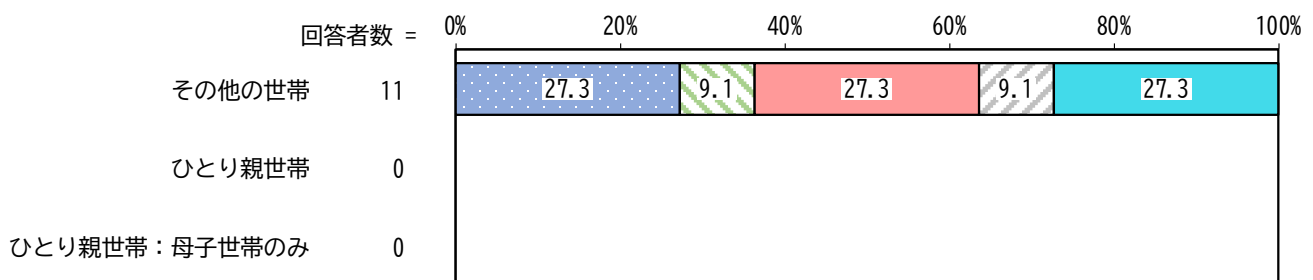


※全国調査：令和３年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和３年１２月）

【世帯区分別】



【世帯構成別】



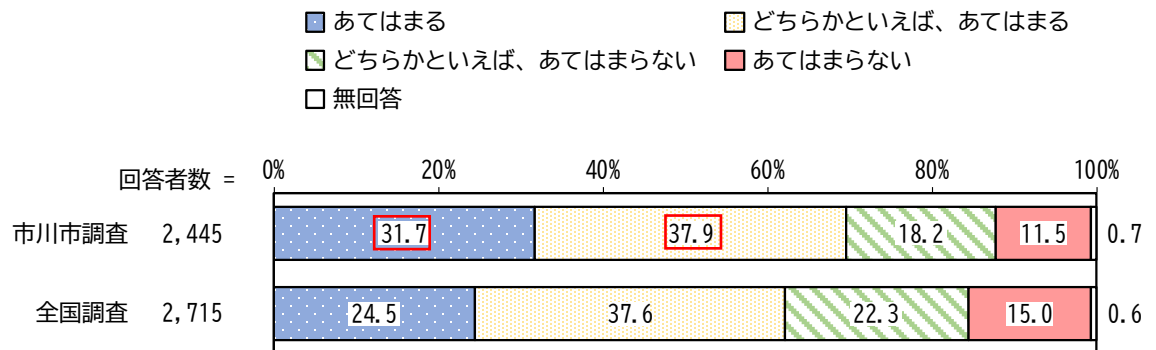
【課題・方向性】

- ・親の就労の状況について、生活困窮世帯では、一般層に比べ「正社員・正規職員・会社役員」の割合が低い傾向となっています。
- ・子育て世帯の経済的自立や生活の安定に向けて、保護者の就労支援や学び直しの支援を行う必要があります。
- ・保護者に対する就労に関する情報提供及び相談の充実を図ることが必要です。

○お子さんとの関わりについて

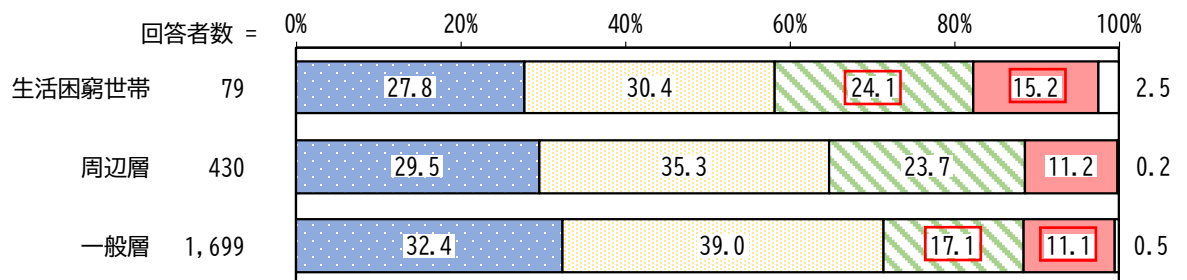
- ・「テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている」について、生活困窮世帯では、一般層に比べ「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」をあわせた“あてはまらない”の割合が高くなっています。全国調査と比較すると、「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」をあわせた“あてはまる”の割合が高くなっています。
- ・「PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加」について、生活困窮世帯で、一般層に比べ「あまり参加していない」と「まったく参加していない」をあわせた“参加していない”の割合が高くなっています。

テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めているか

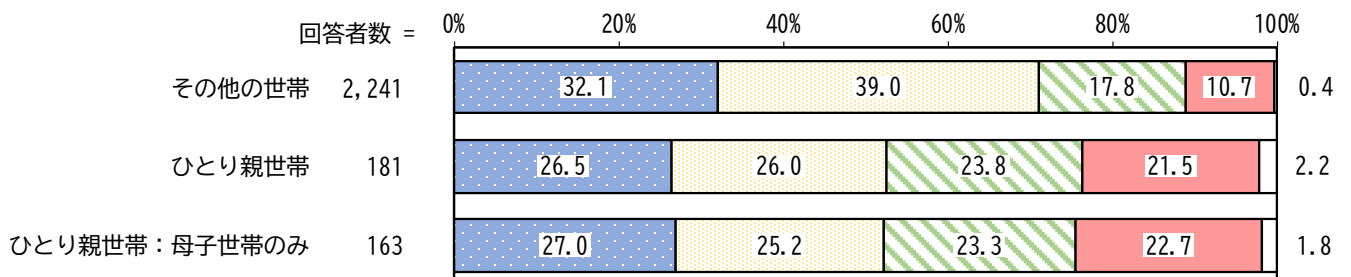


※全国調査：令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和3年12月）

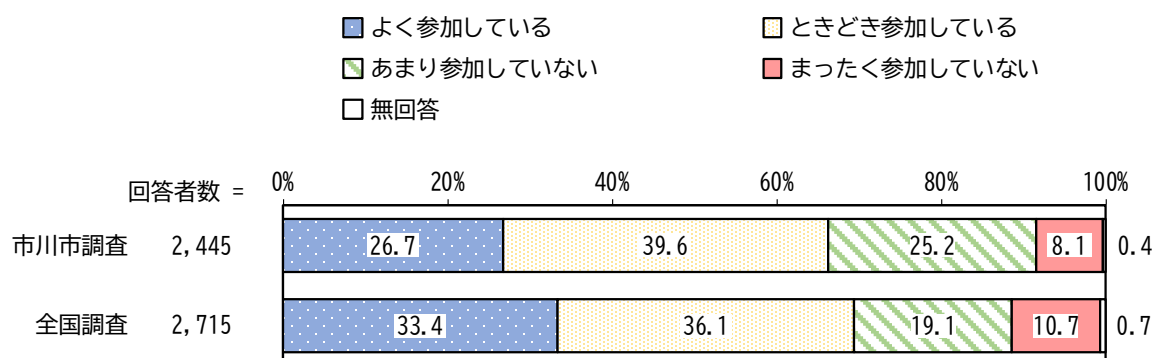
【世帯区分別】



【世帯構成別】

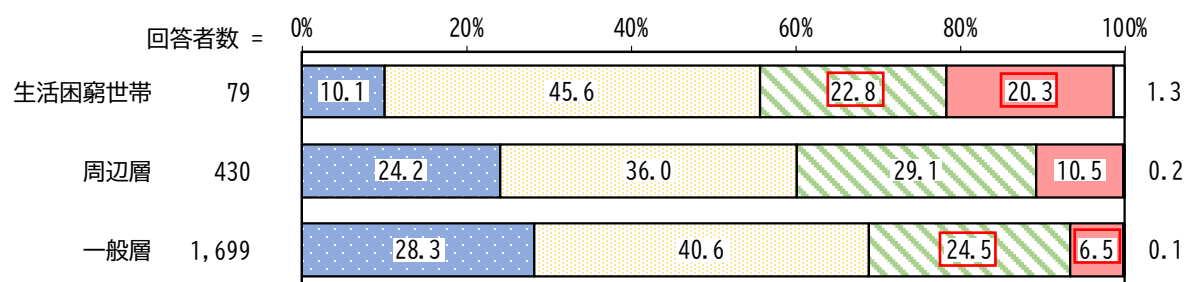


P T A 活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加をしているか

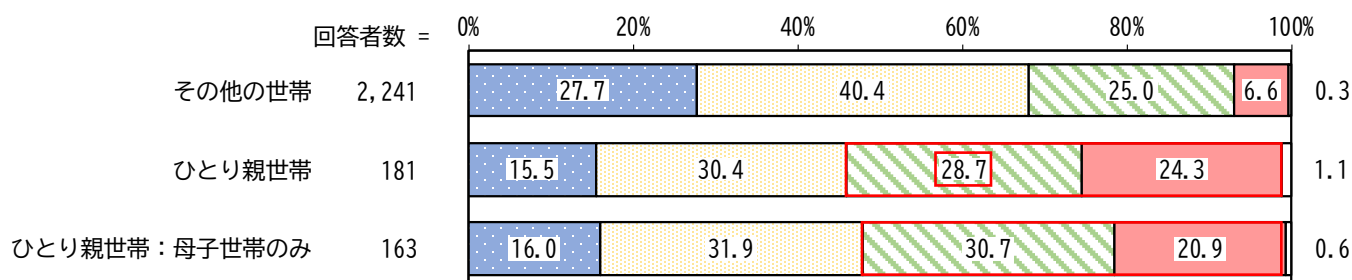


※全国調査：令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和3年12月）

【世帯区分別】



【世帯構成別】



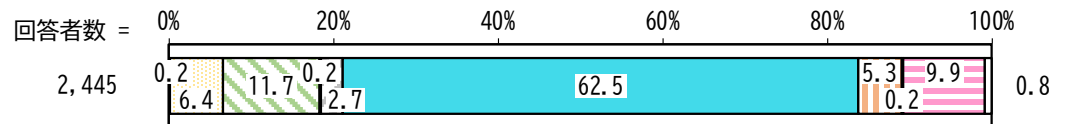
【課題・方向性】

- ・子どもが基本的な生活習慣・生活能力、自立心や自制心、社会的なマナーなどを身に付ける上で重要な役割を担う家庭教育について、理解を深める必要があります。
- ・生活困窮世帯ではP T A活動や保護者会などの社会参加が少なくなっており、孤立防止を防ぐためにも住民同士の声かけや、積極的な情報提供が必要です。

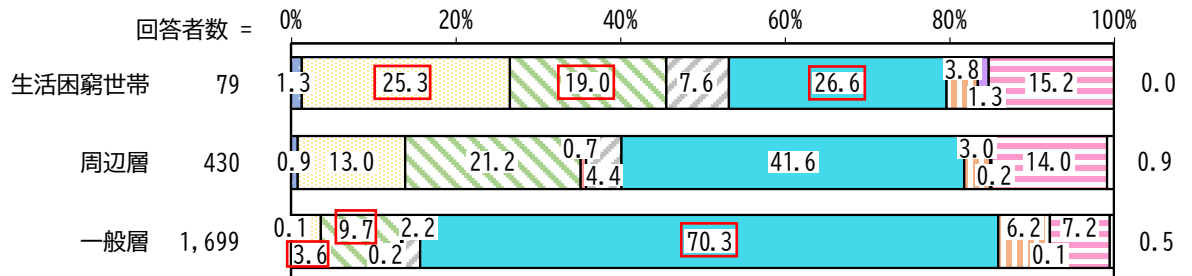
○お子さんの将来的な進学について

- ・ お子さんは将来、現実的に見てどの学校に進学すると思うかについて、生活困窮世帯では、一般層に比べ「中学、高校」「中学、高校、専門学校」の割合が高くなっています。一方、「中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学」の割合が低くなっています。
- ・ その理由については、生活困窮世帯では、一般層に比べ「家庭の経済的な状況から考えて」の割合が高くなっています。全国調査と比較すると、「一般的な進路だと思うから」の割合が高くなっています。一方、「お子さんがそう希望しているから」「お子さんの学力から考えて」の割合が低くなっています。

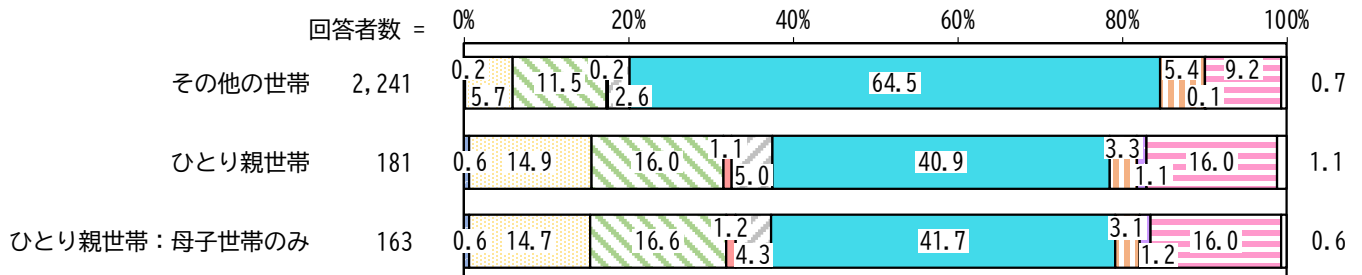
将来、現実的に見てどの学校に進学すると思うか：進学先



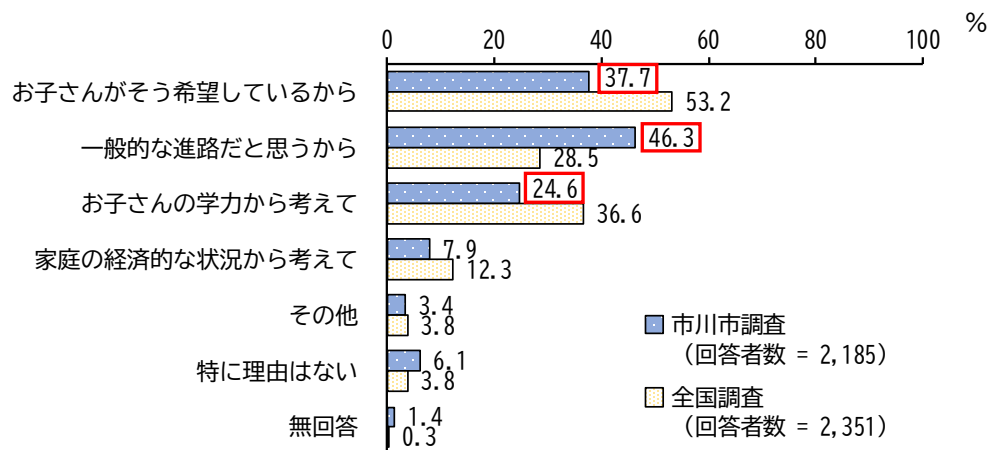
【世帯区分別】



【世帯構成別】

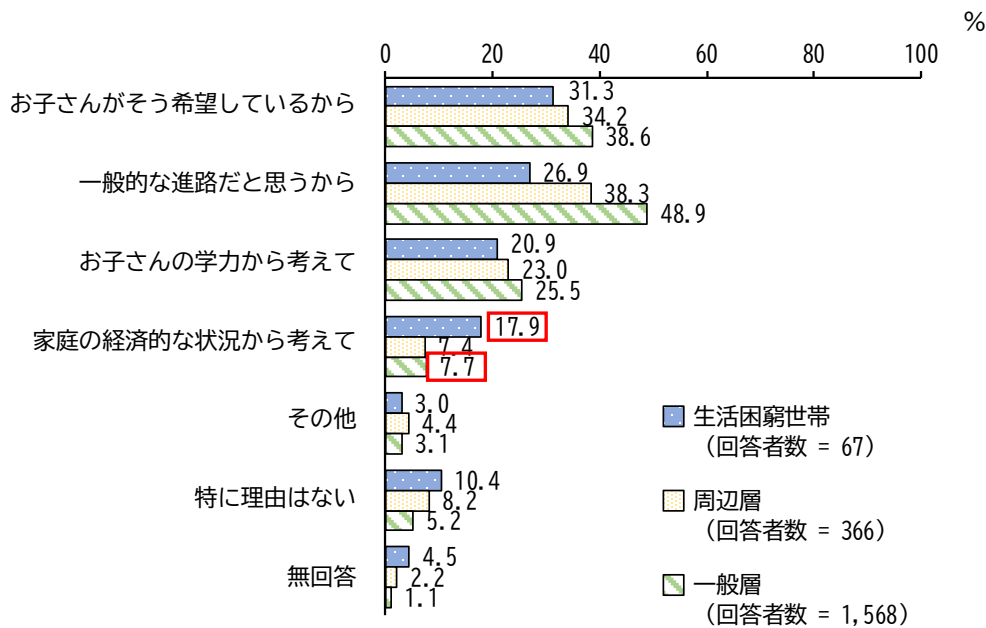


将来、現実的に見てどの学校に進学すると思うか：理由

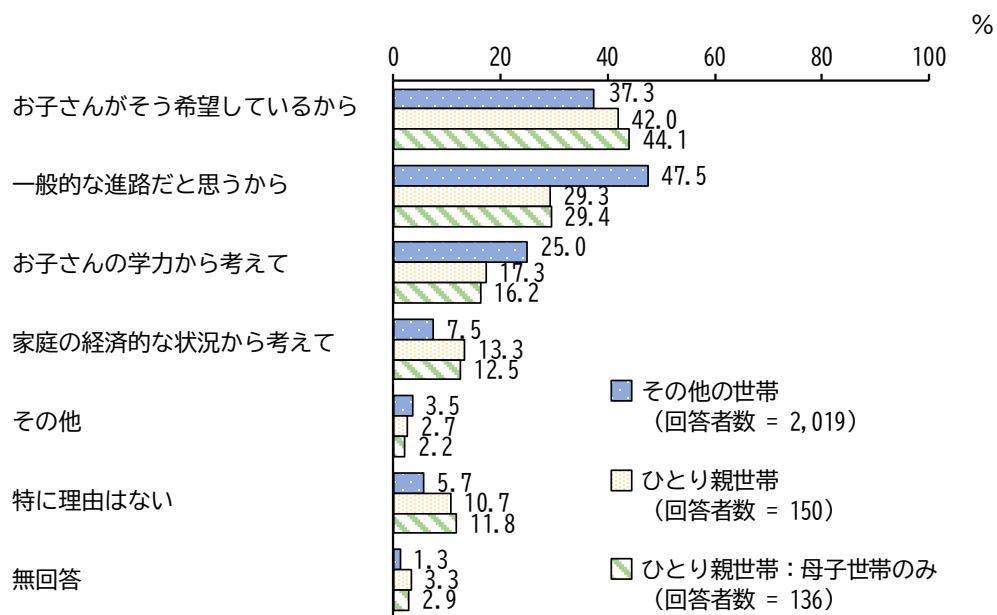


※全国調査：令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和3年12月）

【世帯区分別】



【世帯構成別】



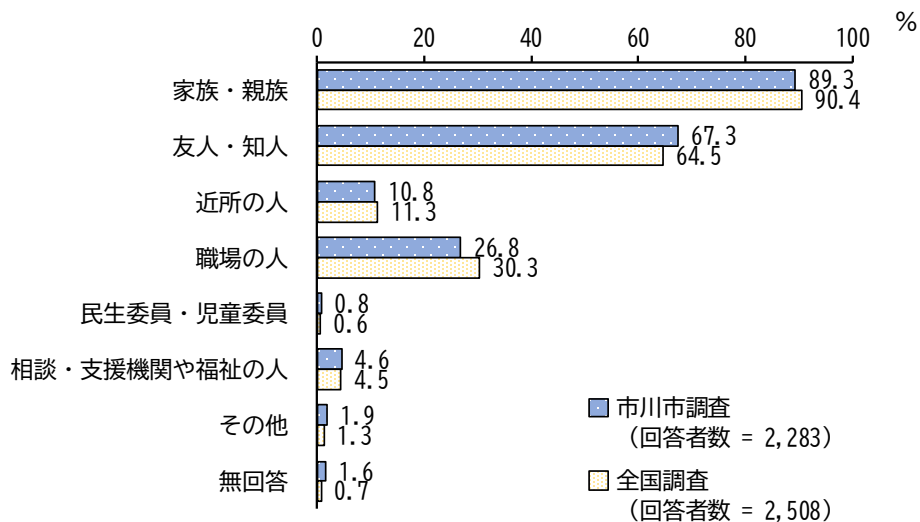
【課題・方向性】

- ・ 経済的な理由により進学が困難となることがないように、また、生活困窮度が高くても安心して教育が受けられるよう教育費負担の軽減を行う必要があります。

○相談相手について

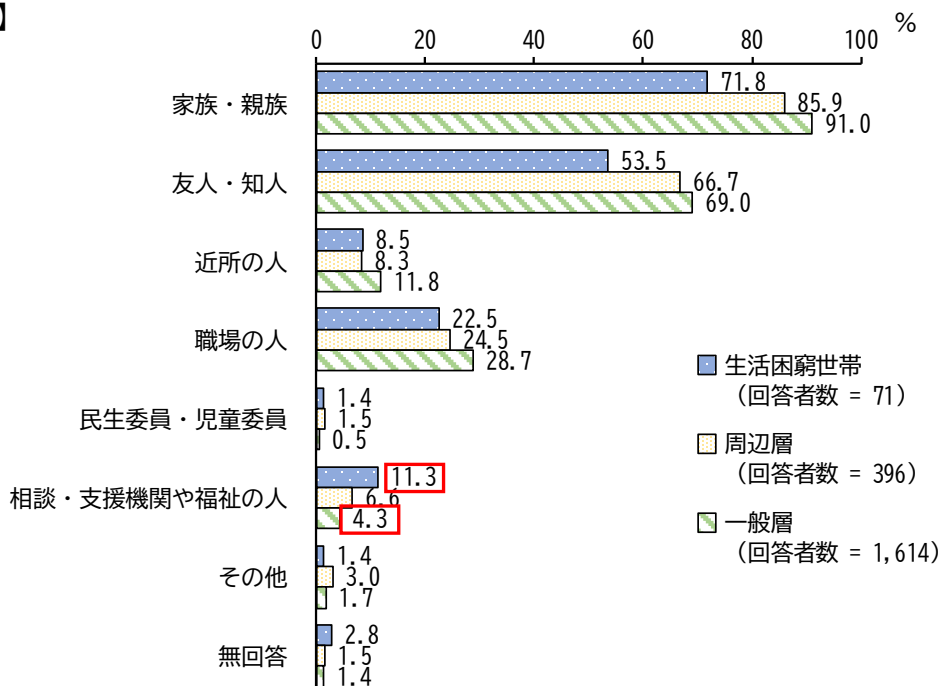
- ・子育てに関する相談で頼れる人がいるかについて、生活困窮世帯では、一般層に比べ「相談・支援機関や福祉の人」の割合が高くなっています。
- ・一方、いざという時のお金の援助で頼れる人がいるかについて、生活困窮世帯では、一般層に比べ「相談・支援機関や福祉の人」の割合が高くなっています。一方、「家族・親族」の割合が低くなっています。

子育てに関する相談で頼れる人

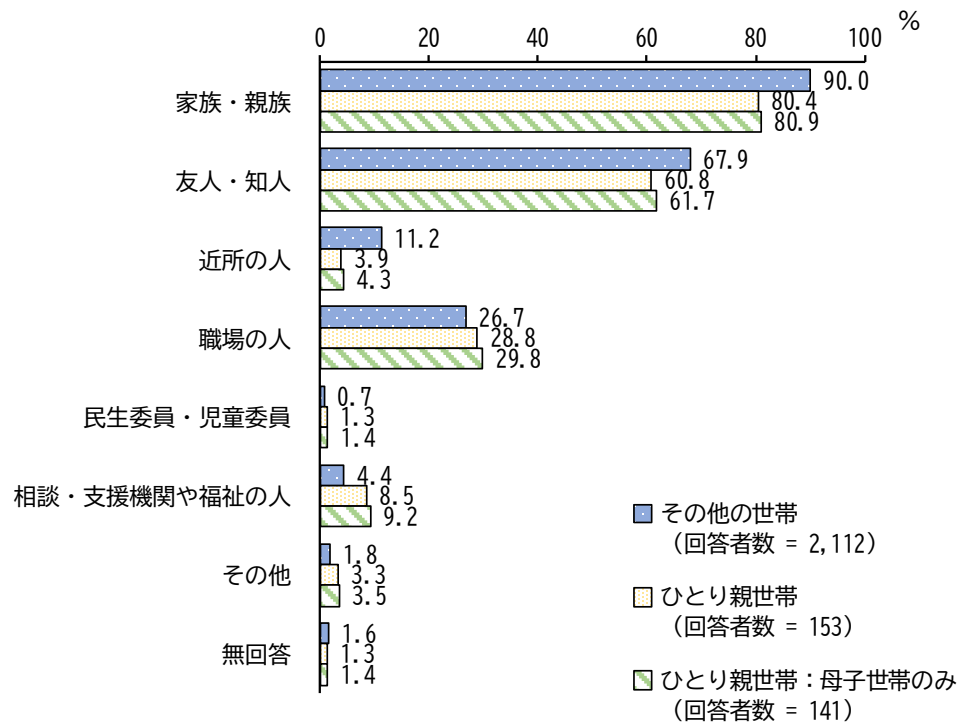


※全国調査：令和３年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和３年１２月）

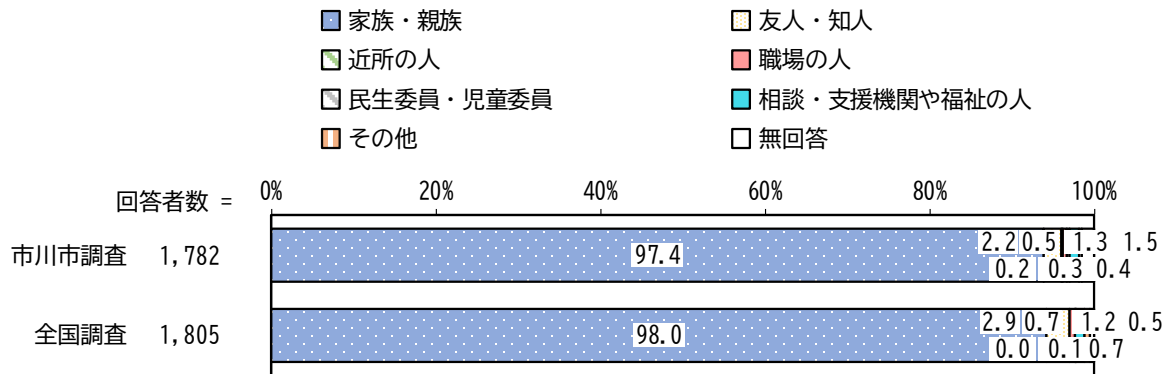
【世帯区分別】



【世帯構成別】

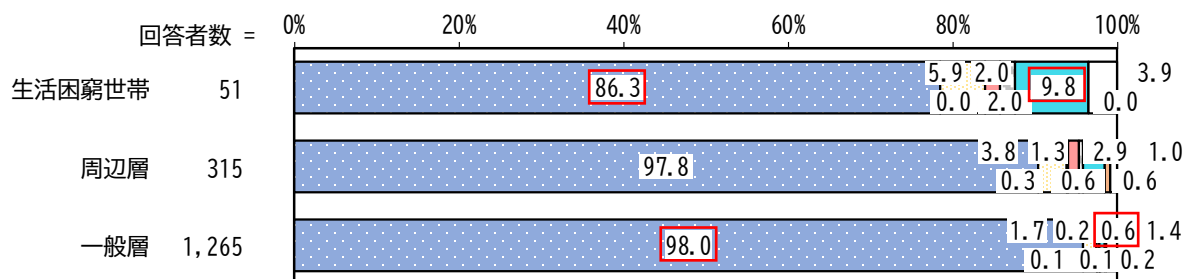


いざという時の金の援助で頼れる人



※全国調査：令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和3年12月）

【世帯区分別】



周囲の人や支援者とのかかわり

- ・主人（子どもの父）が重度の障害者になり、色々と大変だった。今はひとり親世帯として市から援助を受けているが、そういう制度があったことも知らずに1年程過ごしていた。毎月6万円程もらえることがありがたいので、もっと早く知りたかったし、残念。その情報を教えてくれたのも、船橋に住む、同じような障害を持った家族の方で、その人に教えてもらわなければ何も知らなかった。
- ・困っているわけではないが、感情的に子供をしかる事は良くないと思っていて、自分のコントロールがうまくいかない時、子供を間違った方法で育てたくなくて、とっさに児童相談に電話し、子供との事を話した。最近です。

【課題・方向性】

- ・問題が複合化した場合は、単一の支援機関や制度では限界があるため、関係機関の連携や情報共有体制をより一層強化していく必要があります。
- ・支援の必要な子どもや子育て家庭の課題を早期に把握し、適切な支援につなぐことが必要です。

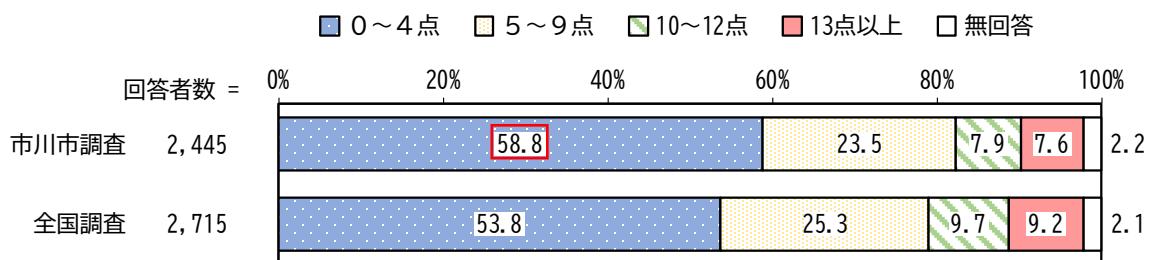
○自身について

※K 6 は米国の Kessler らによって、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として利用されている。

採点方法は、ひとつの質問ごとに 0 点（5. まったくない）から 4 点（1. いつも）を振り、0 点から 24 点で合計を計算する。高くなるほど抑うつ状態が強いことを示している。

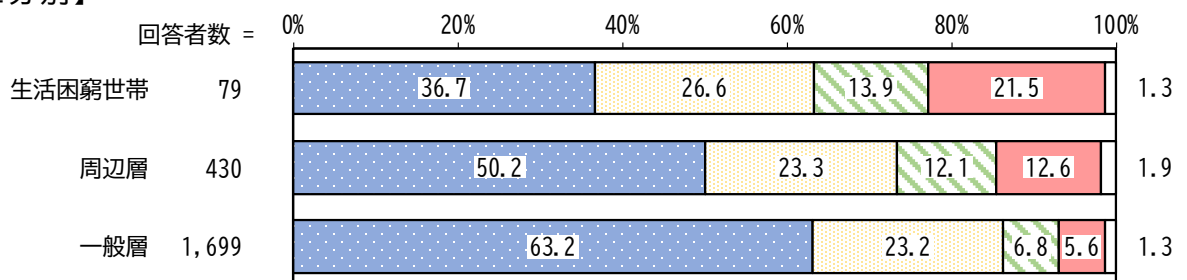
- ・今回調査では「K 6」と呼ばれる指標を把握するための 6 つの項目、「a) 神経過敏に感じた」「b) 絶望的だと感じた」「c) そわそわ、落ち着かなく感じた」「d) 気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じた」「e) 何をするのも面倒だと感じた」「f) 自分は価値のない人間だと感じた」を設定しました。
- ・K 6 について、全国調査と比較すると、「0～4 点」の割合が高くなっており、精神的な問題を抱える人が少ない傾向となっています。

K 6

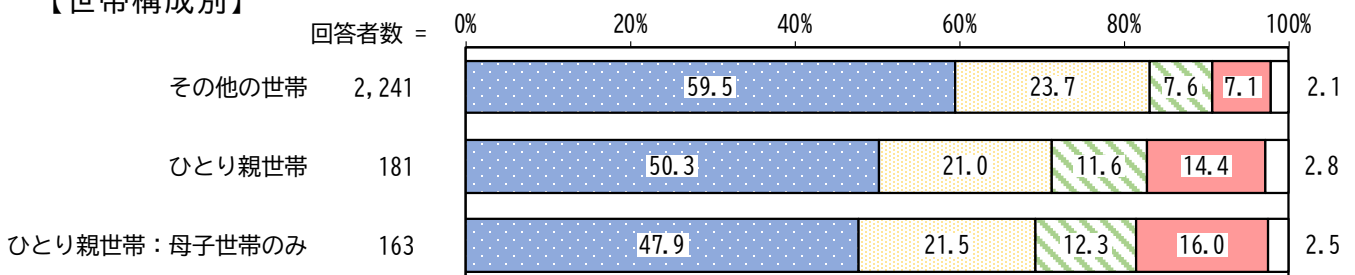


※全国調査：令和 3 年 子供の生活状況調査の分析 報告書（令和 3 年 12 月）

【世帯区分別】

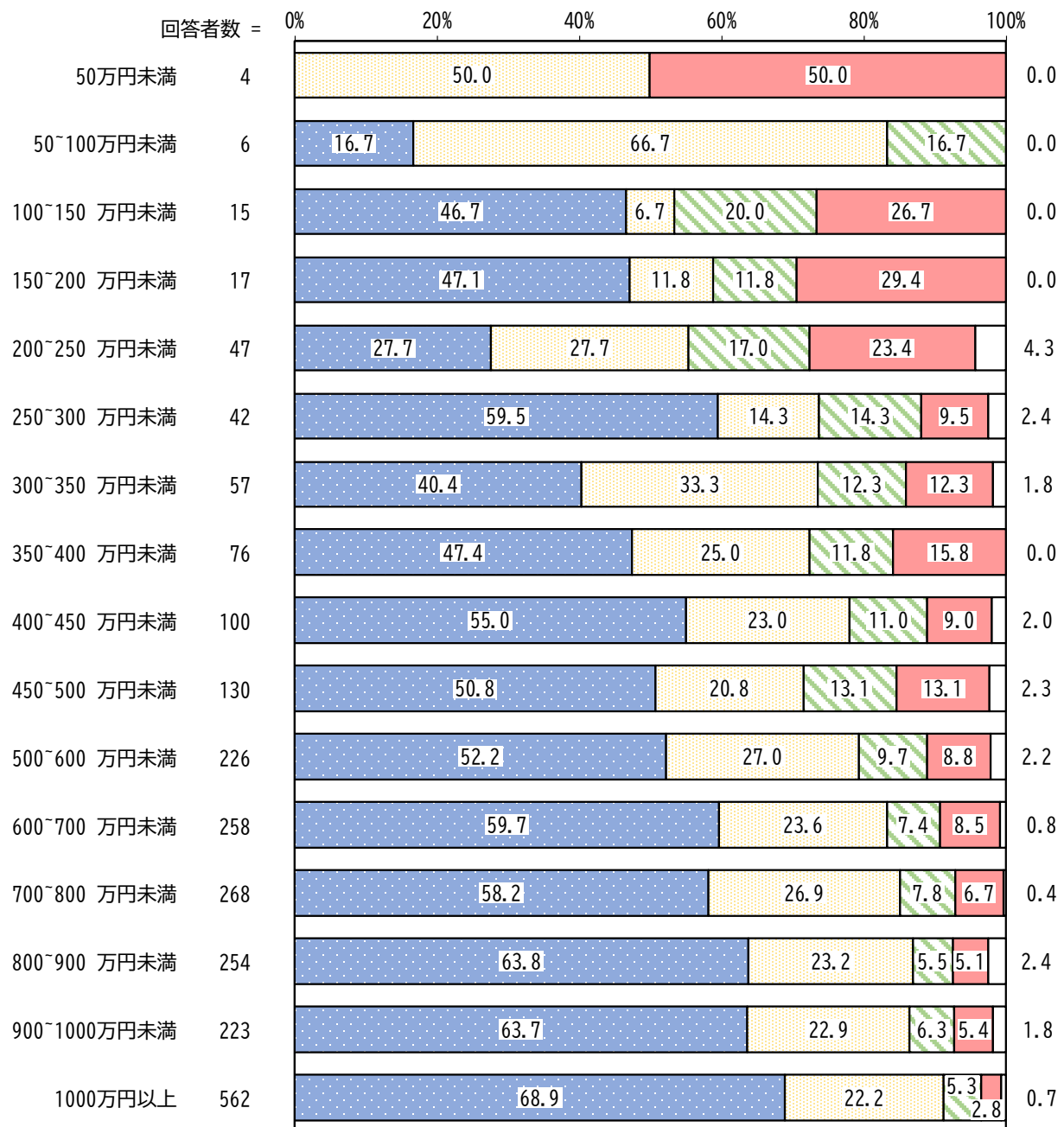


【世帯構成別】

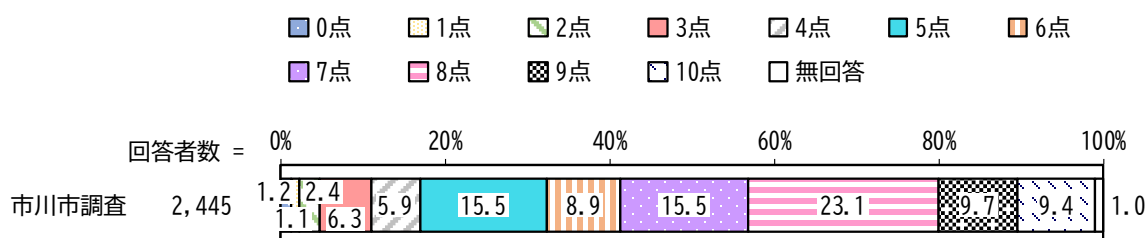


【所得区分別】

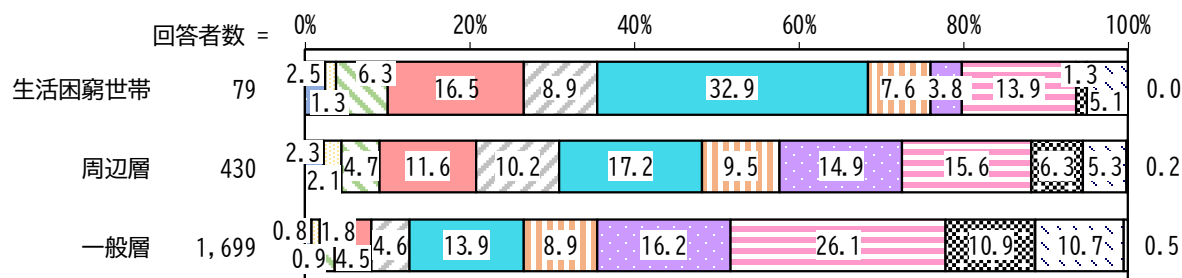
■ 0～4点 ■ 5～9点 ■ 10～12点 ■ 13点以上 □ 無回答



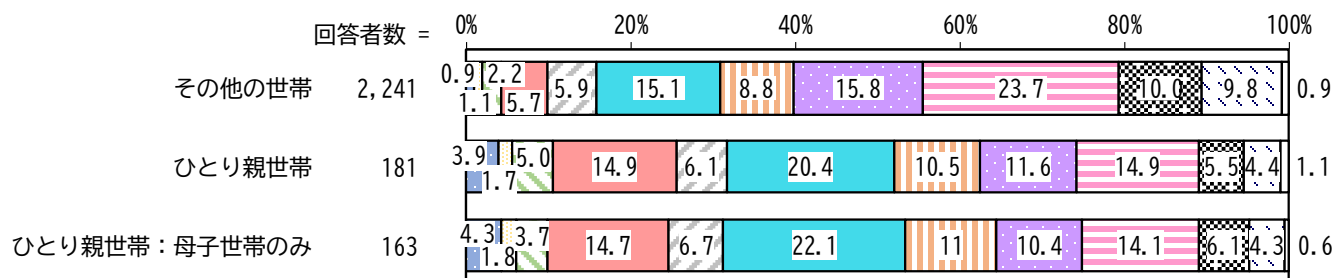
生活満足度



【世帯区分別】



【世帯構成別】



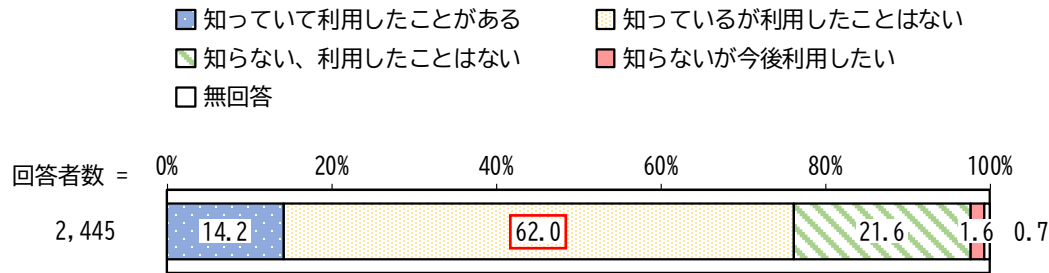
【課題・方向性】

- ・「K6」について、全国調査と比べて、市川市調査では0～4点の割合が高くなっています。
- ・精神的な問題を抱える人の割合が少ないことがうかがえます。
- ・しかし、生活困窮世帯やひとり親世帯：母子世帯では点数が高い傾向があるため、支援が必要です。
- ・すべての子育て家庭が安定した生活を送れるよう、保護者の自立支援や育児負担の軽減を図るとともに、親子の健康の維持・増進を図る必要があります。

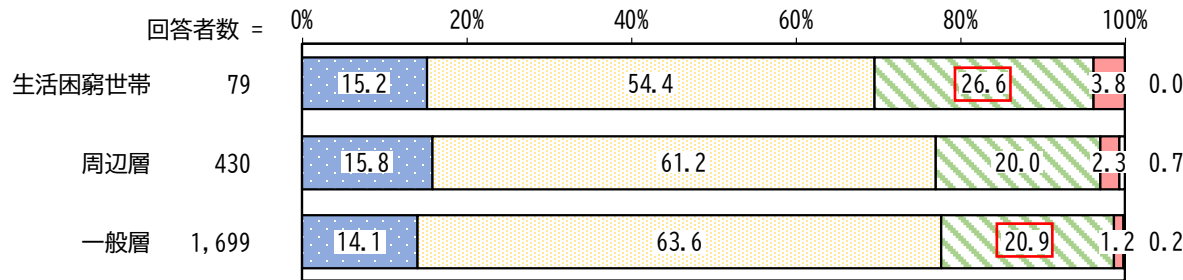
○子育て支援に関する事業・施策について

・「こども家庭支援センター」について、生活困窮世帯では、一般層に比べ「知らない、利用したことはない」の割合が高くなっています。

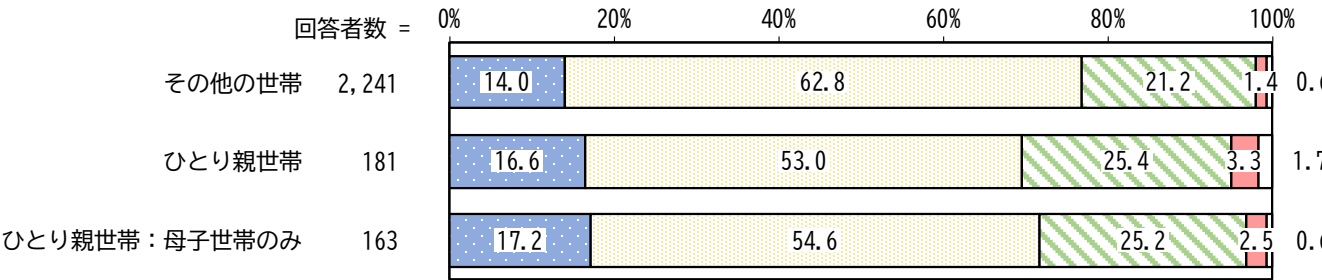
こども家庭支援センター：認知度



【世帯区分別】

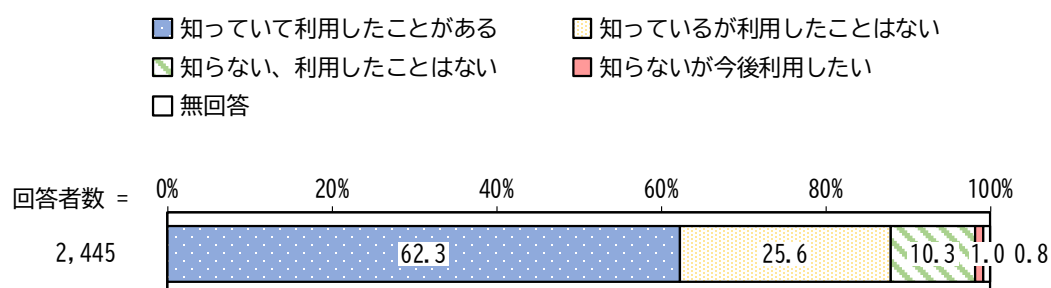


【世帯構成別】

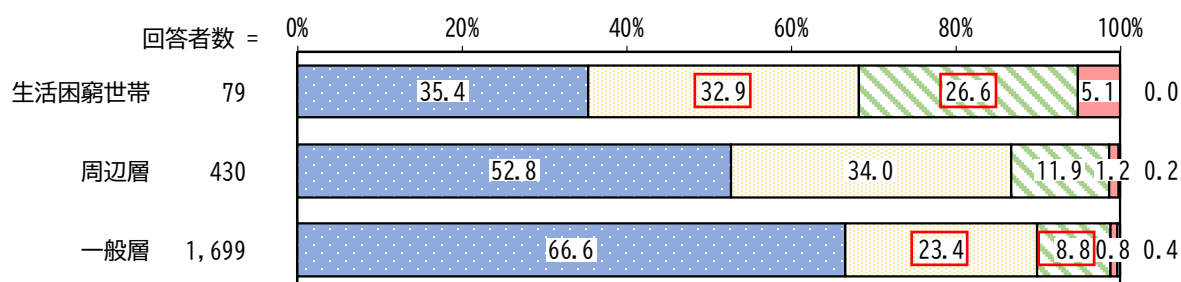


- ・「こども館」について、生活困窮世帯では、一般層に比べ「知らない、利用したことはない」「知っているが利用したことはない」の割合が高くなっています。

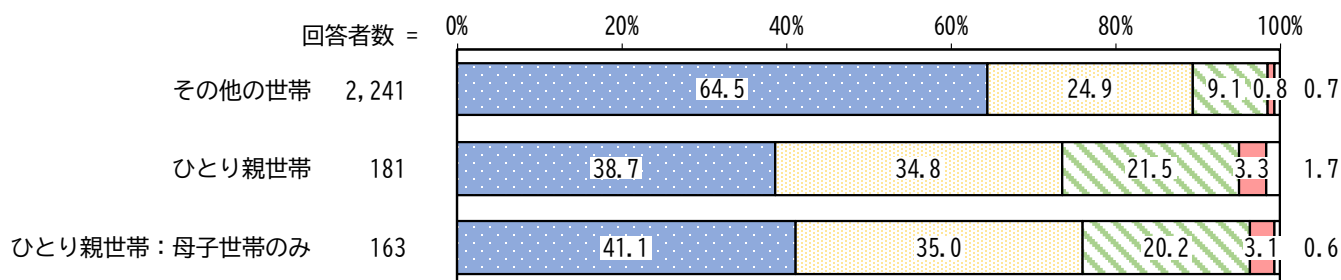
こども館：認知度



【世帯区分別】

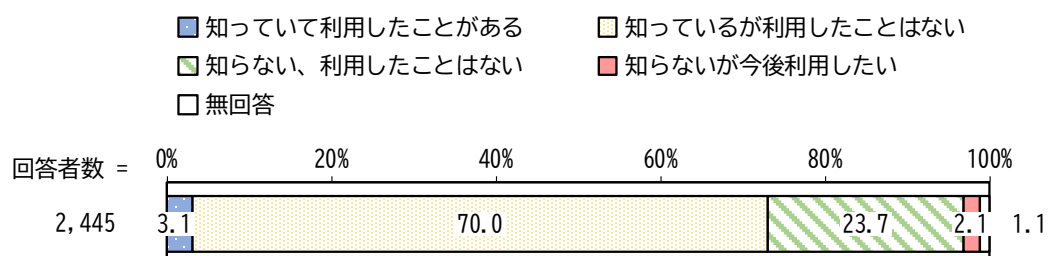


【世帯構成別】

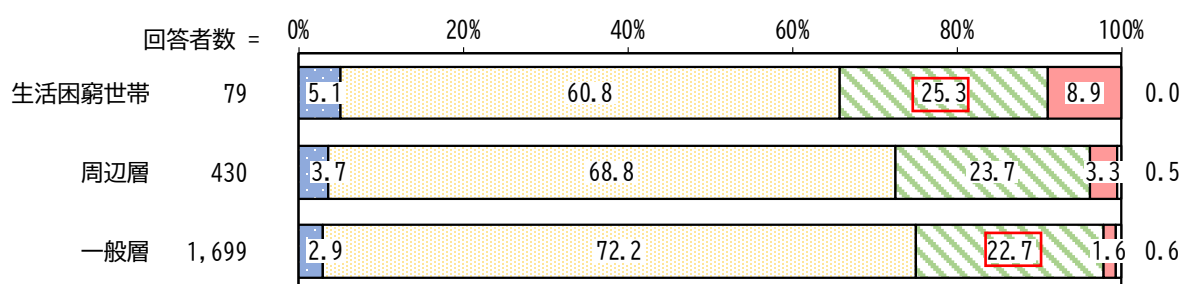


- ・「こども食堂」について、生活困窮世帯では、一般層に比べ「知らない、利用したことはない」の割合が高くなっています。

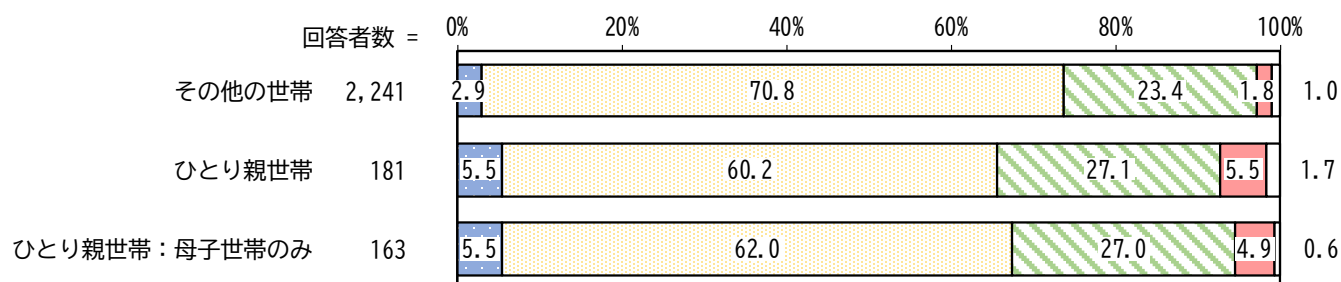
こども食堂：認知度



【世帯区分別】



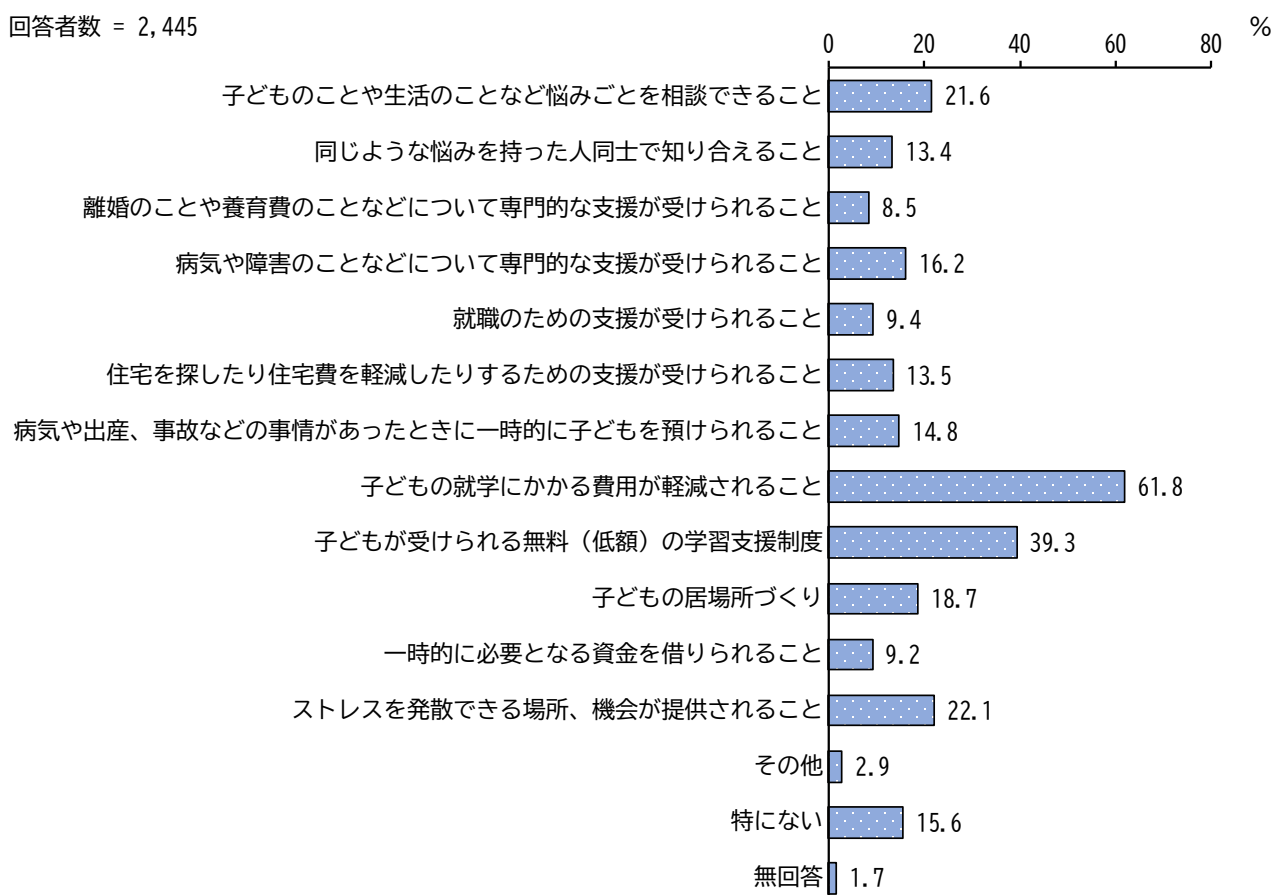
【世帯構成別】



- ・あなたが現在必要としていることで、重要だと思う支援等はどのようなものは、生活困窮世帯では、一般層に比べ「子どもが受けられる無料（低額）の学習支援制度」「住宅を探したり住宅費を軽減したりするための支援が受けられること」「同じような悩みを持った人同士で知り合えること」の割合が高くなっています。

あなたが現在必要としていることで、重要だと思う支援等

回答者数 = 2,445

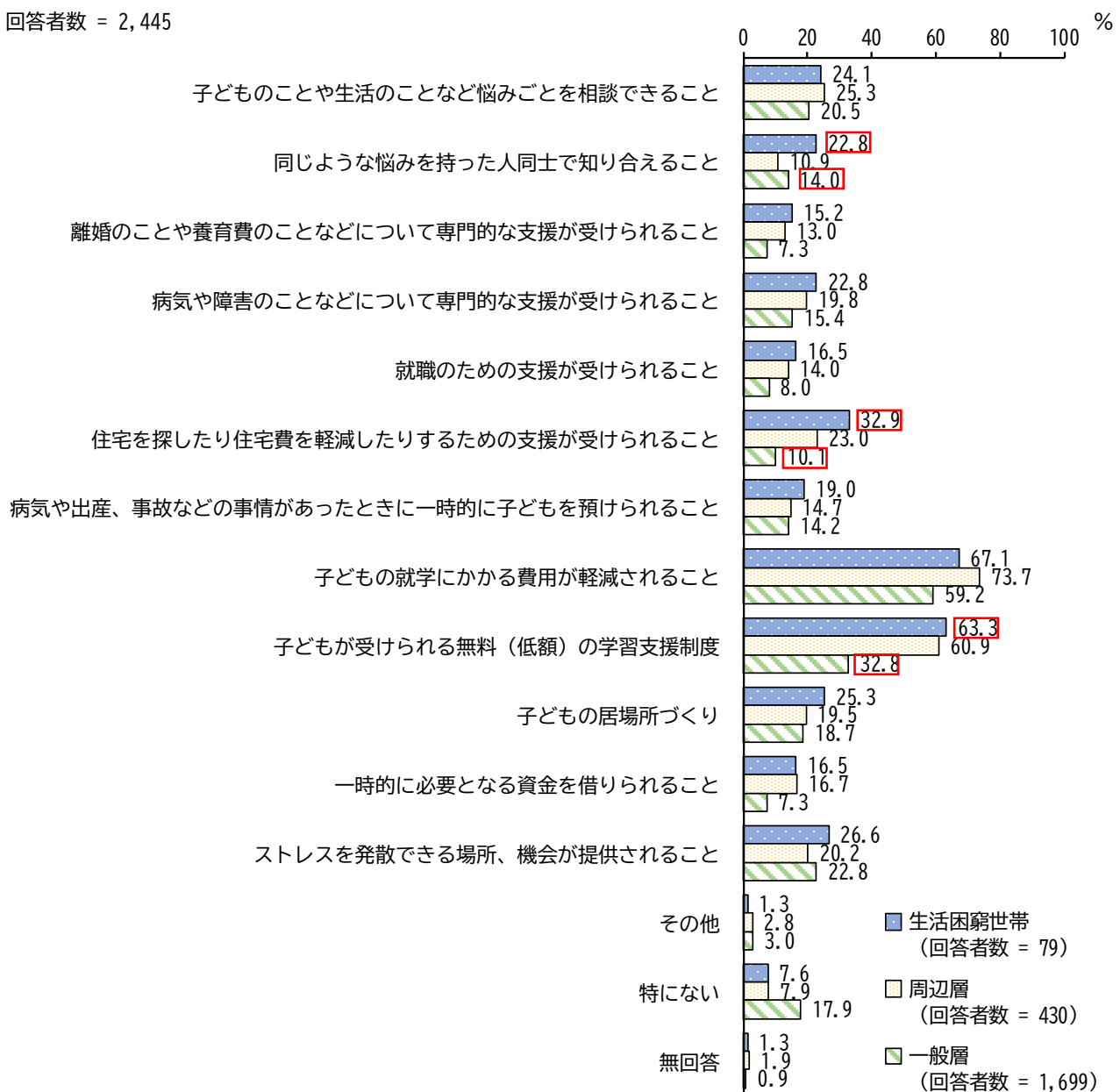


○主なその他意見

- ・年収や子供の人数で支援はあるが、物価上昇にともない、年収も増えていない人には支援がないので、支援をしてほしい
- ・放課後こども教室をどの小学校にも常設してほしい
- ・長期休み等に集団で学習できる場
- ・必要な行政情報を誰もがいつでも得られること
- ・多子世帯に対する世帯収入制限がない支援
- ・医療助成を高校生まで拡大してほしい など

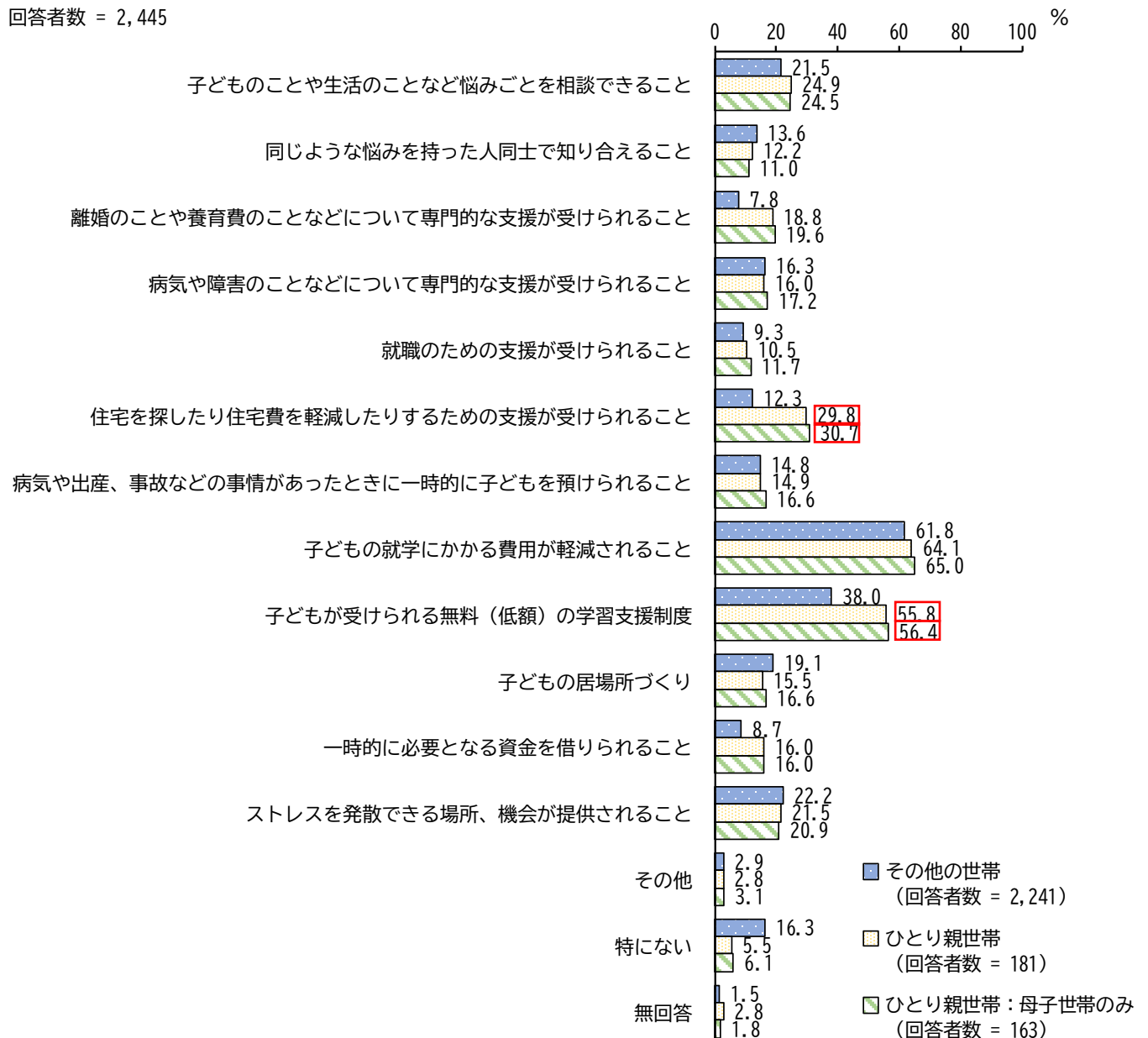
【世帯区分別】

回答者数 = 2,445



【世帯構成別】

回答者数 = 2,445



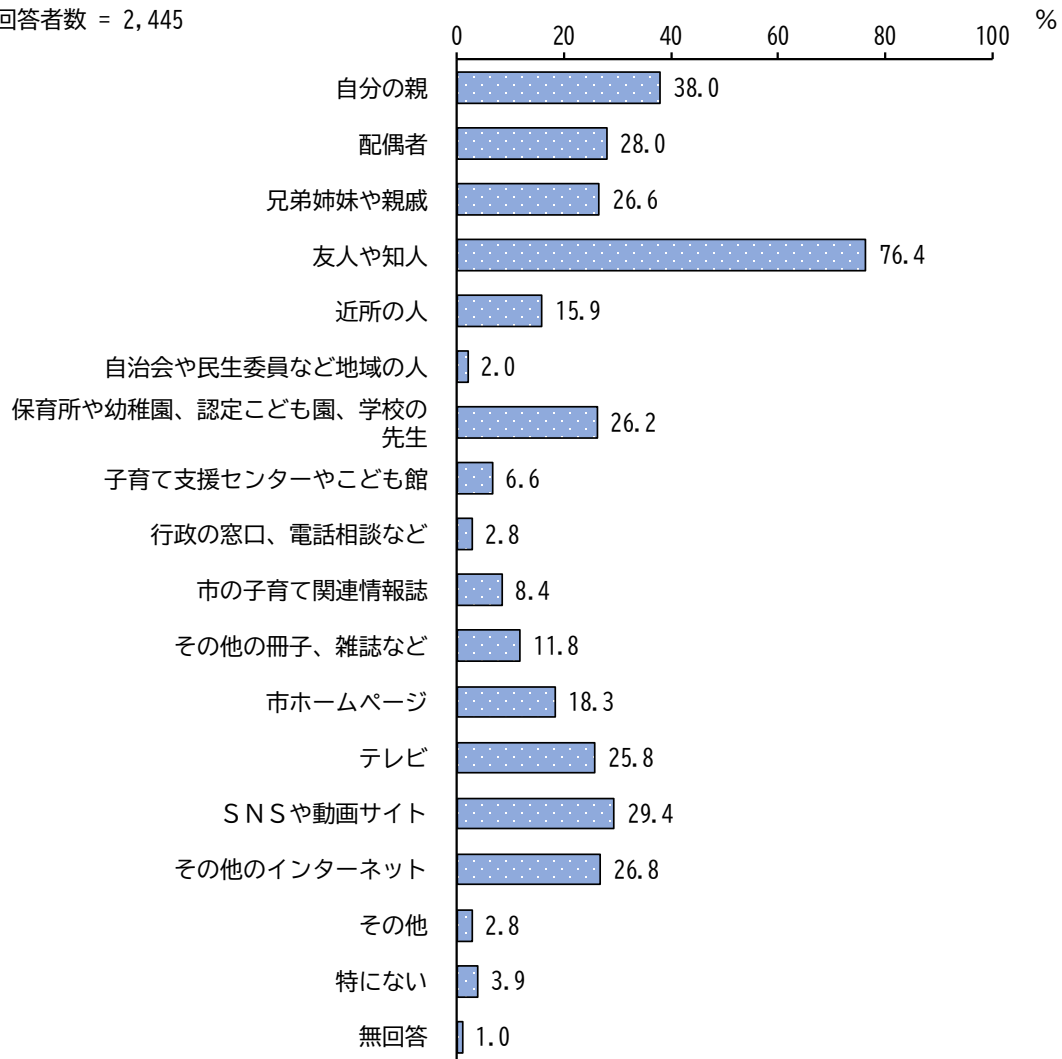
制度利用、支援への要望

- ・ 子供が学校や習い事でイジメにあった場合、相談できる場所がほしい。もしあるなら、その情報を積極的に発信してほしい。また将来通学するだろう公立中学の学力や生活態度の実態などの情報がほしい。
- ・ 非課税世帯より少し収入がある世帯は支援金をもらえず生活が苦しい。物価高騰で貯金できず、塾代もない。

- ・子育てに関する情報をどこから手に入れるかについて、生活困窮世帯では、一般層に比べ「自分の親」「兄弟姉妹や親戚」の割合が高くなっています。

子育てに関する情報の入手先

回答者数 = 2,445

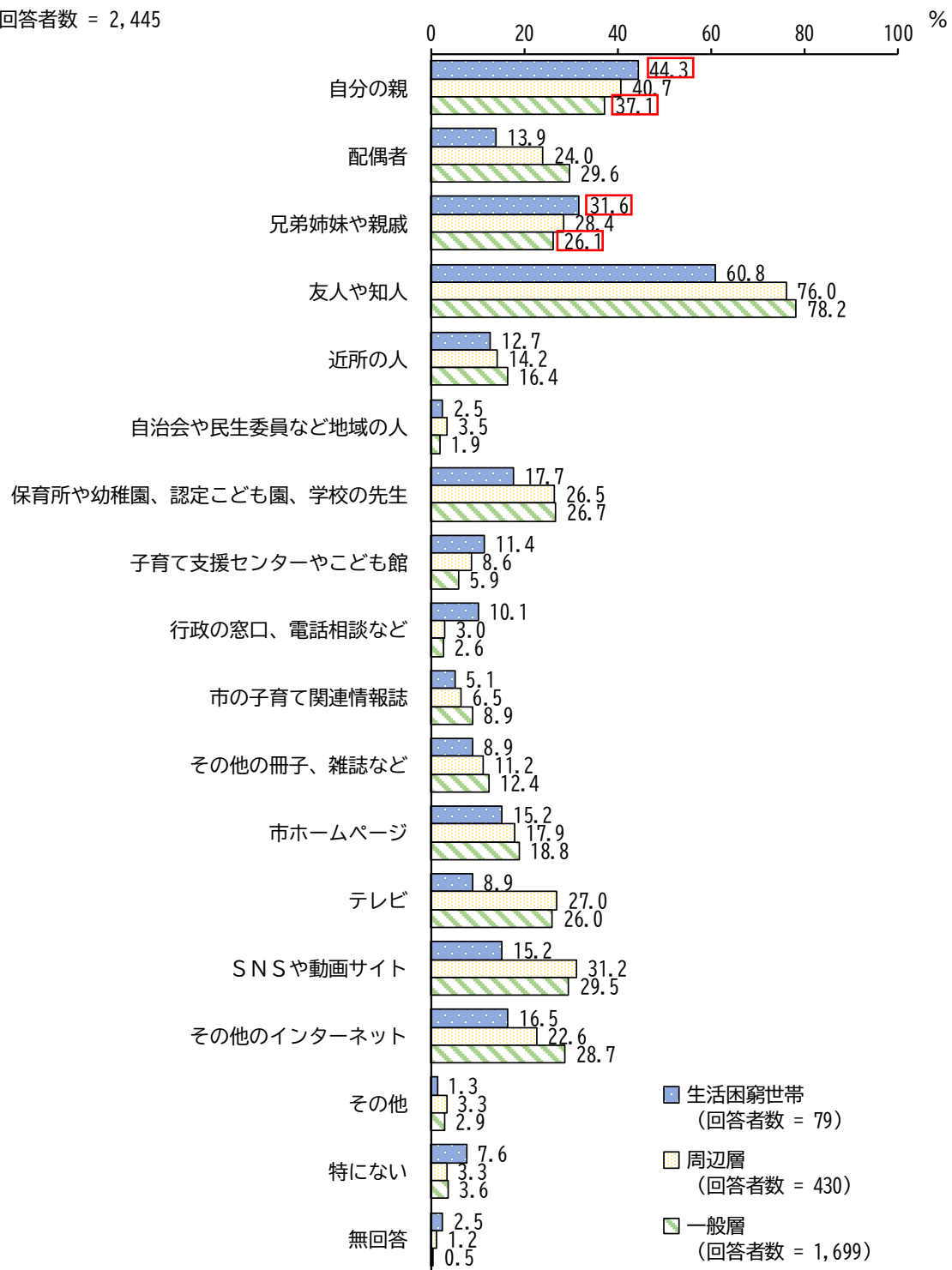


○主なその他意見

- ・ 職場の同僚
- ・ 子供が学校からもらってくるチラシなど
- ・ 病院の掲示物
- ・ 市からのメールマガジン
- ・ 新聞
- ・ 塾の先生 など

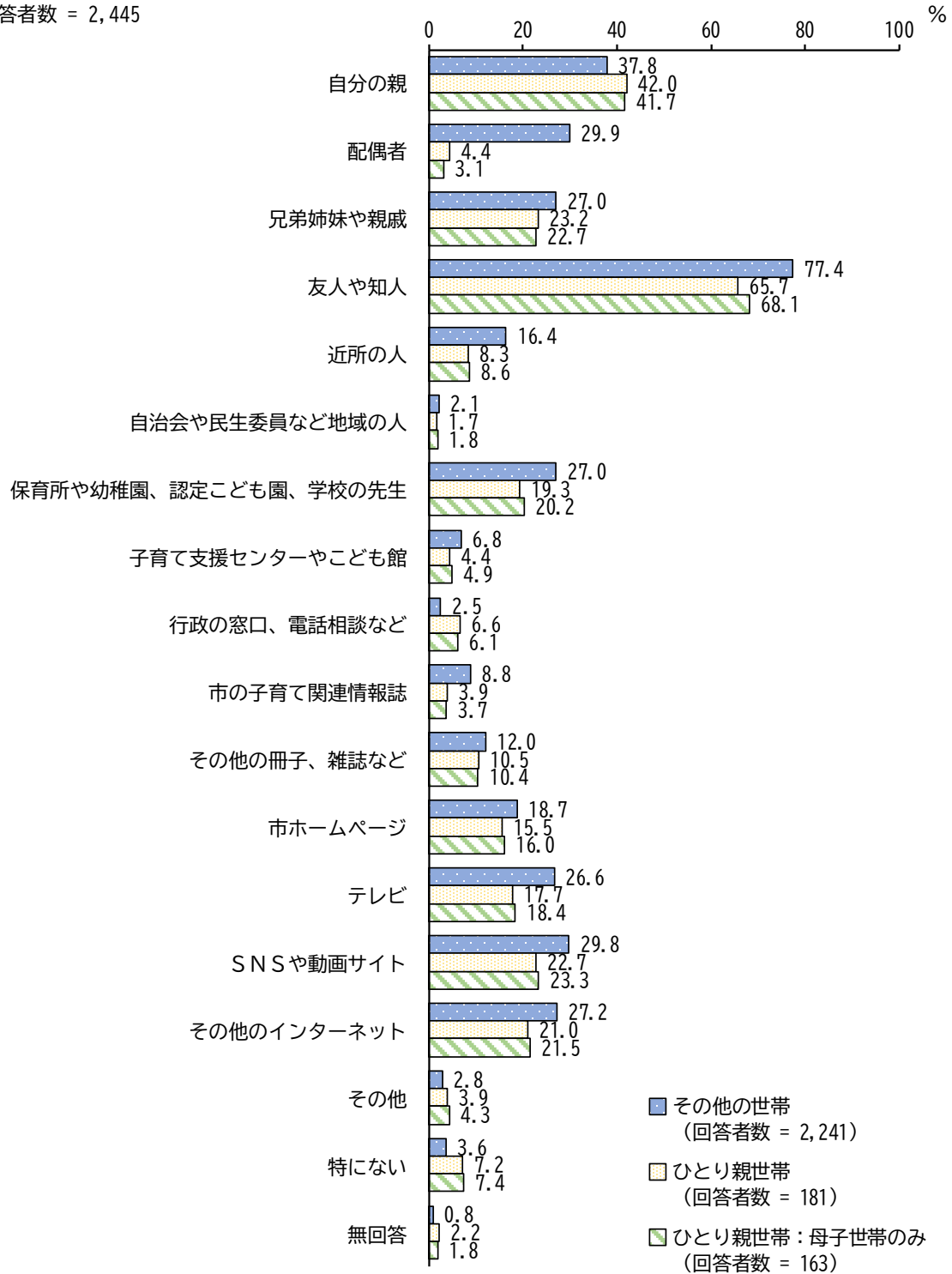
【世帯区分別】

回答者数 = 2,445



【世帯構成別】

回答者数 = 2,445



【課題・方向性】

- ・ 貧困の状況にある子どもやその家庭の一部には、必要な支援制度を知らない、手続きが分からない、積極的に利用したがない等の状況も見られるため、こうした子どもたちや家庭を早期に発見し、支援につなげられるよう、アウトリーチ型のアプローチや、気軽に相談できる機会の充実が必要です。

記述回答 その他

- ・無料の学童など、働いてなくても子供達が行けるところが、他の地域みたいにあると思う。
- ・こども支援とは別になりますが、別居している両親が、引きこもりの弟の面倒を見ています。両親は自分達で何とかするつもりで、弟の状態は何年も変わりません。（弟には家族がありましたが、離婚し、仕事もやめています。）40代以上の引きこもりに対し、家族だけでなく、地域としてのサポートが充実すれば良いと思います。

【課題・方向性】

- ・子どもの学習について、塾に通わせることができない家庭に向けた、学習支援が必要です。
- ・物価高騰により生活が困窮している家庭への経済的な支援が必要です。
- ・市が実施している支援やサービスを知らないという意見が多くみられるため、積極的に情報を発信し、地域住民へ周知することが必要となります。

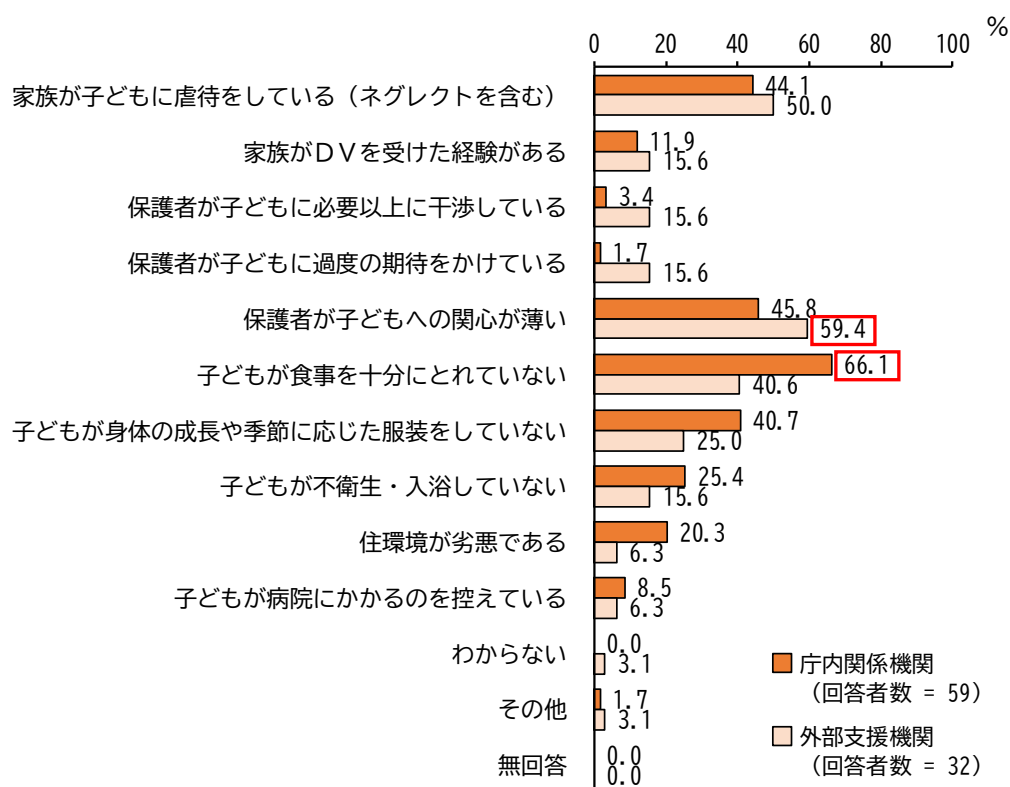
Ⅲ 資源量調査結果

外部支援機関調査・庁内関係機関調査

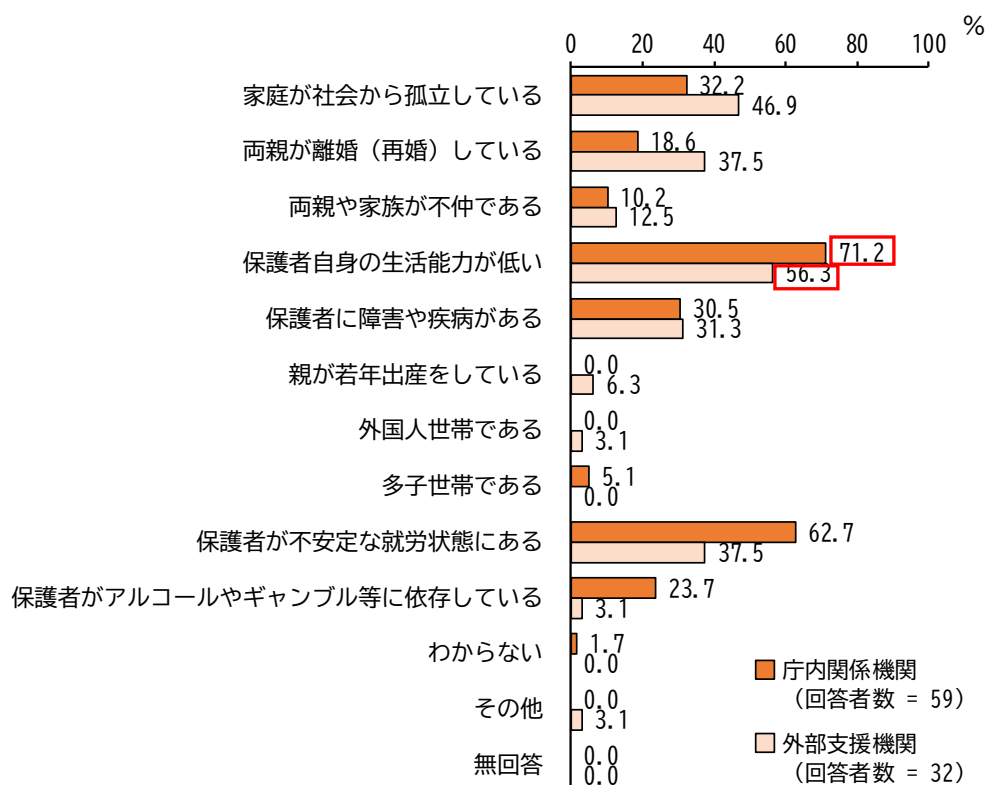
○貧困状況にある子どもの家庭に多くある困難な状況について

- ・貧困状況にある子どもの家庭に多くある困難な状況について、「子どもが食事を十分にとれていない」の割合が庁内関係機関では 66.1%と最も高く、「保護者が子どもへの関心が薄い」の割合が外部支援機関では 59.4%と最も高くなっています。
- ・貧困状況にある子どもの家庭に多くある困難な状況の要因や背景について、「保護者自身の生活能力が低い」の割合が、庁内関係機関では 71.2%、外部支援機関では 56.3%と最も高くなっています。

貧困状況にある子どもの家庭に多くある困難な状況



貧困状況にある子どもの家庭に多くある困難な状況の要因や背景



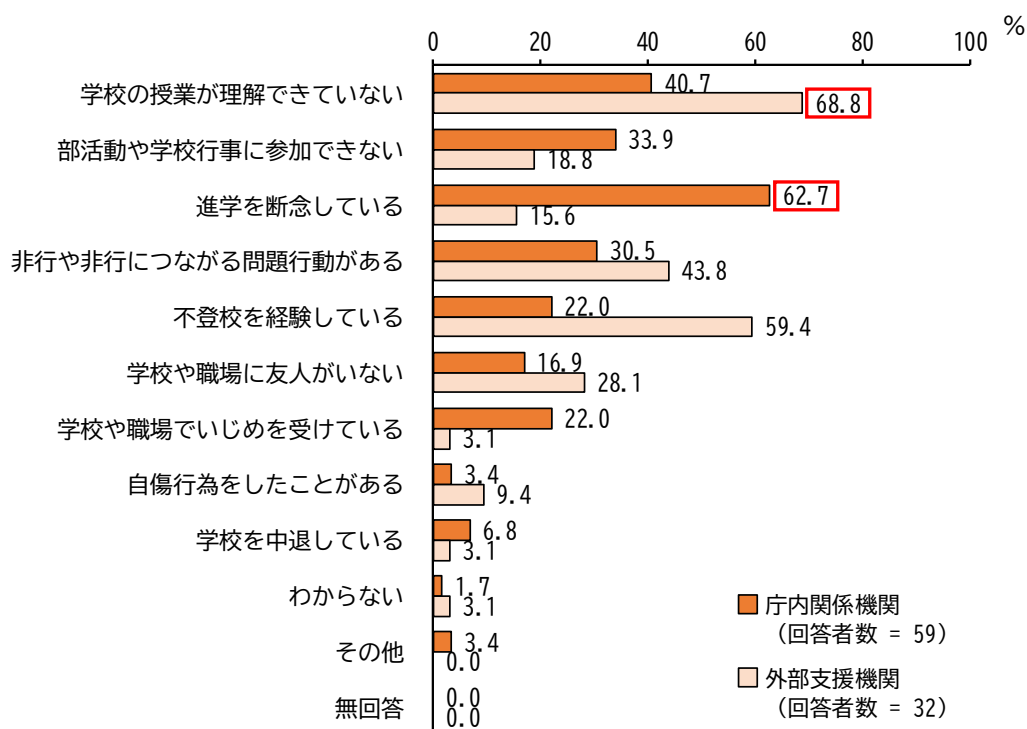
【課題・方向性】

- ・ 貧困状況にある子どもの家庭において、保護者自身の生活能力の低さや不安定な就労状況がみられます。
- ・ 食事や服装など、保護者が子どもに関わる時間がとれていない様子や、子どもへのケアが十分行えていない様子がうかがえることから、保護者の安定した就労に向けて、就労機会の提供や就労訓練の場、家庭の状況に応じた家計の見直しなどが必要です。

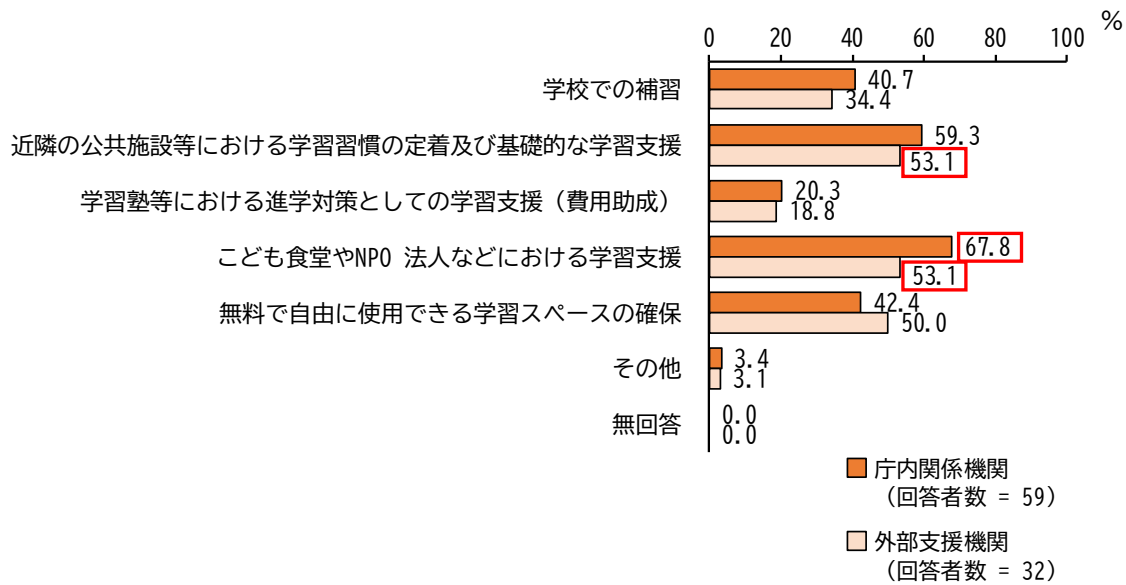
○貧困状況にある家庭への支援について

- ・貧困状況にある子どもが多く陥る困難な状況について、「進学を断念している」の割合が庁内関係機関では 62.7%と最も高く、「学校の授業が理解できていない」の割合が外部支援機関では 68.8%と最も高くなっています。
- ・貧困状況にある子どもに対する学習支援について、「こども食堂や NPO 法人などにおける学習支援」の割合が庁内関係機関では 67.8%と最も高く、「近隣の公共施設等における学習習慣の定着及び基礎的な学習支援」「こども食堂や NPO 法人などにおける学習支援」の割合が外部支援機関では 53.1%と最も高くなっています。
- ・連携して支援をするうえでの課題について、「各機関で情報を共有する必要があるが個人情報保護の点で難しい」の割合が庁内関係機関では 40.7%と最も高く、「他の機関で行っているサービスの情報がない」の割合が外部支援機関では 37.5%と最も高くなっています。
- ・貧困状況にある家庭への支援にあたっての困難な点について、「保護者との接触、信頼関係づくりが難しい」の割合が 68.8%と最も高くなっています。
- ・貧困状況にある子どもや親に対する支援について、「訪問による早期発見や生活支援」の割合が 65.6%と最も高くなっています。

貧困状況にある子どもが多く陥る困難な状況



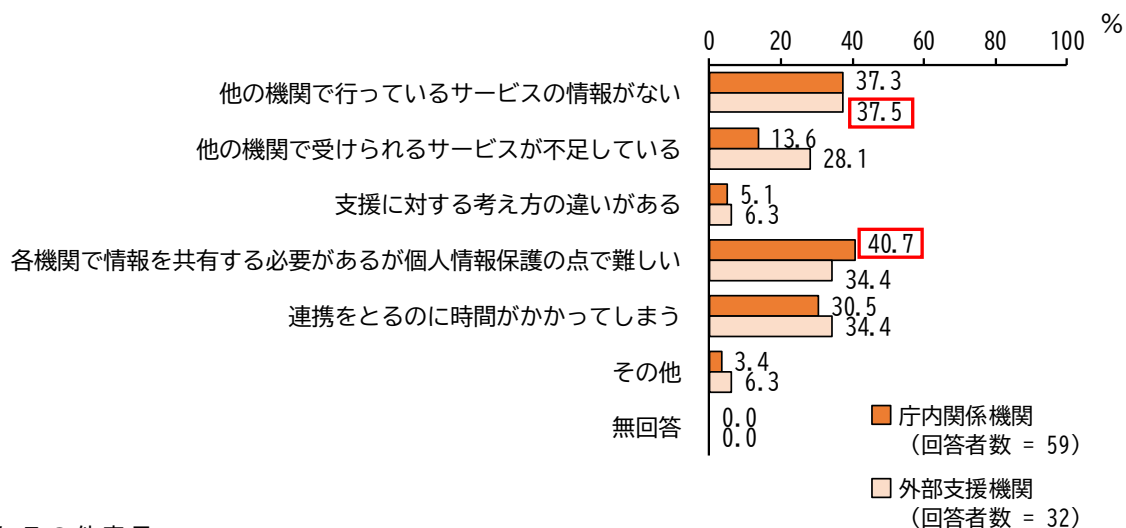
貧困状況にある子どもに対する学習支援



○主なその他意見

- ・無料、学習スペース、補習などやったところで本人の意欲ややる気がないと続かないし無意味。それなら一人ひとりにあった能力や（文系や理系、芸術や運動やオタク系など）各分野に分けて期間限定で学ばせたり支援すれば長い目で見てその子本人のため、ゆくゆくは将来の日本のためになると思う。
- ・学校以外の居場所を提供する など

連携して支援をするうえでの課題



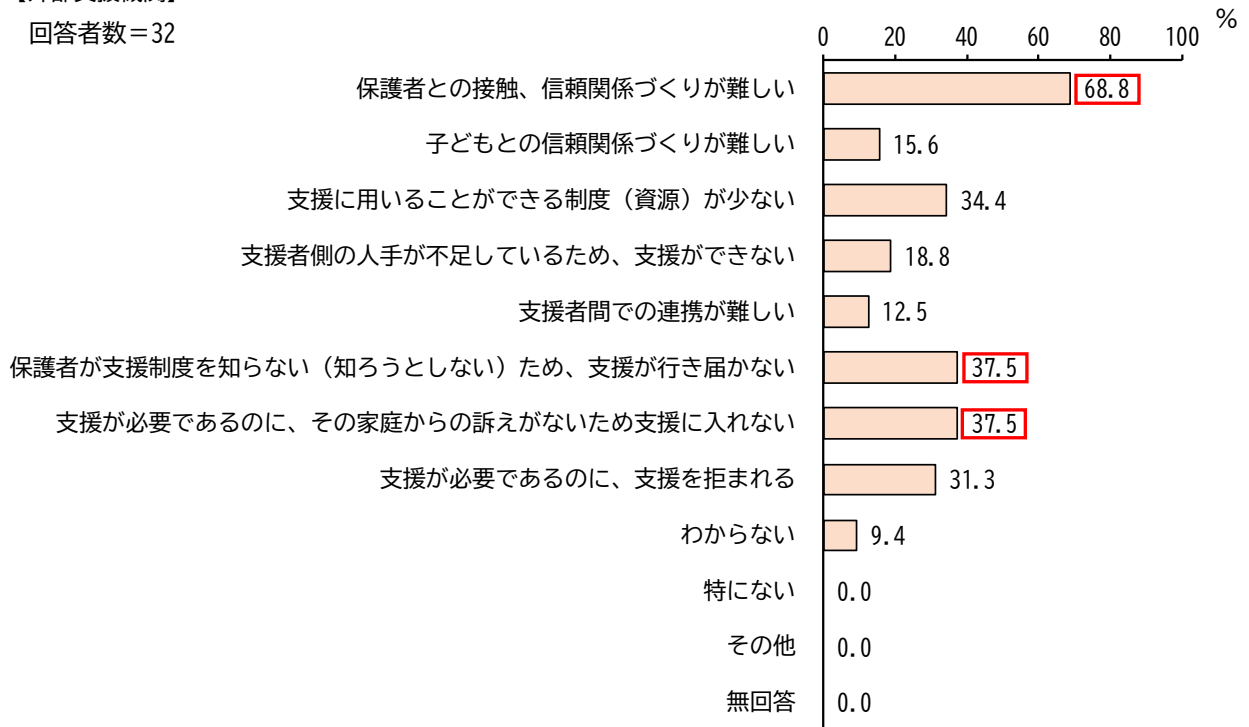
○主なその他意見

- ・今までの実体験の中では園や課内での対応で対処できたため
- ・いまのところ、貧困が原因での相談を受けていないため など

貧困状況にある家庭への支援にあたっての困難な点

【外部支援機関】

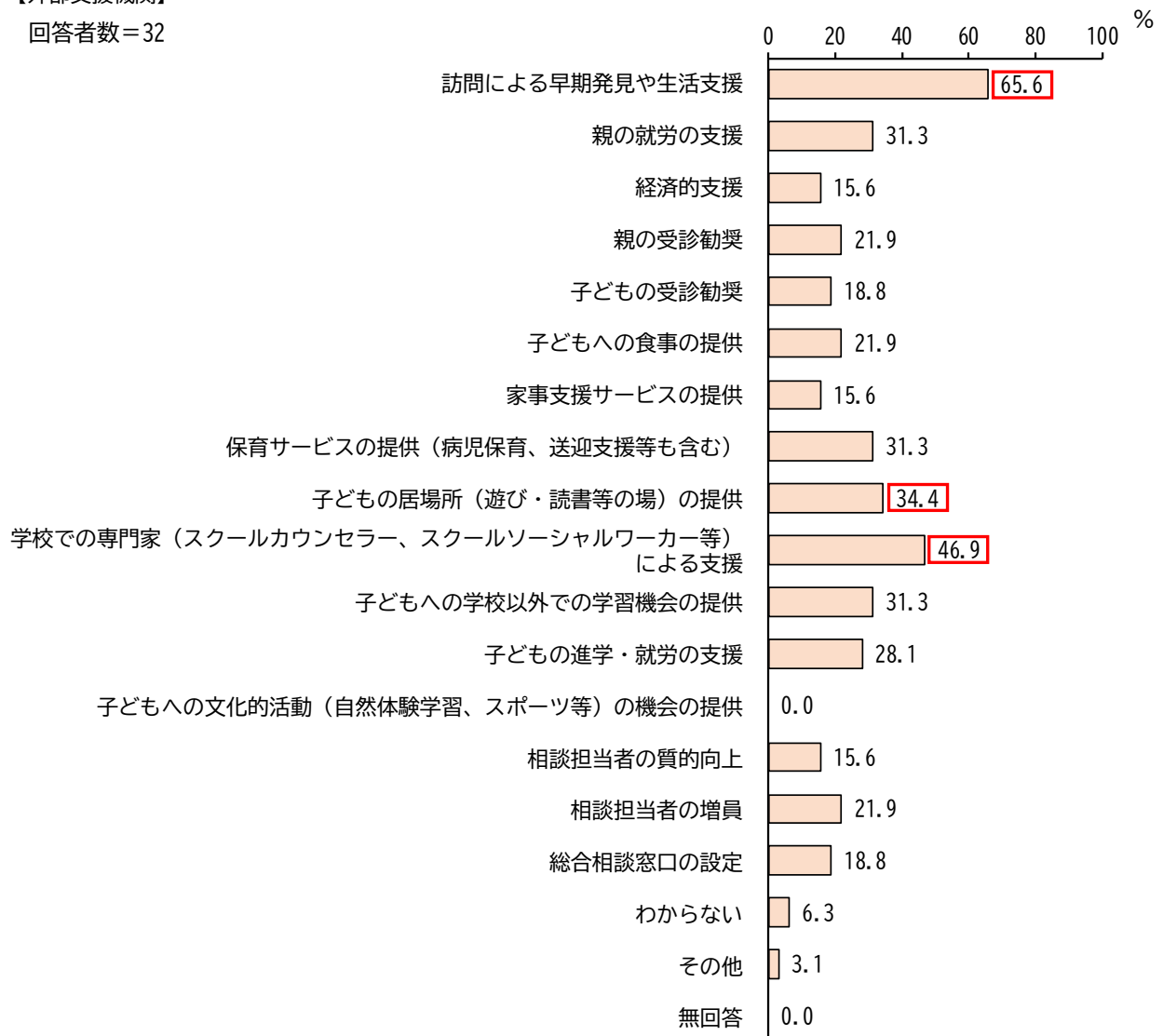
回答者数=32



貧困状況にある子どもや親に対する必要な施策について

【外部支援機関】

回答者数=32



○主なその他意見

- ・親の相談しやすい環境づくり

【課題・方向性】

- ・ 貧困状況にある家庭の子どもにおいて、学校の授業が理解できない様子や、進学を断念している様子がうかがえます。
- ・ 基礎的な学習支援や学習習慣の定着に向けた支援を行っている機関が多くある一方で、他の機関で行っているサービスの情報がないと感じている機関も多いことから、各機関における連携・情報共有の体制を整備し、ネットワークづくりに取り組む必要があります。
- ・ 支援にあたり、多くの機関が保護者との信頼関係づくりに課題を感じていることや、支援が必要であるのに訴えがなく支援できていないことから、支援の利用希望に関わらず、困難を抱えた子どもや家庭における日常の場면을多角的に捉えることで早期に発見し、支援や見守りにつなげていく必要があります。

市川市
子どもの生活状況に関する実態調査報告書
【概要版】
令和5年3月

発行：こども政策部　こども家庭支援課
〒272-8501　市川市八幡 1-1-1　3 階
TEL　047-711-0677
FAX　047-711-1754